

清瀬市地域福祉計画・清瀬市民地域福祉活動計画
策定に向けた調査報告書

令和 8 年 3 月
清 瀬 市

目 次

第1章 調査の枠組み

- 1. 調査の目的 2
- 2. 調査の概要 2
- 3. 報告書の見方 3

第2章 市民調査

- 1. 基本属性 6
- 2. 地域での困りごと、相談先、情報入手先などについて 11
- 3. 地域でのつながり・コミュニティについて 16
- 4. 社会参加・地域活動について 21
- 5. 災害時の対策等について 33
- 6. 権利擁護について 36
- 7. 再犯防止について 39
- 8. 孤独・孤立の状態にある方への支援について 43
- 9. 市の福祉資源について 45
- 10. 最後に（自由記述） 48

第3章 団体調査

- 1. 基本属性（貴団体等について） 52
- 2. 地域福祉について 63
- 3. 清瀬市社会福祉協議会について 74
- 4. 最後に（自由記述） 77

第4章 こども調査 79

- 1. 基本属性 80
- 2. 放課後以降の過ごし方 81
- 3. 困りごとや相談先 85
- 4. 清瀬の将来・未来像について 91

資 料 調査票

- 1. 市民調査 94
- 2. 団体調査 110
- 3. こども調査 122

第1章 調査の枠組み

1. 調査の目的

福祉でいろいろな分野がつながり、地域住民だけでなく、地域にかかわるすべての人たちでまちづくりを進めるため、清瀬市では、「福祉でつなごう 人・まち・地域 ～人と人を結び すべての人に寄り添うまちづくり～」を基本理念とした清瀬市地域福祉計画を推進してきました。また、清瀬市社会福祉協議会では、誰もがぐらしやすい清瀬になるよう、「思いが循環する やさしい清瀬～自分のために が ひとのために～」を目指した清瀬市民地域福祉活動計画を推進してきました。

本調査は、「第5次清瀬市地域福祉計画・第5次清瀬市民地域福祉活動計画」を策定するにあたり、市民の福祉推進に関する考えやご意見を伺い、今後の福祉施策を展開するための基礎資料とするために実施したものです。

2. 調査の概要

- ・調査対象者の抽出基準日は、令和7年9月1日現在です。
- ・住所不明等で不着となった調査票は、調査対象数から除外しています。
- ・調査期間を過ぎた返送分も、可能な限り集計の対象としました。

なお、各調査の実施概要は以下のとおりです。

調査名	市民調査	団体調査	こども調査
対象者	清瀬市にお住いの18歳以上の方の中から無作為抽出	清瀬市または清瀬市社会福祉協議会が把握している活動団体（市民活動グループ、自治会・マンション管理組合、老人会、NPO法人等）を有為抽出	小学4年生～高校1年生相当の中から無作為抽出
対象者数	994件	476件	220件
有効回収数	453件 うち、オンライン回答 209件	299件 うち、オンライン回答 99件	84件 うち、オンライン回答 35件
回収率	45.6%	62.8%	38.2%
記名の有無	無記名式		
調査期間	令和7年10月20日（月）～令和7年11月25日（火）		
調査方法	郵送配布、郵送回収及びオンライン回答		

3. 報告書の見方

○回答率について

- ・グラフ中の「n」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率（％）の母数をあらわします。
- ・百分率（％）は、すべて小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、合計が100％にならない場合があります。
- ・回答者が2つ以上回答することができる設問（複数回答）の場合、その回答率の合計は100％を超えることがあります。
- ・本文中に掲載した図表の単位は、特にことわりのない限り、「％」であらわします。

○単純集計及び分析について

- ・質問ごとに「単純集計」を行い、その特徴等を記述しています。
- ・選択肢の語句が長い場合、本文中や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ・文章中で選択肢を引用する場合は「 」を用い、選択肢の合計を表現する場合は《 》を用いています。
- ・回答率が0.0%の場合や回答率の低い選択肢が続く場合、回答率の記載を省略している場合があります。

○クロス集計及び分析について

- ・各調査の対象者全員の合計を「全体」と表記し、特徴的なものについては、性別、年齢別等の分類でクロス集計表を掲載し、分析を行っています。
- ・クロス集計表においては分類項目の「無回答」の掲載を省略している場合があります。そのため、タテ軸の回答者数の合計値と「全体」の数値は一致しません。

第2章 市民調査

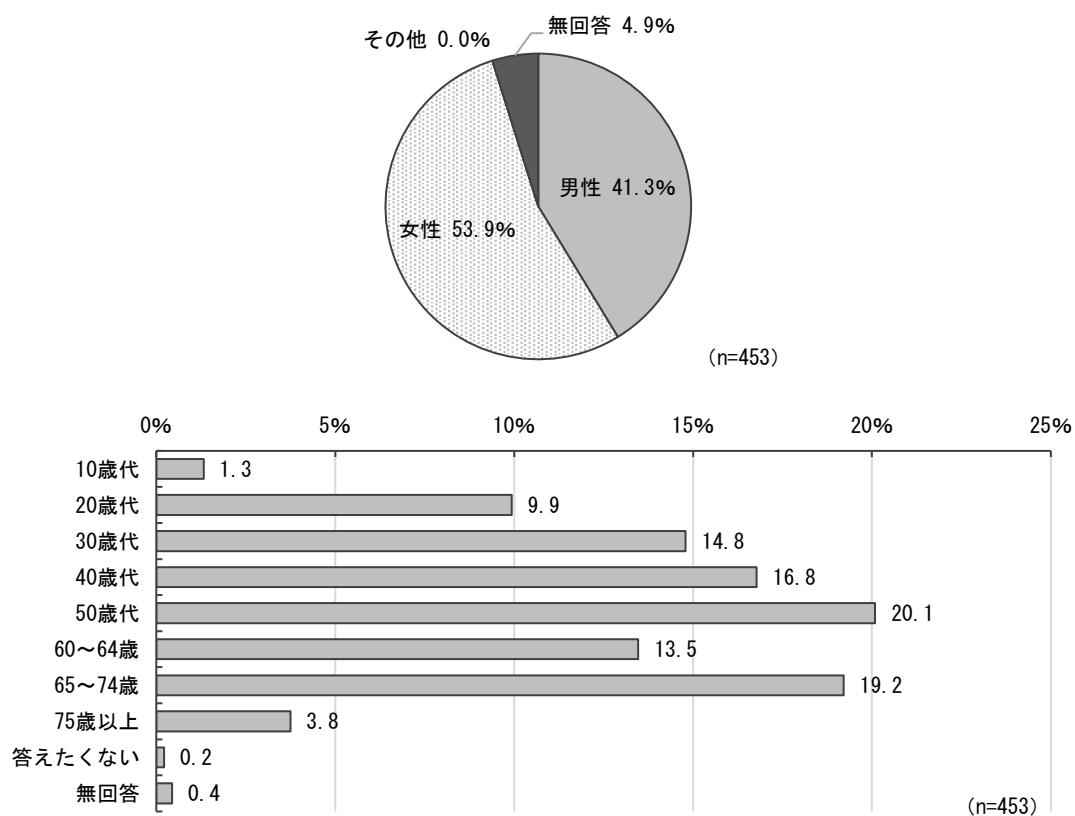
1. 基本属性

問1 あなた（あて名のご本人）の性別と令和7年9月1日現在の年齢について、それぞれ1つに○をしてください。

回答者の性別は、「男性」が41.3%、「女性」が53.9%となっており、「女性」が12.6%多くなっています。

回答者の年齢は、「50 歳代」が20.1%と最も多く、次いで「65～74 歳」が19.2%、「40 歳代」が16.8%となっています。

性別で年齢をみると、男性では「50 歳代」が23.0%と最も多く、次いで「65～74 歳」が20.9%となっており、女性では「50 歳代」が19.3%と最も多く、次いで「40 歳代」と「65～74 歳」が17.2%となっています。

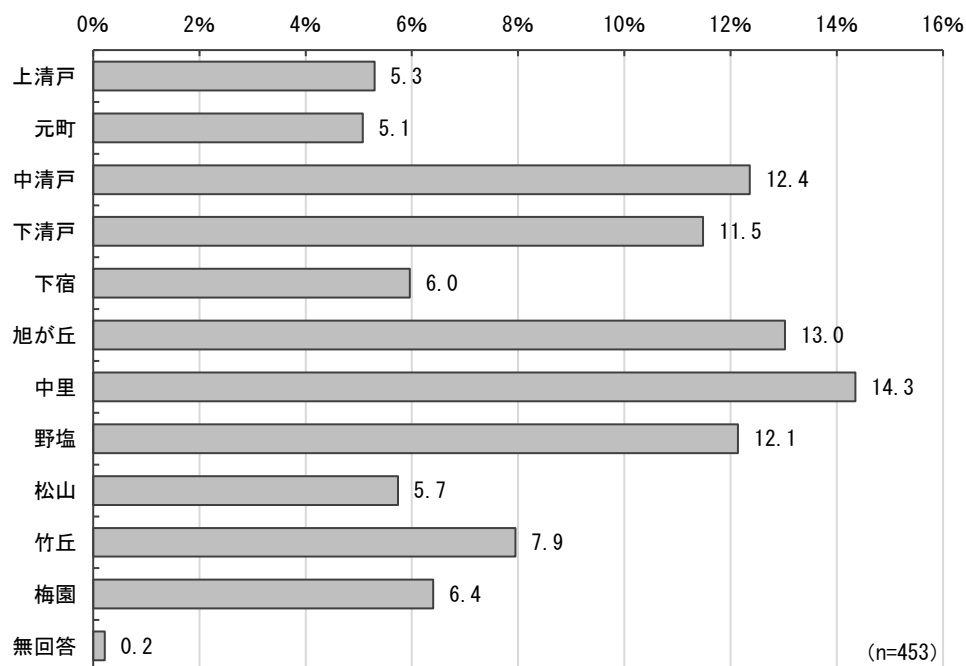


	合計	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～74歳	75歳以上	答えたくない	無回答
全体	453	1.3	9.9	14.8	16.8	20.1	13.5	19.2	3.8	0.2	0.4
①性別											
男性	187	1.1	8.6	13.4	16.6	23.0	15.0	20.9	1.6	0.0	0.0
女性	244	1.6	11.9	16.8	17.2	19.3	11.9	17.2	3.3	0.4	0.4

問2 お住まいの地区を教えてください。(1つに○)

回答者のお住まいの地区では、「中里」が14.3%と最も多く、次いで「旭が丘」が13.0%、「中清戸」が12.4%、「野塩」が12.1%となっています。

性別でみると、男性では「旭が丘」が16.0%と最も多くなっており、女性では「中里」が16.0%と最も多くなっています。



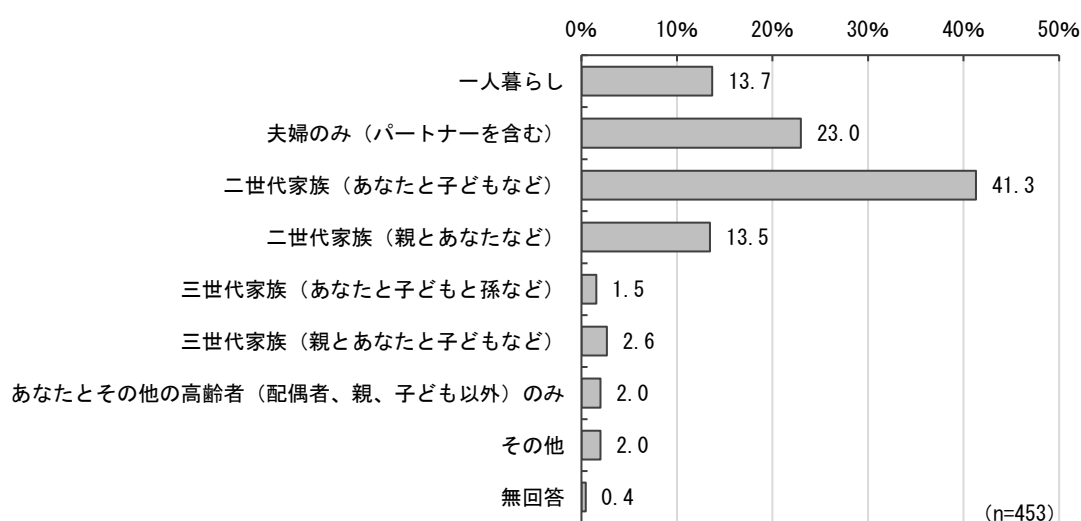
		合計	上清戸	元町	中清戸	下清戸	下宿	旭が丘	中里	野塩	松山	竹丘	梅園	無回答
全体		453	5.3	5.1	12.4	11.5	6.0	13.0	14.3	12.1	5.7	7.9	6.4	0.2
①性別	男性	187	4.8	5.3	11.2	12.8	6.4	16.0	12.8	13.4	5.3	6.4	5.3	0.0
	女性	244	4.9	4.9	13.9	9.8	4.5	11.9	16.0	11.9	6.1	8.6	7.4	0.0
②年齢	10歳代	6	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0
	20歳代	45	8.9	4.4	15.6	8.9	6.7	15.6	8.9	4.4	11.1	6.7	8.9	0.0
	30歳代	67	1.5	6.0	13.4	10.4	7.5	9.0	11.9	17.9	9.0	10.4	3.0	0.0
	40歳代	76	3.9	9.2	11.8	14.5	6.6	10.5	13.2	10.5	3.9	9.2	6.6	0.0
	50歳代	91	6.6	3.3	15.4	9.9	3.3	15.4	13.2	12.1	4.4	8.8	7.7	0.0
	60～64歳	61	3.3	4.9	11.5	13.1	6.6	13.1	19.7	9.8	6.6	6.6	4.9	0.0
	65～74歳	87	6.9	3.4	10.3	13.8	3.4	14.9	17.2	14.9	3.4	4.6	6.9	0.0
	75歳以上	17	11.8	0.0	0.0	5.9	17.6	11.8	11.8	11.8	5.9	17.6	5.9	0.0

問3 家族構成を教えてください。(1つに○)

家族構成では、「二世世代家族（あなたと子どもなど）」が41.3%と最も多く、次いで「夫婦のみ（パートナーを含む）」が23.0%、「一人暮らし」が13.7%となっています。

年代別でみると、10歳代・20歳代では「二世世代家族（親とあなたなど）」、30歳代から50歳代までが「二世世代家族（あなたと子どもなど）」、60歳以上では「夫婦のみ（パートナーを含む）」がそれぞれ最も多くなっています。

また、「その他」の意見には、「兄弟姉妹」「三世世代家族（祖父母と親と本人）」などがありました。

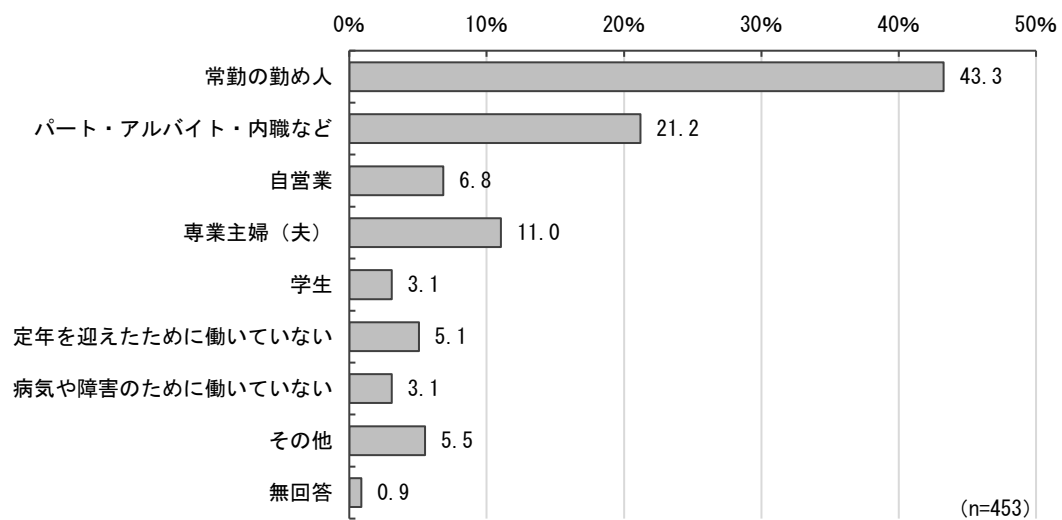


		合計	一人暮らし	夫婦のみ（パートナーを含む）	二世世代家族（あなたと子どもなど）	二世世代家族（親とあなたなど）	三世世代家族（あなたと子どもと孫など）	三世世代家族（親とあなたと子どもなど）	あなたとその他の高齢者（配偶者、親、子ども以外）のみ	その他	無回答
	全体	453	13.7	23.0	41.3	13.5	1.5	2.6	2.0	2.0	0.4
①性別	男性	187	18.7	22.5	38.5	15.5	0.5	1.6	1.6	0.5	0.5
	女性	244	10.2	22.5	43.4	12.7	2.0	3.7	2.5	2.9	0.0
②年齢	10歳代	6	16.7	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	20歳代	45	20.0	13.3	2.2	46.7	2.2	6.7	2.2	6.7	0.0
	30歳代	67	6.0	10.4	61.2	19.4	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	76	7.9	9.2	68.4	9.2	0.0	1.3	1.3	2.6	0.0
	50歳代	91	12.1	9.9	52.7	14.3	1.1	3.3	3.3	3.3	0.0
	60～64歳	61	16.4	41.0	32.8	3.3	1.6	3.3	1.6	0.0	0.0
	65～74歳	87	20.7	48.3	20.7	0.0	4.6	1.1	3.4	0.0	1.1
	75歳以上	17	17.6	41.2	41.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問4 職業を教えてください。(1つに○)

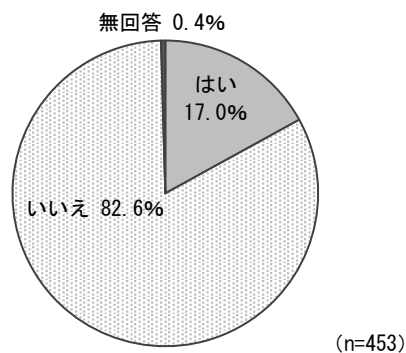
回答者の職業では、「常勤の勤め人」が43.3%と最も多く、次いで「パート・アルバイト・内職など」が21.2%、「専業主婦（夫）」が11.0%となっています。

また、「その他」の意見には、「役員」「ニート」「就職活動中」などがありました。



問5 あなたの家族構成のうち、支援を必要とする人がいますか。(1つに○)

家族構成のうち、支援を必要とする人の有無については、「はい」が17.0%、「いいえ」が82.6%となっています。

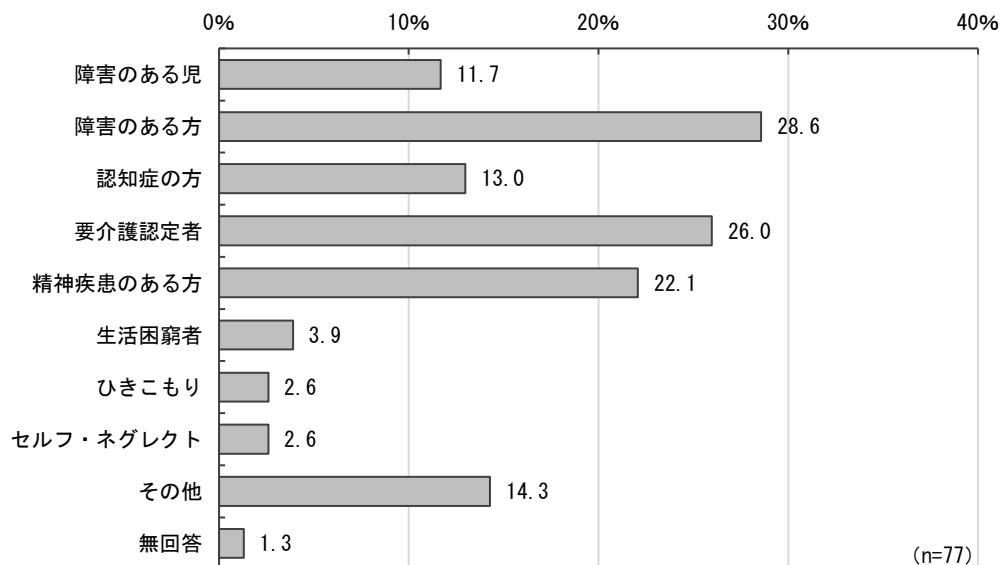


問5で「1. はい」の方におうかがいします。

(1) 支援を必要とする方は、具体的にどのような方ですか。(あてはまるものすべてに○)

支援を必要とする家族については、「障害のある方」が28.6%と最も多く、次いで「要介護認定者」が26.0%、「精神疾患のある方」が22.1%となっています。

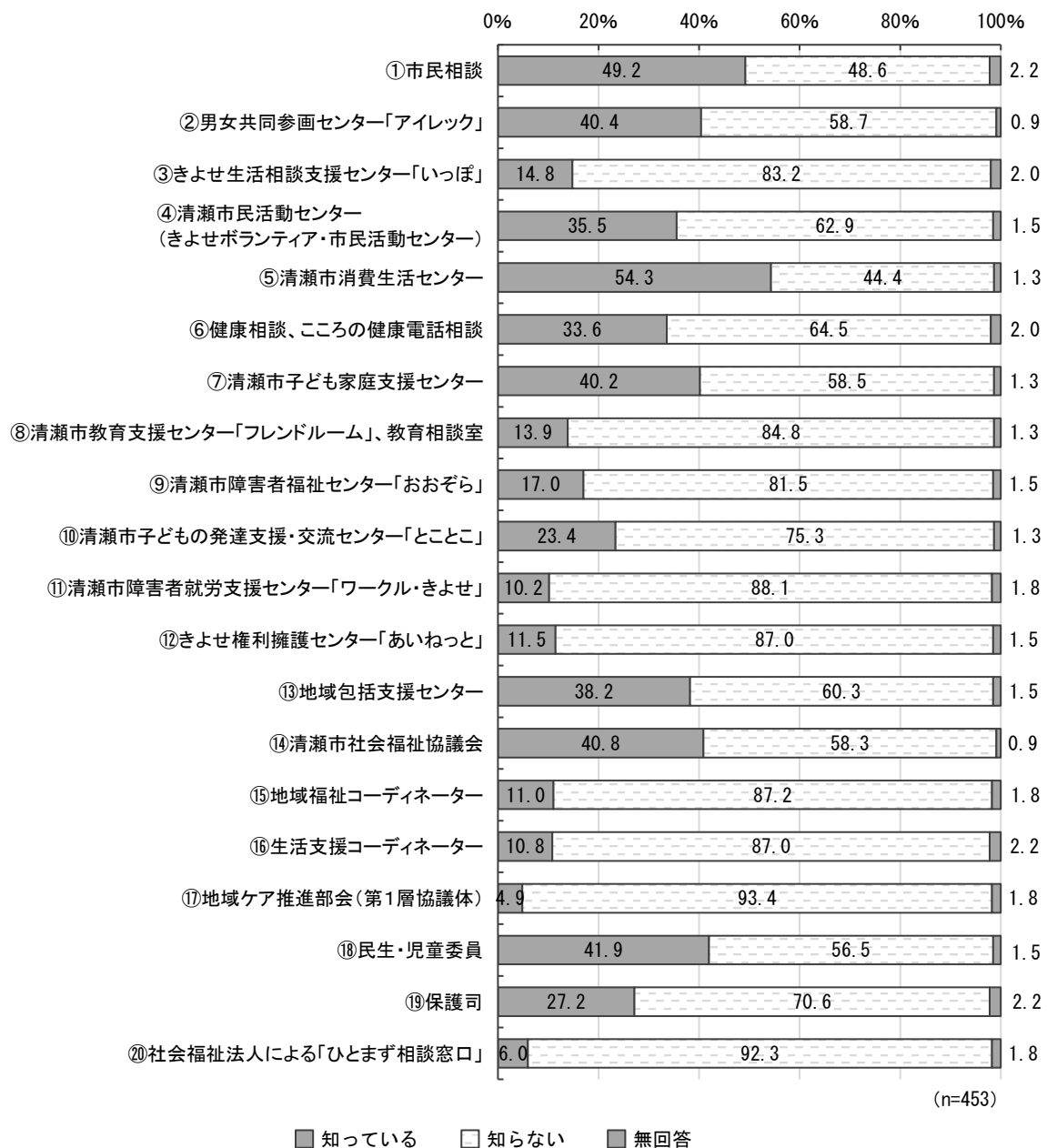
また、「その他」の意見には、「病気療養中」「ペット」「不登校」などがありました。



2. 地域での困りごと、相談先、情報入手先などについて

問6 あなたは、以下の相談先（①～⑳）を知っていますか。（それぞれ1つに○）

知られている相談先については、「清瀬市消費生活センター」が54.3%と最も多く、次いで「市民相談」が49.2%、「民生・児童委員」が41.9%となっています。一方、「地域ケア推進部会（第1層協議体）」が4.9%と最も少なく、次いで「社会福祉法人による『ひとまず相談窓口』」が6.0%、「清瀬市障害者就労支援センター『ワークル・きよせ』」が10.2%となっています。

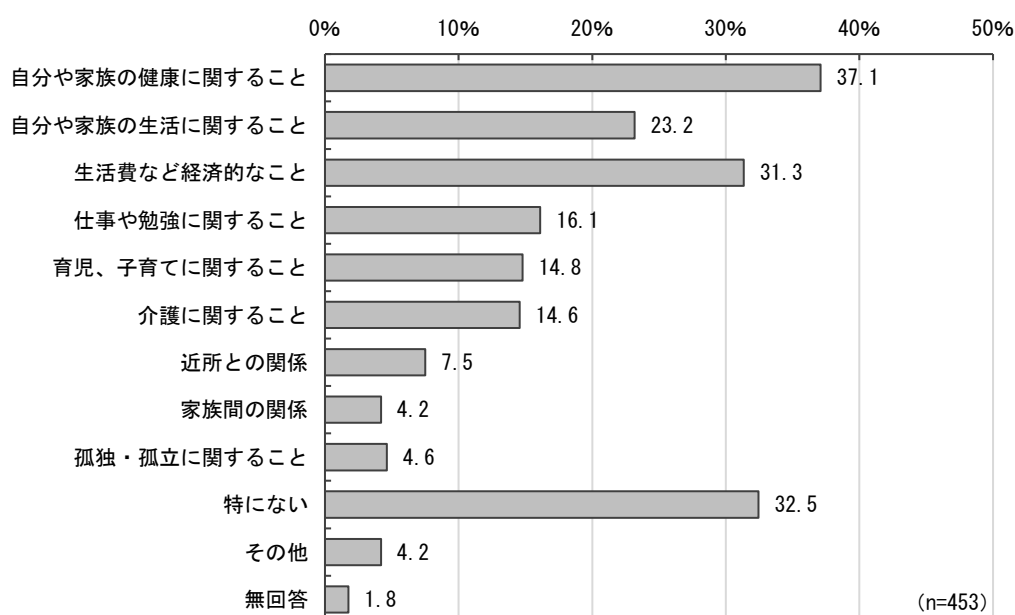


問7 あなたが、毎日の暮らしの中で感じている困りごとがあれば、教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

毎日の暮らしの中で感じている困りごとについては、「自分や家族の健康に関すること」が37.1%と最も多く、次いで「特にない」が32.5%、「生活費など経済的なこと」が31.3%となっています。

年代別でみると、20歳代から40歳代では「生活費など経済的なこと」が最も多く、50歳代以上では「特にない」を除き「自分や家族の健康に関すること」が最も多くなっています。

また、「その他」の意見には、「将来の不安」「ムクドリ、ハクビシン等の鳥獣被害」「親戚付き合い」「近隣の迷惑行為」などがありました。

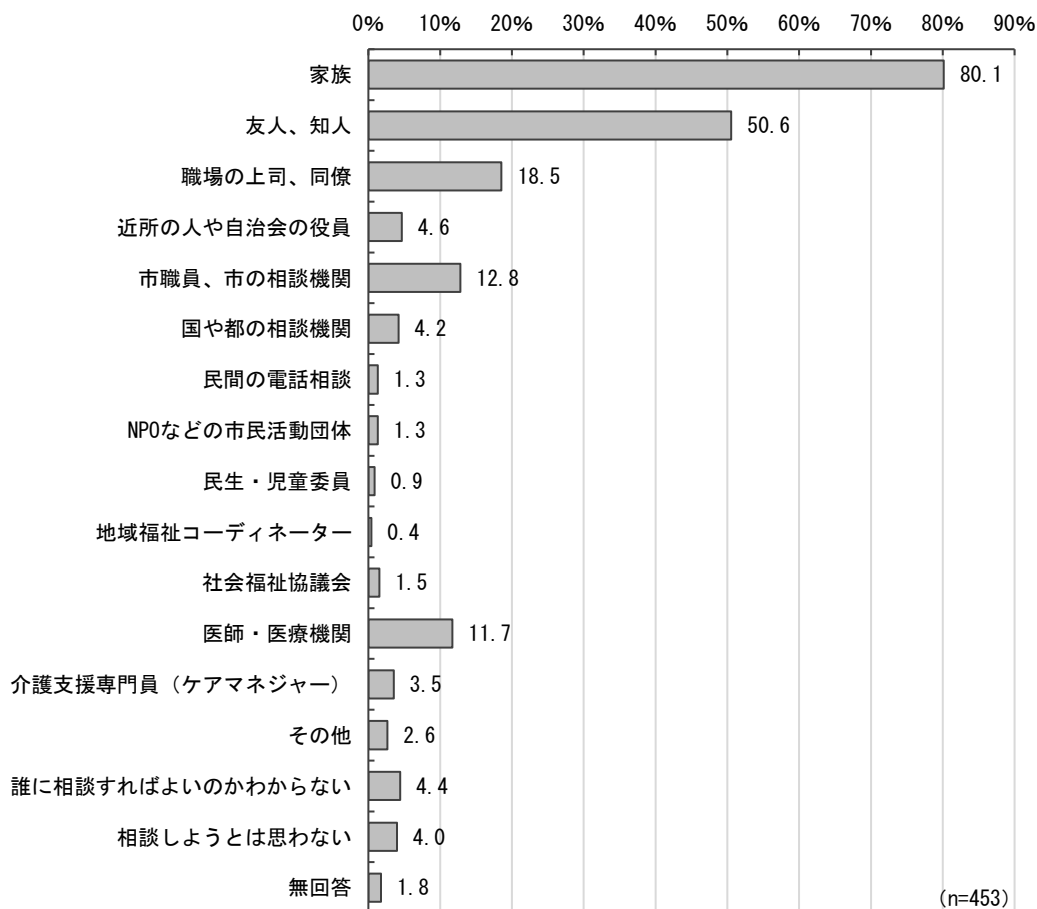


		合計	自分や家族の健康に関すること	自分や家族の生活に関すること	生活費など経済的なこと	仕事や勉強に関すること	育児、子育てに関すること	介護に関すること	近所との関係	家族間の関係	孤独・孤立に関すること	特にない	その他
全体		453	37.1	23.2	31.3	16.1	14.8	14.6	7.5	4.2	4.6	32.5	4.2
①性別	男性	187	35.3	23.5	30.5	16.6	12.3	12.3	9.6	2.1	8.0	32.6	5.9
	女性	244	38.9	23.4	33.2	16.4	18.0	15.2	4.9	5.7	2.5	31.1	3.3
②年齢	10歳代	6	33.3	33.3	33.3	50.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0
	20歳代	45	28.9	22.2	42.2	28.9	15.6	6.7	2.2	6.7	4.4	37.8	0.0
	30歳代	67	34.3	29.9	50.7	25.4	40.3	4.5	9.0	3.0	0.0	17.9	3.0
	40歳代	76	25.0	27.6	40.8	25.0	31.6	10.5	6.6	5.3	2.6	26.3	3.9
	50歳代	91	46.2	24.2	29.7	16.5	6.6	25.3	7.7	5.5	5.5	33.0	3.3
	60～64歳	61	37.7	26.2	23.0	8.2	1.6	13.1	8.2	1.6	4.9	39.3	6.6
	65～74歳	87	43.7	14.9	13.8	0.0	2.3	17.2	8.0	3.4	8.0	37.9	6.9
	75歳以上	17	41.2	0.0	17.6	5.9	0.0	23.5	17.6	0.0	11.8	47.1	5.9

問8 あなたに困りごとがある場合、誰に相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

困りごとがある場合の相談相手については、「家族」が80.1%と最も多く、次いで「友人、知人」が50.6%、「職場の上司、同僚」が18.5%となっています。一方、「誰に相談すればよいのかわからない」が4.4%、「相談しようとは思わない」が4.0%となっています。

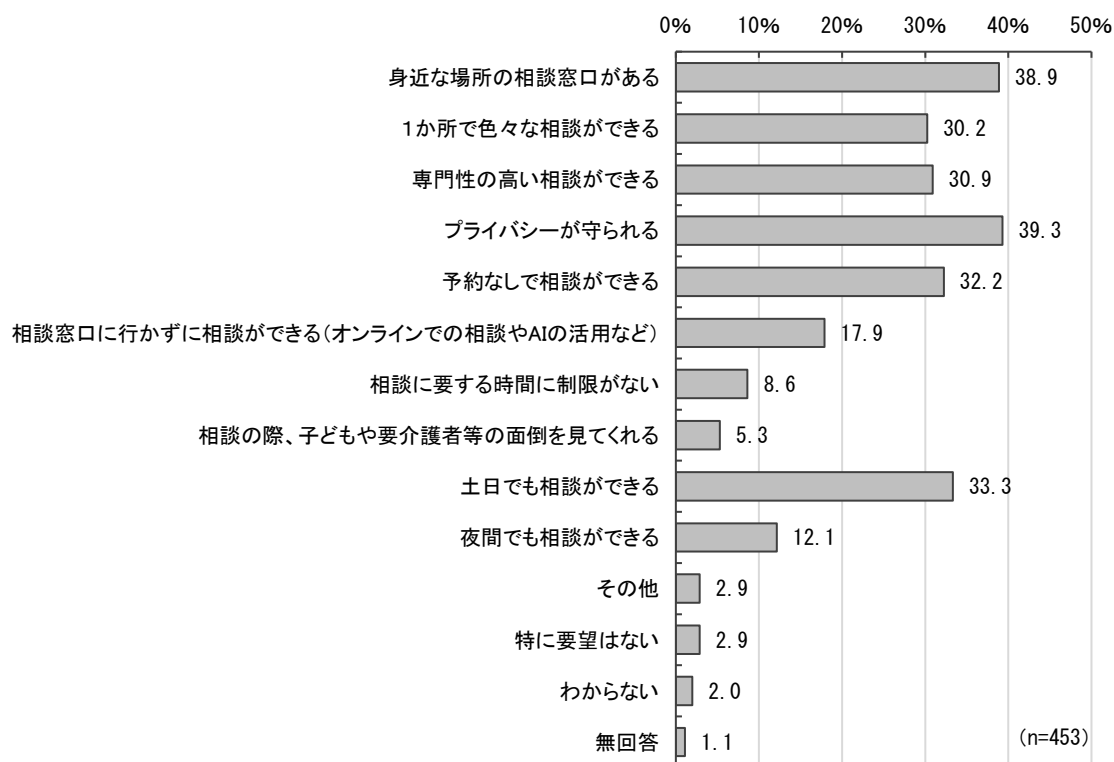
また、「その他」の意見には、「生成AI」「警察」「(子どもが通う)学校の先生」「利用施設の職員」などがありました。



問9 市役所などの相談窓口へ相談しやすくするために、必要だと思うことは何ですか。
(3つまでに○)

市役所などの相談窓口へ相談しやすくするために必要なことでは、「プライバシーが守られる」が39.3%と最も多く、次いで「身近な場所の相談窓口がある」が38.9%、「土日でも相談ができる」が33.3%、「予約なしで相談ができる」が32.2%となっています。

また、「その他」の意見には、「利便性がいい」「相談場所がわからない」「全部」がありました。



性別でみると、男性では「土日でも相談ができる」が最も多くなっており、女性では「プライバシーが守られる」が最も多くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「プライバシーが守られる」、「身近な場所の相談窓口がある」が多くなっており、30歳代から50歳代では「土日でも相談ができる」、65歳以上では「予約なしで相談ができる」が多くなっています。

		合計	身近な場所の相談窓口がある	1か所で色々な相談ができる	専門性の高い相談ができる	プライバシーが守られる	予約なしで相談ができる	相談窓口に行かずに相談ができる（オンラインでの相談やAIの活用など）	相談に要する時間に制限がない
全体		453	38.9	30.2	30.9	39.3	32.2	17.9	8.6
①性別	男性	187	34.2	29.9	33.7	30.5	34.2	16.6	5.9
	女性	244	42.2	31.1	29.5	46.3	29.9	20.1	10.2
②年齢	10歳代	6	83.3	16.7	33.3	66.7	16.7	0.0	16.7
	20歳代	45	37.8	28.9	26.7	37.8	24.4	17.8	8.9
	30歳代	67	34.3	14.9	37.3	41.8	32.8	26.9	9.0
	40歳代	76	36.8	27.6	31.6	36.8	28.9	17.1	11.8
	50歳代	91	35.2	28.6	30.8	44.0	36.3	17.6	8.8
	60～64歳	61	39.3	34.4	37.7	37.7	27.9	21.3	4.9
	65～74歳	87	47.1	47.1	24.1	35.6	37.9	12.6	6.9
	75歳以上	17	29.4	23.5	23.5	29.4	41.2	5.9	11.8

		合計	相談の際、子どもや要介護者等の面倒を見られる	土日でも相談ができる	夜間でも相談ができる	その他	特に要望はない	わからない	無回答
全体		453	5.3	33.3	12.1	2.9	2.9	2.0	1.1
①性別	男性	187	3.7	40.1	13.9	2.1	4.3	2.7	0.0
	女性	244	6.6	29.5	10.2	3.7	1.2	1.2	1.6
②年齢	10歳代	6	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	45	2.2	26.7	11.1	6.7	4.4	0.0	0.0
	30歳代	67	17.9	41.8	13.4	6.0	3.0	4.4	2.2
	40歳代	76	5.3	46.1	17.1	1.3	2.6	0.0	0.0
	50歳代	91	4.4	41.8	17.6	2.2	0.0	0.0	1.3
	60～64歳	61	4.9	26.2	13.1	3.3	1.6	2.2	0.0
	65～74歳	87	0.0	20.7	3.4	1.1	3.4	1.6	0.0
	75歳以上	17	0.0	11.8	0.0	0.0	17.6	4.6	0.0

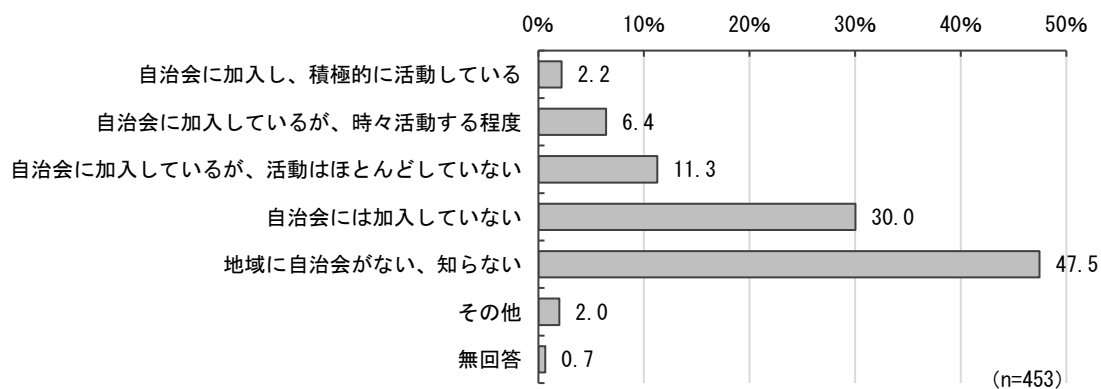
3. 地域でのつながり・コミュニティについて

問 10 あなたは、自治会に加入していますか。(1つに○)

自治会の加入状況は、「地域に自治会がない、知らない」が47.5%と最も多く、次いで「自治会には加入していない」が30.0%、「自治会に加入しているが、活動はほとんどしていない」が11.3%となっており、「自治会に加入し、積極的に活動している」、「自治会に加入しているが、時々活動する程度」、「自治会に加入しているが、活動はほとんどしていない」を合わせた《自治会に加入している》は、19.9%となっています。

年代別でみると、20歳代以上のいずれの年代も「地域に自治会がない、知らない」が最も多くなっています。《自治会に加入している》は65歳以上で3割程度となっていますが、20歳代と30歳代では1割以下となっています。

また、「その他」の意見には、「自治会は解散した・ない」「活動をしているか、不明」などがありました。

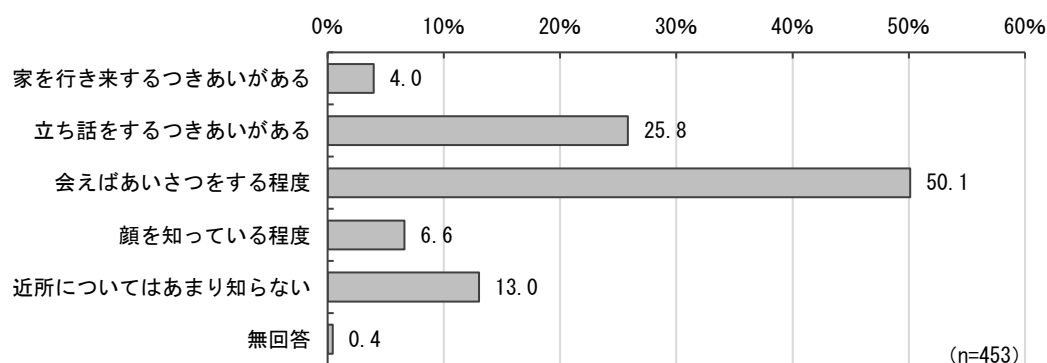


		合計	自治会に加入し、積極的に活動している	自治会に加入しているが、時々活動する程度	自治会に加入しているが、活動はほとんどしていない	自治会には加入していない	地域に自治会がない、知らない	その他	無回答	《自治会に加入している》(参考)
	全体	453	2.2	6.4	11.3	30.0	47.5	2.0	0.7	19.9
①性別	男性	187	3.2	5.9	9.6	32.1	47.6	1.1	0.5	18.7
	女性	244	1.2	5.3	12.7	27.5	49.6	2.9	0.8	19.2
②年齢	10歳代	6	0.0	0.0	16.7	83.3	0.0	0.0	0.0	16.7
	20歳代	45	0.0	2.2	4.4	42.2	46.7	2.2	2.2	6.6
	30歳代	67	0.0	0.0	6.0	35.8	56.7	1.5	0.0	6.0
	40歳代	76	2.6	6.6	10.5	26.3	53.9	0.0	0.0	19.7
	50歳代	91	4.4	2.2	12.1	27.5	53.8	0.0	0.0	18.7
	60～64歳	61	3.3	6.6	16.4	26.2	44.3	1.6	1.6	26.3
	65～74歳	87	1.1	14.9	16.1	26.4	35.6	4.6	1.1	32.1
	75歳以上	17	5.9	17.6	5.9	23.5	35.3	11.8	0.0	29.4

問 11 ご近所づきあいは、次のどれにあてはまりますか。(1つに○)

ご近所づきあいの状況では、「会えばあいさつをする程度」が50.1%と最も多く、次いで「立ち話をするつきあいがある」が25.8%、「近所についてはあまり知らない」が13.0%となっています。

年代別でみると、75歳以上では「立ち話をするつきあいがある」が最も多く、他の年代では「会えばあいさつをする程度」が最も多くなっています。

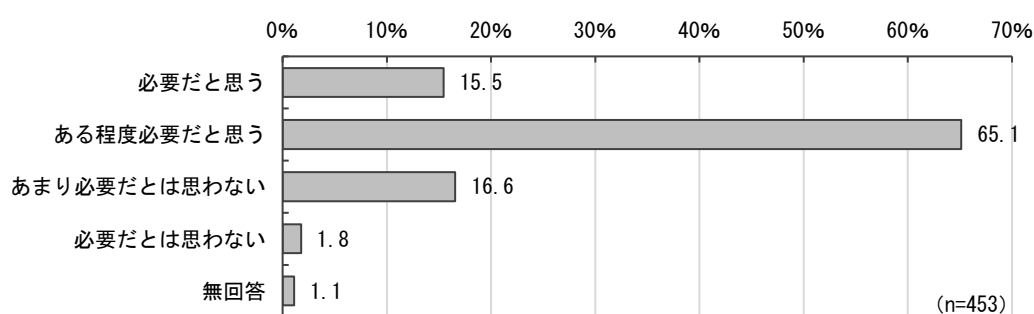


		合計	家を行き来するつきあいがある	立ち話をするつきあいがある	会えばあいさつをする程度	顔を知っている程度	近所についてはあまり知らない	無回答
	全体	453	4.0	25.8	50.1	6.6	13.0	0.4
①性別	男性	187	4.3	18.7	55.1	9.6	11.8	0.5
	女性	244	3.7	30.3	47.1	4.5	13.9	0.4
②年齢	10歳代	6	0.0	0.0	50.0	33.3	16.7	0.0
	20歳代	45	0.0	6.7	53.3	11.1	28.9	0.0
	30歳代	67	4.5	20.9	50.7	4.5	19.4	0.0
	40歳代	76	11.8	22.4	47.4	5.3	13.2	0.0
	50歳代	91	1.1	23.1	60.4	6.6	8.8	0.0
	60～64歳	61	3.3	26.2	54.1	8.2	6.6	1.6
	65～74歳	87	3.4	39.1	41.4	4.6	10.3	1.1
	75歳以上	17	0.0	64.7	35.3	0.0	0.0	0.0

問 12 地域で安心して生活していくために、住民相互の自主的な協力関係が必要だと思いますか。(最も近い考え1つに○)

住民相互の自主的な協力関係の必要性については、「ある程度必要だと思う」が65.1%と最も多く、次いで「あまり必要だと思わない」が16.6%、「必要だと思う」が15.5%となっており、「必要だと思う」と「ある程度必要だと思う」を合わせた《必要》は80.6%、「あまり必要だと思わない」と「必要だとは思わない」を合わせた《必要だと思わない》は18.4%となっています。

年代別でみると、いずれの年代も《必要》は7割以上となっており、65～74歳で87.4%と最も多くなっています。



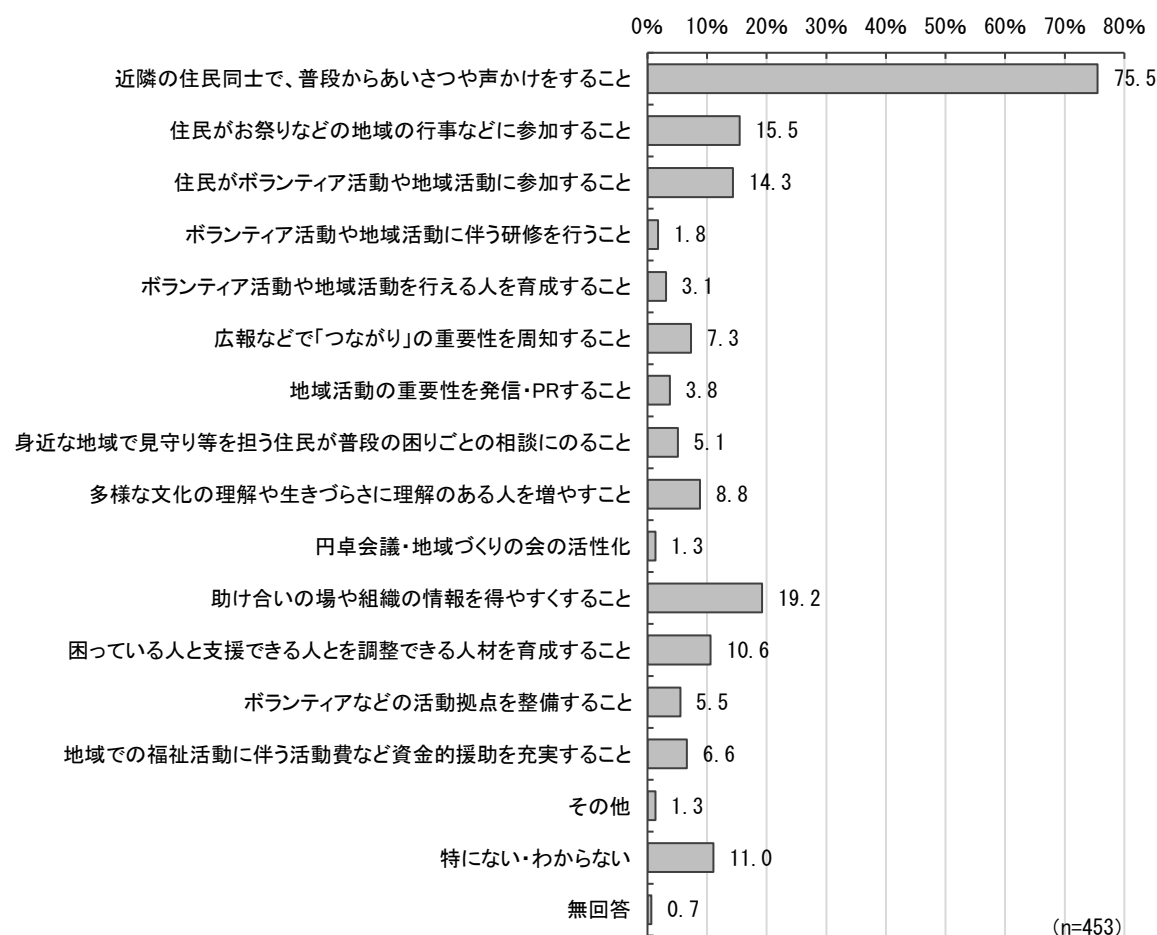
		合計	必要 だと思 う	ある 程度必 要だと思 う	必要 だと思 わな い	あま り必要 だと思 わな い	必要 だと思 わな い	無 回 答	《必要》 (参考)	《必要だ と思わな い》 (参考)
	全体	453	15.5	65.1	16.6	1.8	1.1		80.6	18.4
①性別	男性	187	18.2	60.4	18.2	2.1	1.1		78.6	20.3
	女性	244	13.5	68.4	15.6	1.6	0.8		82.0	17.2
②年齢	10歳代	6	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0		83.3	16.7
	20歳代	45	15.6	55.6	22.2	6.7	0.0		71.1	28.9
	30歳代	67	7.5	67.2	20.9	1.5	3.0		74.6	22.4
	40歳代	76	21.1	63.2	14.5	1.3	0.0		84.2	15.8
	50歳代	91	9.9	68.1	20.9	0.0	1.1		78.0	20.9
	60～64歳	61	13.1	70.5	13.1	3.3	0.0		83.6	16.4
	65～74歳	87	20.7	66.7	9.2	1.1	2.3		87.4	10.3
	75歳以上	17	23.5	58.8	17.6	0.0	0.0		82.4	17.6

問 13 地域でのつながりをつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(3つまでに○)

地域でのつながりをつくるために必要なことでは、「近隣の住民同士で、普段からあいさつや声かけをすること」が75.5%と最も多く、次いで「助け合いの場や組織の情報を得やすくすること」が19.2%、「住民がお祭りなどの地域の行事などに参加すること」が15.5%となっています。

年代別でみると、いずれの年代も「近隣の住民同士で、普段からあいさつや声かけをすること」が最も多くなっています。また、20歳代から40歳代では「住民がお祭りなどの地域の行事などに参加すること」、50歳代から64歳まででは「助け合いの場や組織の情報を得やすくすること」、65歳以上では「住民がボランティア活動や地域活動に参加すること」がそれぞれ2番目に多くなっています。

また、「その他」の意見には、「明るいおせっかいなおばちゃんが多く住んでいて、なんだかんだ気にかけてくれること」「過干渉にならない仕組み」「時間を割きたくない」などがありました。



		合計	近隣の住民同士で、普段からあいさつや声かけをすること	住民がお祭りなどの地域の行事などに参加すること	住民がボランティア活動や地域活動に参加すること	ボランティア活動や地域活動に伴う研修を行うこと	ボランティア活動や地域活動を行える人を育成すること	広報などで「つながり」の重要性を周知すること	地域活動の重要性を発信・PRすること	身近な地域で見守り等を担う住民が普段の困りごとの相談にのること
全体		453	75.5	15.5	14.3	1.8	3.1	7.3	3.8	5.1
①性別	男性	187	74.9	17.1	14.4	2.1	3.2	7.5	3.7	5.3
	女性	244	75.8	14.3	14.3	1.2	3.3	7.0	3.7	4.1
②年齢	10 歳代	6	66.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7
	20 歳代	45	71.1	24.4	22.2	2.2	4.4	2.2	2.2	0.0
	30 歳代	67	70.1	22.4	6.0	1.5	0.0	4.5	1.5	9.0
	40 歳代	76	78.9	22.4	7.9	1.3	2.6	3.9	3.9	6.6
	50 歳代	91	74.7	11.0	7.7	3.3	4.4	11.0	3.3	3.3
	60～64 歳	61	80.3	14.8	19.7	0.0	1.6	9.8	3.3	3.3
	65～74 歳	87	77.0	8.0	23.0	2.3	4.6	8.0	5.7	5.7
	75 歳以上	17	76.5	5.9	35.3	0.0	0.0	17.6	11.8	5.9

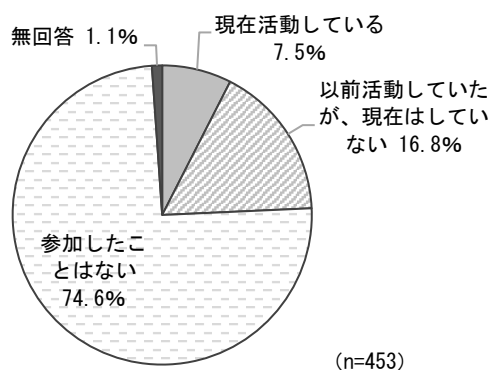
		合計	多様な文化の理解や生きづらさに理解のある人を増やすこと	円卓会議・地域づくりの会の活性化	助け合いの場や組織の情報を得やすくすること	困っている人と支援できる人とを調整できる人材を育成すること	ボランティアなどの活動拠点を整備すること	地域での福祉活動に伴う活動費など資金的援助を充実すること	その他	特にない・わからない
全体		453	8.8	1.3	19.2	10.6	5.5	6.6	1.3	11.0
①性別	男性	187	5.9	1.1	12.8	7.0	7.0	8.0	0.5	13.4
	女性	244	11.5	1.6	24.2	13.5	4.5	5.7	2.0	9.4
②年齢	10 歳代	6	0.0	0.0	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	33.3
	20 歳代	45	8.9	2.2	11.1	8.9	2.2	2.2	2.2	11.1
	30 歳代	67	7.5	1.5	16.4	4.5	1.5	9.0	3.0	14.9
	40 歳代	76	9.2	1.3	15.8	15.8	5.3	6.6	2.6	9.2
	50 歳代	91	11.0	1.1	19.8	7.7	8.8	8.8	1.1	8.8
	60～64 歳	61	4.9	1.6	26.2	14.8	8.2	6.6	0.0	11.5
	65～74 歳	87	11.5	1.1	21.8	10.3	3.4	4.6	0.0	11.5
	75 歳以上	17	5.9	0.0	11.8	11.8	5.9	11.8	0.0	5.9

4. 社会参加・地域活動について

問 14 ボランティア活動や地域活動に参加したことがありますか。(1つに○)

ボランティア活動や地域活動への参加状況では、「参加したことはない」が74.6%と最も多く、次いで「以前活動していたが、現在はしていない」が16.8%、「現在活動している」が7.5%となっています。

年代別でみると、いずれの年代も「参加したことはない」が半数以上となっています。また、60歳以上では「現在活動している」が1割程度となっていますが、50歳代以下では1割以下となり20歳代以下では0.0%となっています。

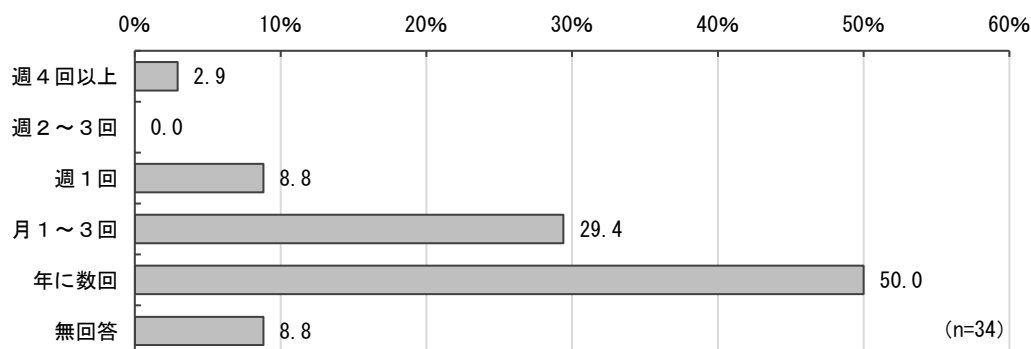


		合計	現在活動している	以前活動していたが、 現在はしていない	参加したことはない	無回答	(参考) 《活動したことがある》
	全体	453	7.5	16.8	74.6	1.1	24.3
①性別	男性	187	5.3	13.4	80.7	0.5	18.7
	女性	244	8.6	17.6	72.5	1.2	26.2
②年齢	10歳代	6	0.0	16.7	83.3	0.0	16.7
	20歳代	45	0.0	31.1	68.9	0.0	31.1
	30歳代	67	4.5	17.9	77.6	0.0	22.4
	40歳代	76	7.9	13.2	76.3	2.6	21.1
	50歳代	91	3.3	11.0	85.7	0.0	14.3
	60～64歳	61	13.1	16.4	70.5	0.0	29.5
	65～74歳	87	12.6	16.1	69.0	2.3	28.7
	75歳以上	17	17.6	23.5	52.9	5.9	41.1

問 14 で「1. 現在活動している」の方にうかがいます。

(1) どれくらいの頻度で参加していますか。(1つに○)

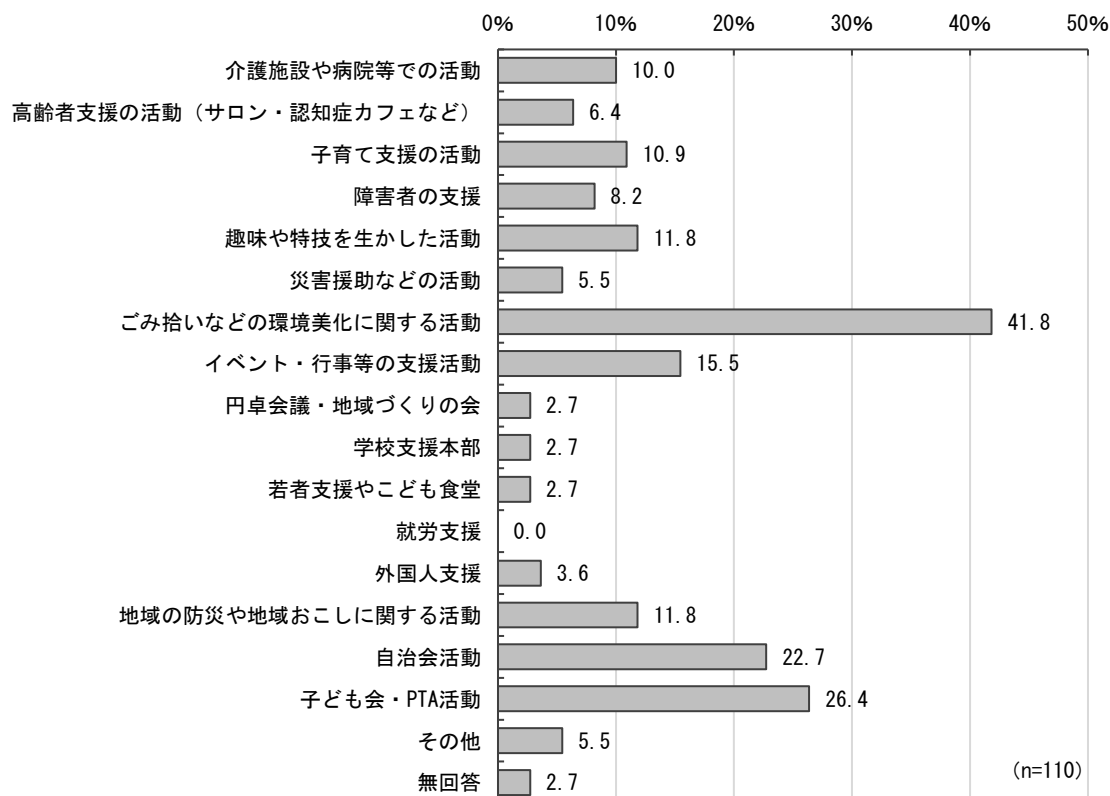
現在ボランティア活動等に参加している方の参加頻度では「年に数回」が 50.0%と最も多く、次いで「月1～3回」が 29.4%となっています。



問 14 で1または2の方（ボランティア活動等に参加したことがある方）にうかがいます。

(2) どのような活動に参加したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

参加したことがあるボランティア活動等の内容では、「ごみ拾いなどの環境美化に関する活動」が 41.8%と最も多く、次いで「子ども会・PTA 活動」が 26.4%、「自治会活動」が 22.7%となっています。また、「その他」の意見には、「こどもの学習支援」「保育園ボランティア」などがありました。

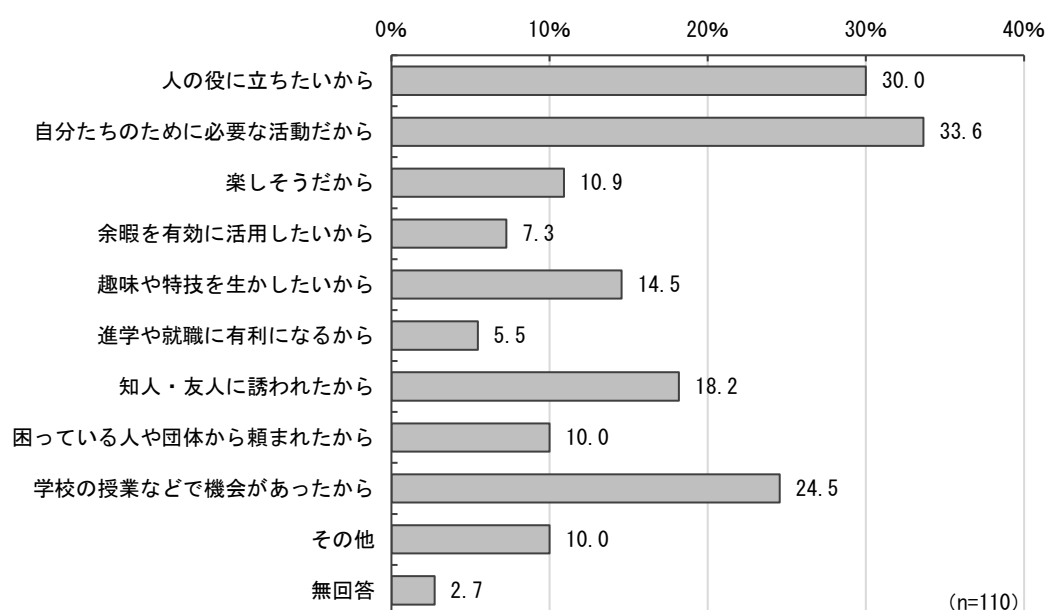


問 14 で1 または2 の方（ボランティア活動等に参加したことがある方）にうかがいます。
 （3）ボランティア活動等に参加したきっかけを教えてください。（あてはまるものすべてに○）

ボランティア活動等に参加したきっかけでは、「自分たちのために必要な活動だから」が33.6%と最も多く、次いで「人の役に立ちたいから」が30.0%、「学校の授業などで機会があったから」が24.5%となっています。

年代別でみると、「学校の授業などで機会があったから」では50歳代以下、「知人・友人に誘われたから」では40歳代で多くなっています。

また、「その他」の意見には、「自治会の活動だったから」「職場での活動だったから」などがありました。

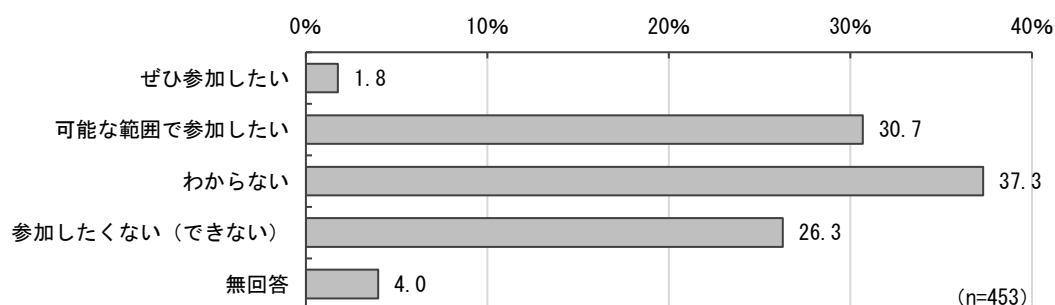


		合計	人の役に立ちたいから	自分たちのために必要な活動だから	楽しそうだから	余暇を有効に活用したいから	趣味や特技を生かしたいから	進学や就職に有利になるから	知人・友人に誘われたから	困っている人や団体から頼まれたから	学校の授業などで機会があったから	その他	無回答
全体		110	30.0	33.6	10.9	7.3	14.5	5.5	18.2	10.0	24.5	10.0	2.7
年齢	10歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	20歳代	14	21.4	7.1	14.3	14.3	7.1	14.3	21.4	0.0	50.0	7.1	0.0
	30歳代	15	33.3	33.3	20.0	6.7	6.7	13.3	13.3	6.7	26.7	13.3	0.0
	40歳代	16	31.3	25.0	12.5	0.0	12.5	6.3	43.8	6.3	31.3	12.5	0.0
	50歳代	13	30.8	38.5	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	7.7	38.5	7.7	0.0
	60～64歳	18	27.8	50.0	16.7	5.6	33.3	0.0	16.7	22.2	22.2	11.1	0.0
	65～74歳	25	36.0	32.0	0.0	12.0	16.0	0.0	16.0	12.0	4.0	8.0	12.0
	75歳以上	7	28.6	57.1	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0

問 15 ボランティア活動や地域活動に参加したいと思いますか。(1つに○)

ボランティア活動等の参加意向では、「わからない」が37.3%と最も多く、次いで「可能な範囲で参加したい」が30.7%、「参加したくない(できない)」が26.3%となっています。また、「ぜひ参加したい」と「可能な範囲で参加したい」を合わせた《参加したい》は32.5%となっています。

年代別でみると、《参加したい》は、75歳以上で47.1%と最も多くなっており、60～64歳で42.6%、20歳代で40.0%となっています。



		合計	ぜひ参加したい	可能な範囲で参加したい	わからない	参加したくない(できない)	無回答	《参加したい》(参考)
	全体	453	1.8	30.7	37.3	26.3	4.0	32.5
①性別	男性	187	2.1	27.8	39.6	27.3	3.2	29.9
	女性	244	1.6	32.8	36.1	25.4	4.1	34.4
②年齢	10歳代	6	0.0	16.7	66.7	16.7	0.0	16.7
	20歳代	45	8.9	31.1	33.3	26.7	0.0	40.0
	30歳代	67	0.0	23.9	38.8	35.8	1.5	23.9
	40歳代	76	1.3	32.9	35.5	26.3	3.9	34.2
	50歳代	91	1.1	30.8	38.5	28.6	1.1	31.9
	60～64歳	61	1.6	41.0	27.9	23.0	6.6	42.6
	65～74歳	87	1.1	25.3	43.7	21.8	8.0	26.4
	75歳以上	17	0.0	47.1	23.5	17.6	11.8	47.1

■参加したくない(できない)理由

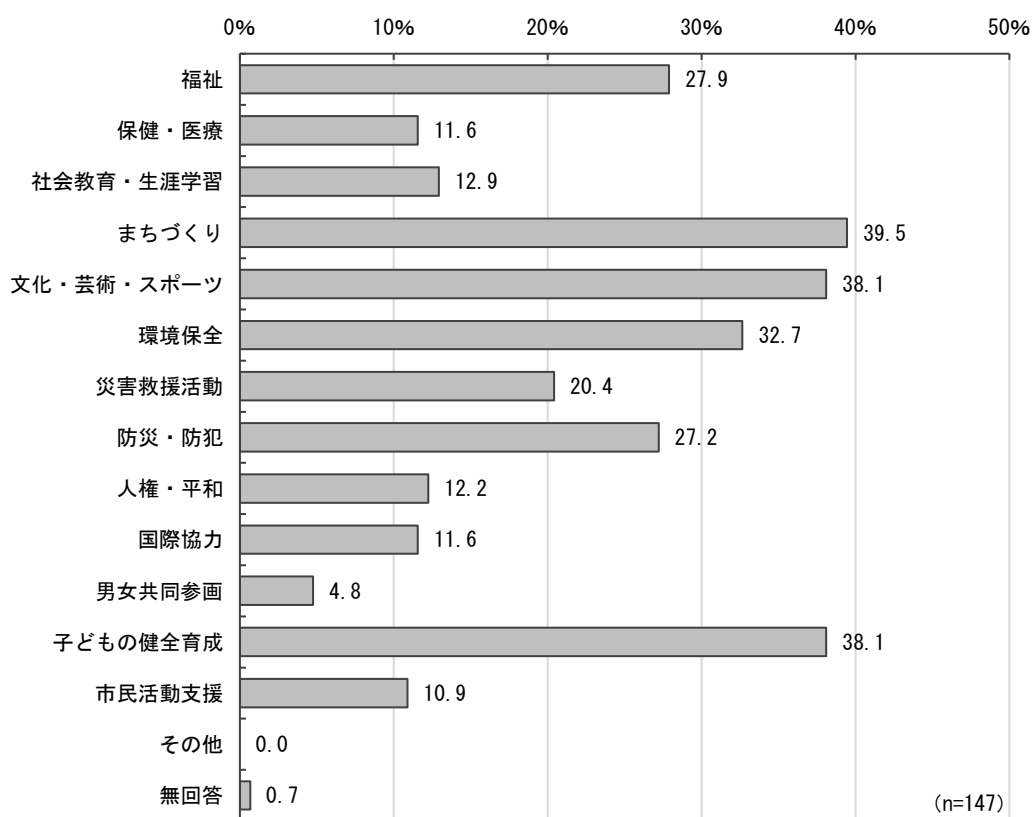
参加したくない(できない)理由では、「仕事が忙しい」、「体調不良(高齢、病気など)」、「時間が取れない(介護、育児)」、「興味がない」などがありました。

問 15 で1 または2 の方（ボランティア活動等に参加したい方）にうかがいます。
 （１）どのような内容・分野の活動に参加したいですか。（あてはまるものすべてに○）

参加してみたいボランティア活動等の内容では、「まちづくり」が 39.5%と最も多く、次いで「文化・芸術・スポーツ」と「子どもの健全育成」が 38.1%、「環境保全」が 32.7%となっています。

性別でみると、男性では「防災・防犯」が最も多く、女性では「まちづくり」が最も多くなっています。

年代別でみると、30 歳代、50 歳代では「まちづくり」が最も多く、20 歳代、40 歳代、75 歳以上では「文化・芸術・スポーツ」、60～64 歳では「防災・防犯」、65～74 歳では「福祉」が最も多くなっています。また、64 歳以下では「子どもの健全育成」も多くなっています。



		合計	福祉	保健・医療	社会教育・生涯学習	まちづくり	文化・芸術・スポーツ	環境保全	災害救援活動	防災・防犯
全体		147	27.9	11.6	12.9	39.5	38.1	32.7	20.4	27.2
①性別	男性	56	26.8	14.3	16.1	32.1	33.9	35.7	28.6	48.2
	女性	84	28.6	10.7	11.9	46.4	39.3	33.3	16.7	13.1
②年齢	10 歳代	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20 歳代	18	33.3	5.6	22.2	50.0	55.6	44.4	5.6	5.6
	30 歳代	16	18.8	12.5	18.8	62.5	18.8	37.5	12.5	43.8
	40 歳代	26	19.2	11.5	3.8	34.6	46.2	19.2	26.9	23.1
	50 歳代	29	24.1	10.3	17.2	51.7	31.0	34.5	27.6	24.1
	60～64 歳	26	34.6	23.1	11.5	19.2	38.5	38.5	30.8	42.3
	65～74 歳	23	39.1	4.3	13.0	34.8	30.4	30.4	17.4	26.1
	75 歳以上	8	12.5	0.0	0.0	25.0	62.5	25.0	0.0	25.0

		合計	人権・平和	国際協力	男女共同参画	子どもの健全育成	市民活動支援	その他	無回答
全体		147	12.2	11.6	4.8	38.1	10.9	0.0	0.7
①性別	男性	56	10.7	10.7	5.4	26.8	14.3	0.0	0.0
	女性	84	13.1	11.9	4.8	45.2	8.3	0.0	1.2
②年齢	10 歳代	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20 歳代	18	16.7	5.6	5.6	50.0	5.6	0.0	0.0
	30 歳代	16	12.5	6.3	0.0	56.3	6.3	0.0	0.0
	40 歳代	26	11.5	26.9	7.7	38.5	3.8	0.0	3.8
	50 歳代	29	6.9	13.8	3.4	41.4	17.2	0.0	0.0
	60～64 歳	26	3.8	3.8	3.8	42.3	11.5	0.0	0.0
	65～74 歳	23	26.1	8.7	4.3	17.4	17.4	0.0	0.0
	75 歳以上	8	12.5	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0

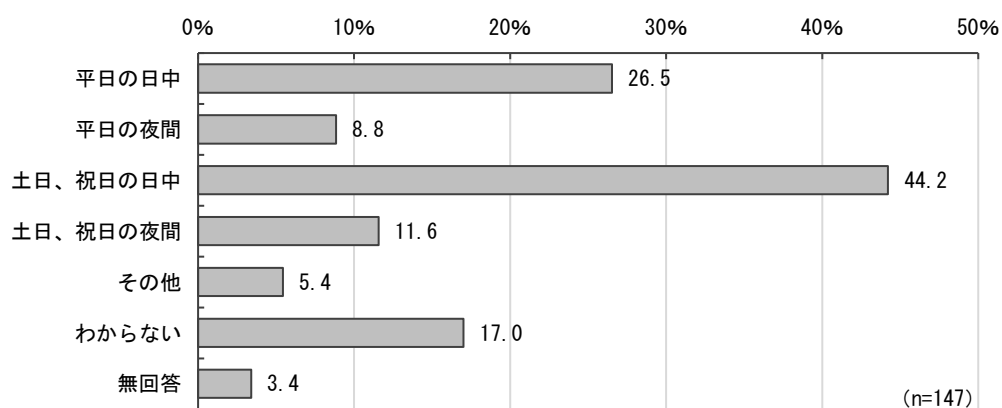
問 15 で1 または2 の方（ボランティア活動等に参加したい方）にうかがいます。

（2）活動しやすいのはいつですか。（あてはまるものすべてに○）

ボランティア活動等で活動しやすい日時では、「土日、祝日の日中」が44.2%と最も多く、次いで「平日の日中」が26.5%、「わからない」が17.0%となっています。

年代別でみると、10歳代を除き、64歳以下では「土日、祝日の日中」が最も多く、65歳以上では「平日の日中」が最も多くなっています。

また、「その他」の意見には、「仕事が休みの日」「朝」「不定期」などがありました。



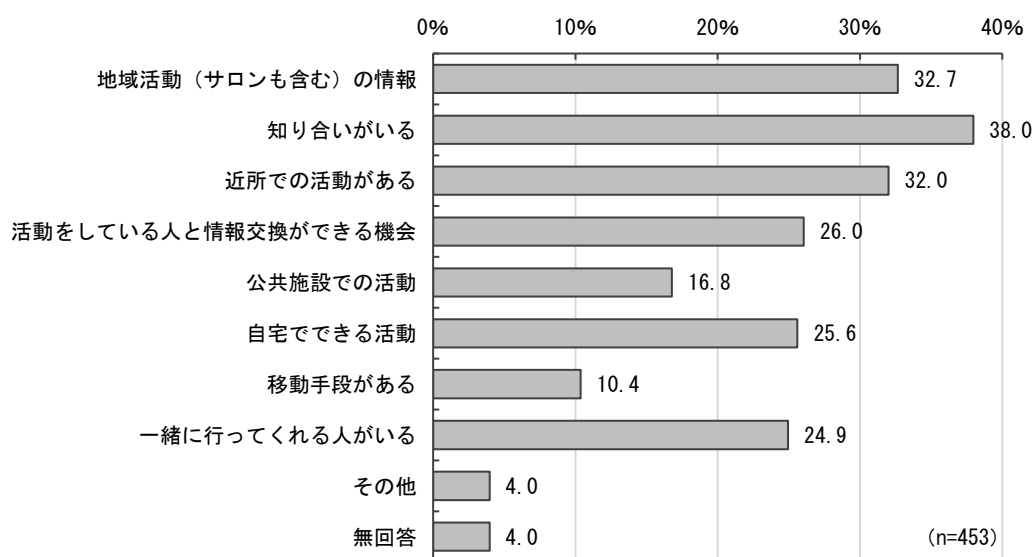
		合計	平日の日中	平日の夜間	土日、祝日の日中	土日、祝日の夜間	その他	わからない	無回答
全体		147	26.5	8.8	44.2	11.6	5.4	17.0	3.4
①性別	男性	56	16.1	12.5	42.9	14.3	5.4	19.6	8.9
	女性	84	32.1	7.1	48.8	9.5	2.4	16.7	0.0
②年齢	10歳代	1	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	18	5.6	22.2	61.1	16.7	5.6	16.7	0.0
	30歳代	16	18.8	6.3	50.0	18.8	0.0	25.0	0.0
	40歳代	26	19.2	15.4	34.6	15.4	7.7	26.9	0.0
	50歳代	29	13.8	10.3	51.7	17.2	0.0	20.7	3.4
	60～64歳	26	23.1	3.8	42.3	3.8	15.4	11.5	15.4
	65～74歳	23	52.2	0.0	39.1	0.0	4.3	8.7	0.0
	75歳以上	8	87.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 16 多くの人がボランティア活動や地域活動に参加するためには、どのような環境づくり、条件等が必要と思いますか。（3つまでに○）

多くの人がボランティア活動等に参加するために必要な条件では、「知り合いがいる」が38.0%と最も多く、次いで「地域活動（サロンも含む）の情報」が32.7%、「近所での活動がある」が32.0%となっています。

年代別でみると、10歳代と20歳代では「一緒に行ってくれる人がある」が最も多く、30歳代40歳代では「知り合いがいる」が多くなっています。

また、「その他」の意見には、「時間があるときなら」「有償ボランティアなら」「地域に愛を持てるようなまちづくり」などがありました。



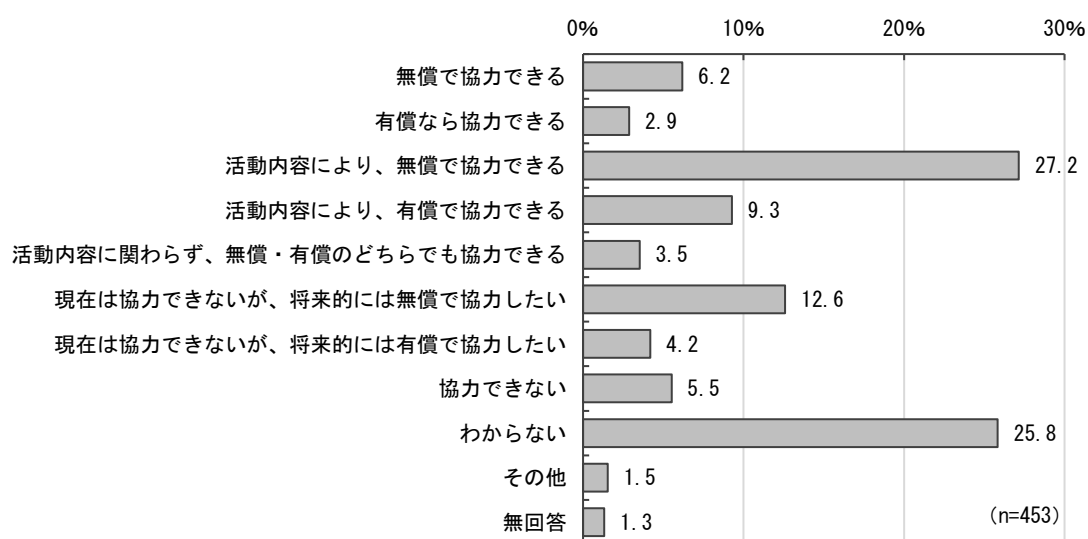
		合計	地域活動（サロンも含む）の情報	知り合いがいる	近所での活動がある	活動をしている人と情報交換ができる機会	公共施設での活動	自宅でできる活動	移動手段がある	一緒に行ってくれる人がある	その他	無回答
	全体	453	32.7	38.0	32.0	26.0	16.8	25.6	10.4	24.9	4.0	4.0
①性別	男性	187	27.3	37.4	29.4	22.5	16.0	27.3	10.2	29.9	5.3	3.7
	女性	244	37.3	38.9	34.0	29.5	18.0	25.0	9.8	20.5	2.9	2.9
②年齢	10歳代	6	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	16.7	50.0	0.0	0.0
	20歳代	45	20.0	42.2	24.4	17.8	8.9	24.4	8.9	53.3	2.2	0.0
	30歳代	67	20.9	59.7	29.9	20.9	6.0	40.3	11.9	31.3	7.5	3.0
	40歳代	76	32.9	42.1	38.2	27.6	10.5	26.3	7.9	17.1	6.6	3.9
	50歳代	91	34.1	31.9	28.6	23.1	22.0	28.6	12.1	23.1	2.2	4.4
	60～64歳	61	49.2	27.9	29.5	36.1	23.0	18.0	9.8	14.8	8.2	3.3
	65～74歳	87	34.5	29.9	37.9	31.0	25.3	14.9	10.3	23.0	0.0	5.7
	75歳以上	17	35.3	29.4	35.3	23.5	23.5	23.5	11.8	11.8	0.0	5.9

問 17 地域での活動に協力してもいいと思いますか。(1つに○)

地域での活動協力では、「活動内容により、無償で協力できる」が 27.2%と最も多く、次いで「わからない」が 25.8%、「現在は協力できないが、将来的には無償で協力したい」が 12.6%となっています。

年代別でみると、40 歳代と 50 歳代では「わからない」が多いものの、その他の年代では「活動内容により、無償で協力できる」が多くなっています。

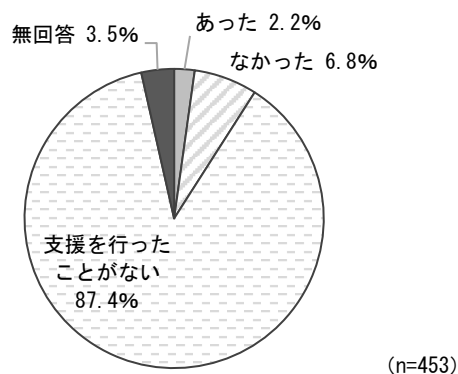
また、「その他」の意見には、「時間による」「ペットと一緒になら」がありました。



		合計	無償で協力できる	有償なら協力できる	活動内容により、 無償で協力できる	活動内容により、 有償で協力できる	活動内容に関わらず、 無償・有償のどちらでも協力できる	現在は協力できないが、 将来的には無償で協力したい	現在は協力できないが、 将来的には有償で協力したい	協力できない	わからない	その他	無回答
	全体	453	6.2	2.9	27.2	9.3	3.5	12.6	4.2	5.5	25.8	1.5	1.3
①性別	男性	187	8.0	4.3	22.5	10.7	4.3	17.1	3.7	2.7	24.6	1.6	0.5
	女性	244	4.9	2.0	30.7	8.2	2.9	10.2	4.9	7.0	26.2	1.2	1.6
②年齢	10 歳代	6	16.7	16.7	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20 歳代	45	6.7	4.4	35.6	13.3	6.7	4.4	2.2	0.0	24.4	2.2	0.0
	30 歳代	67	0.0	6.0	20.9	20.9	3.0	11.9	6.0	7.5	20.9	1.5	1.5
	40 歳代	76	3.9	1.3	19.7	9.2	3.9	14.5	7.9	2.6	34.2	1.3	1.3
	50 歳代	91	4.4	4.4	25.3	7.7	1.1	16.5	5.5	3.3	29.7	0.0	2.2
	60～64 歳	61	9.8	0.0	24.6	8.2	4.9	11.5	0.0	11.5	21.3	4.9	3.3
	65～74 歳	87	10.3	1.1	32.2	2.3	3.4	12.6	3.4	6.9	26.4	1.1	0.0
	75 歳以上	17	5.9	0.0	52.9	5.9	5.9	5.9	0.0	11.8	11.8	0.0	0.0

問 18 身寄りのない人への支援を行った際に、困ったことがありましたか。(1つに○)

身寄りのない人への支援で困った経験では、「支援を行ったことがない」が87.4%と最も多く、次いで「なかった」が6.8%、「あった」が2.2%となっています。



問 18 で「1. あった」(困ったことがあった)の方にはうかがいます。

(1) どのようなことに困りましたか。(記入式)

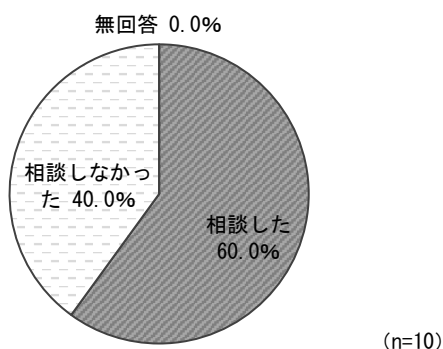
身寄りのない人への支援で困った内容は、10 名の方から回答をいただき、「保証人がいない」、「医療等の同意」、「亡くなった後の手続き」、「遺骨の取り扱い」、「安否確認」、「支援に消極的」などの意見がありました。

問 18 で「1. あった」(困ったことがあった)の方にはうかがいます。

(2) その際、どこかに相談をしましたか。(1つに○)

身寄りのない人への支援で困った時の相談状況では、「相談した」が60.0%、「相談しなかった」が40.0%となっています。

相談先では、「市役所」、「地域包括支援センター」などの意見がありました。



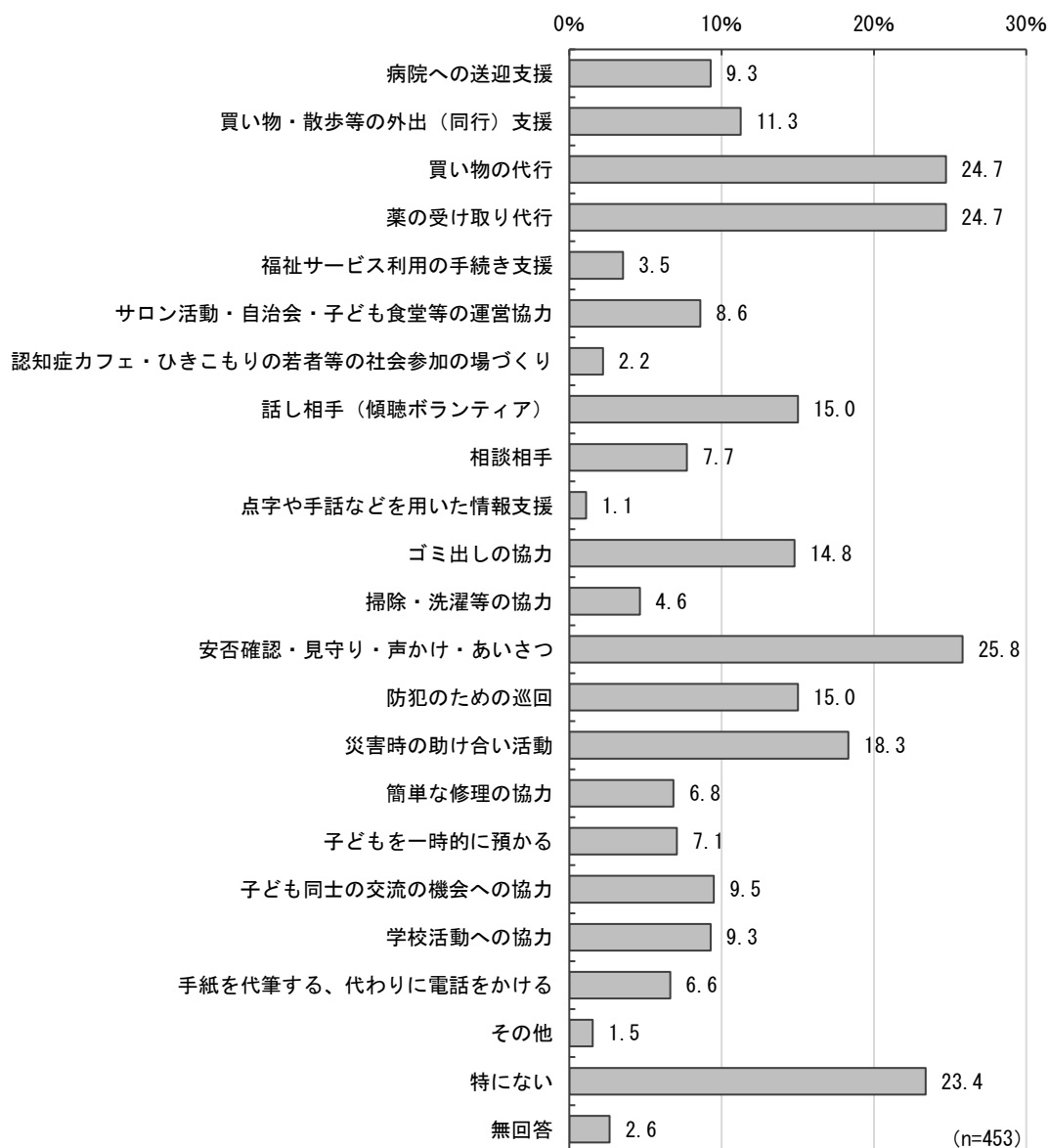
問 19 困りごとを抱える地域の人に対して、あなたが支援・協力できそうなことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

困りごとを抱える地域の人に対して支援・協力ができそうなことについては、「安否確認・見守り・声かけ・あいさつ」が25.8%と最も多く、次いで「買い物の代行」、「薬の受け取り代行」が24.7%、「災害時の助け合い活動」が18.3%となっており、「特にない」は23.4%となっています。

性別でみると、男性では「災害時の助け合い活動」が25.1%と最も多く、次いで「防犯のための巡回」が24.6%となっています。女性では「薬の受け取り代行」が29.5%と最も多く、次いで「安否確認・見守り・声かけ・あいさつ」が27.9%となっています。

年代別でみると、65～74歳では「特にない」が最も多く、20歳代では「話し相手（傾聴ボランティア）」、「ゴミ出しの協力」、その他の年代では「買い物の代行」「薬の受け取り代行」、「安否確認・見守り・声かけ・あいさつ」などが多くなっています。

また、「その他」の意見には、「筆談」「通訳」「協力できない」などがありました。



		合計	病院への送迎支援	買い物・散歩等の外出（同行）支援	買い物の代行	薬の受け取り代行	福祉サービス利用の手続き支援	サロン活動・自治会・子ども食堂等の運営協力	認知症カフェ・ひきこもりの若者等の社会参加の場づくり	話し相手（傾聴ボランティア）	相談相手	点字や手話などを用いた情報支援	ゴミ出しの協力	掃除・洗濯等の協力
	全体	453	9.3	11.3	24.7	24.7	3.5	8.6	2.2	15.0	7.7	1.1	14.8	4.6
①性別	男性	187	12.3	12.3	23.5	20.3	4.8	5.3	3.2	11.8	8.0	0.0	15.5	4.8
	女性	244	7.4	11.5	27.0	29.5	2.9	11.5	1.6	17.2	7.0	2.0	14.8	4.9
②年齢	10歳代	6	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0	33.3	0.0
	20歳代	45	8.9	4.4	20.0	17.8	2.2	8.9	0.0	28.9	6.7	4.4	24.4	8.9
	30歳代	67	7.5	10.4	28.4	25.4	3.0	3.0	0.0	13.4	11.9	0.0	10.4	4.5
	40歳代	76	5.3	6.6	23.7	26.3	6.6	13.2	2.6	9.2	6.6	1.3	7.9	2.6
	50歳代	91	9.9	14.3	27.5	24.2	2.2	7.7	4.4	12.1	5.5	1.1	15.4	4.4
	60～64歳	61	14.8	21.3	29.5	32.8	4.9	6.6	1.6	18.0	9.8	0.0	23.0	8.2
	65～74歳	87	10.3	11.5	21.8	25.3	2.3	11.5	2.3	11.5	4.6	1.1	11.5	3.4
	75歳以上	17	5.9	5.9	17.6	11.8	0.0	11.8	5.9	29.4	17.6	0.0	17.6	0.0

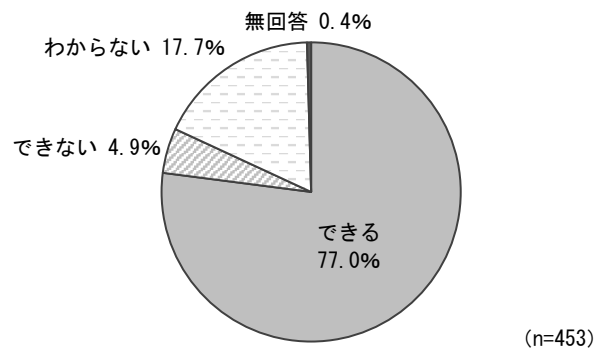
		合計	あいさつ 安否確認・見守り・声かけ	防犯のための巡回	災害時の助け合い活動	簡単な修理の協力	子どもを一時的に預かる	子ども同士の交流の機会への協力	学校活動への協力	手紙を代筆する、代わりに電話をかける	その他	特にない	無回答
	全体	453	25.8	15.0	18.3	6.8	7.1	9.5	9.3	6.6	1.5	23.4	2.6
①性別	男性	187	23.0	24.6	25.1	13.9	4.3	7.5	6.4	3.7	0.5	23.0	2.7
	女性	244	27.9	8.2	14.3	1.6	9.8	11.5	11.5	8.6	2.0	22.5	2.0
②年齢	10歳代	6	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	20歳代	45	17.8	13.3	15.6	4.4	11.1	13.3	13.3	6.7	0.0	24.4	0.0
	30歳代	67	28.4	17.9	11.9	9.0	16.4	28.4	16.4	4.5	1.5	17.9	0.0
	40歳代	76	22.4	14.5	15.8	6.6	5.3	10.5	18.4	5.3	2.6	21.1	2.6
	50歳代	91	25.3	14.3	19.8	6.6	6.6	7.7	3.3	9.9	3.3	26.4	2.2
	60～64歳	61	32.8	16.4	27.9	4.9	8.2	1.6	4.9	11.5	1.6	26.2	0.0
	65～74歳	87	23.0	14.9	18.4	8.0	1.1	2.3	5.7	1.1	0.0	27.6	8.0
	75歳以上	17	41.2	11.8	11.8	11.8	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0	11.8	0.0

5. 災害時の対策等について

問 20 あなたは、地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難することができますか。(1つに○)

地震や災害などの緊急時にひとりで避難することについては、「できる」が77.0%と最も多く、次いで「わからない」が17.7%、「できない」が4.9%となっています。

年代別でみると、すべての年代で「できる」が多くなっていますが、30 歳代では「できない」が11.9%と他の年代より多くなっています。

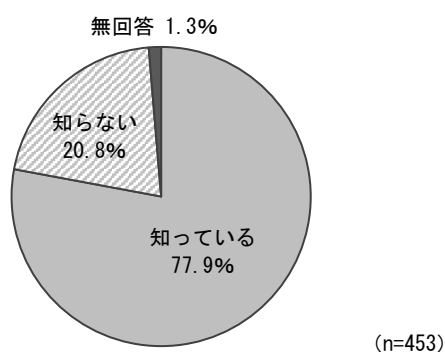


		合計	できる	できない	わからない	無回答
	全体	453	77.0	4.9	17.7	0.4
①性別	男性	187	80.2	2.1	16.6	1.1
	女性	244	75.8	7.4	16.8	0.0
②年齢	10 歳代	6	83.3	0.0	16.7	0.0
	20 歳代	45	71.1	8.9	20.0	0.0
	30 歳代	67	67.2	11.9	20.9	0.0
	40 歳代	76	77.6	6.6	15.8	0.0
	50 歳代	91	85.7	5.5	8.8	0.0
	60～64 歳	61	73.8	0.0	26.2	0.0
	65～74 歳	87	77.0	0.0	20.7	2.3
	75 歳以上	17	94.1	0.0	5.9	0.0

問 21 あなたは、災害のときの避難場所・避難所を知っていますか。（1つに○）

災害時の避難場所・避難所の周知状況については、「知っている」が77.9%、「知らない」が20.8%となっています。

年代別でみると、いずれの年代も「知っている」が多くなっていますが、10歳代と20歳代で「知らない」が30%以上となっています。

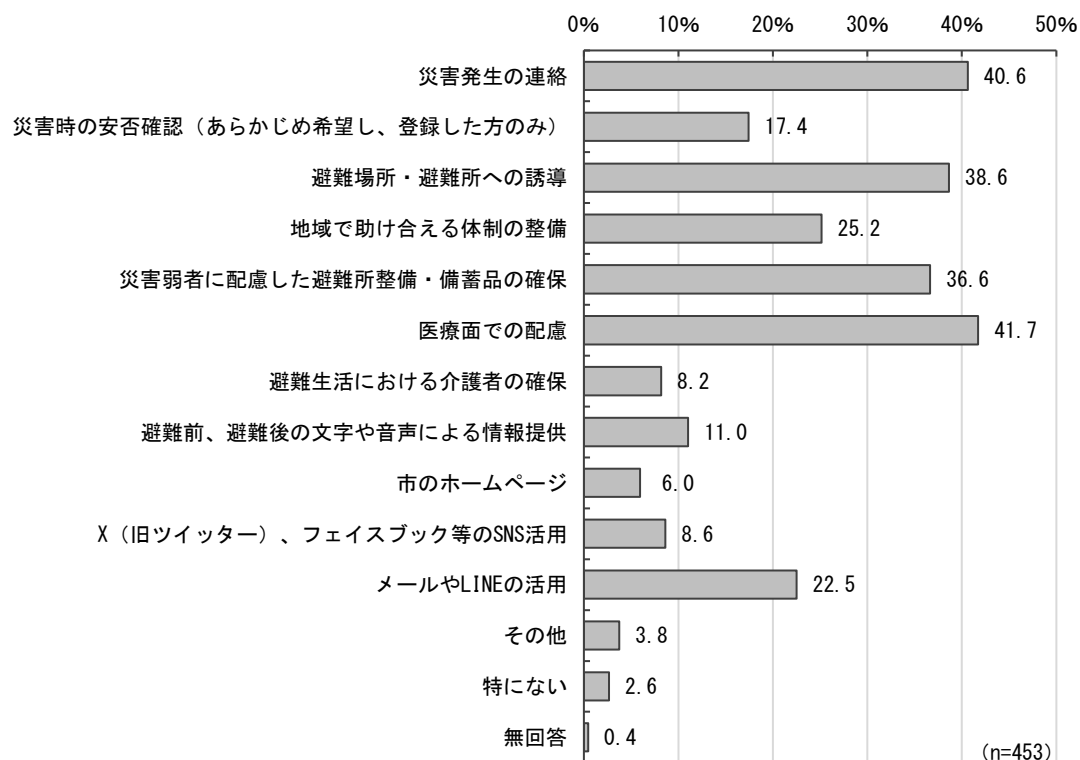


		合計	知っている	知らない	無回答
①性別	全体	453	77.9	20.8	1.3
	男性	187	73.8	24.6	1.6
	女性	244	81.1	17.6	1.2
②年齢	10歳代	6	66.7	33.3	0.0
	20歳代	45	64.4	35.6	0.0
	30歳代	67	82.1	17.9	0.0
	40歳代	76	80.3	18.4	1.3
	50歳代	91	76.9	23.1	0.0
	60～64歳	61	82.0	18.0	0.0
	65～74歳	87	78.2	17.2	4.6
	75歳以上	17	82.4	11.8	5.9

問 22 災害（地震など）時の対策として、充実してほしいことはありますか。（3 つまでに○）

災害時の対策として充実してほしいことでは、「医療面の配慮」が 41.7%と最も多く、次いで「災害発生時の連絡」が 40.6%、「避難場所・避難所への誘導」が 38.6%、「災害弱者に配慮した避難所整備・備蓄品の確保」が 36.6%となっています。

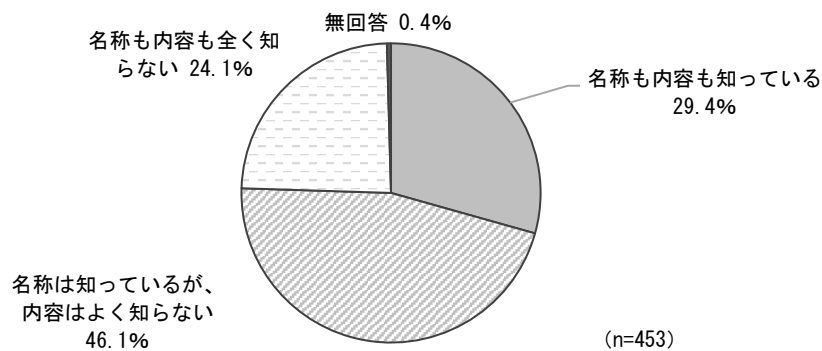
また、「その他」の意見には、「ペットと一緒にいたい」「こどもだけで被災した時の対処」などがありました。



6. 権利擁護について

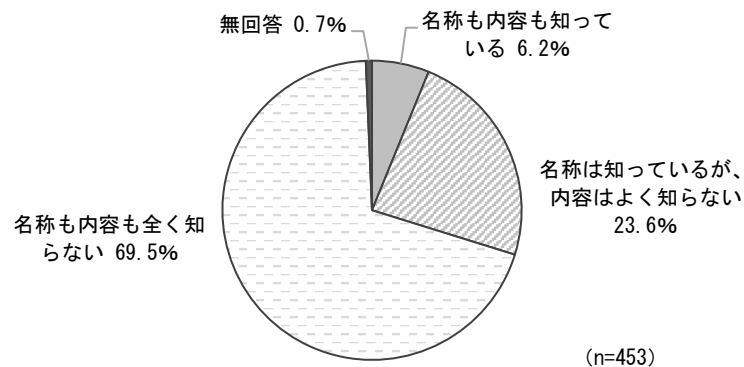
問 23 あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。(1つに○)

『成年後見制度』については、「名称は知っているが、内容はよく知らない」が46.1%と最も多く、次いで「名称も内容も知っている」が29.4%、「名称も内容も全く知らない」が24.1%となっています。



問 24 あなたは、「市民後見人」について知っていますか。(1つに○)

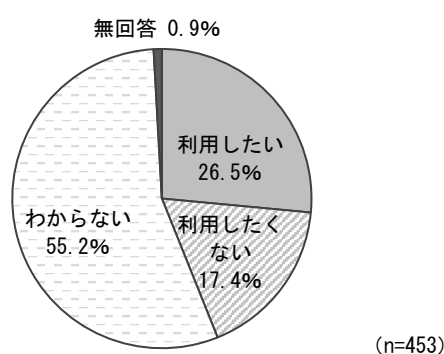
『市民後見人』については、「名称も内容も全く知らない」が69.5%と最も多く、次いで「名称は知っているが、内容はよく知らない」が23.6%、「名称も内容も知っている」が6.2%となっています。



問 25 将来的に、あなた自身の判断能力が不十分となった場合、成年後見制度を利用したいと
 思いますか。(1つに○)

自身の判断能力が不十分となった場合に『成年後見制度』の利用希望では、「わからない」が
 55.2%と最も多く、次いで「利用したい」が26.5%、「利用したくない」が17.4%となってい
 ます。

年代別でみると、いずれの年代も「わからない」が最も多くなっています。「利用したい」と「利
 用したくない」を比べると、50歳代以下では「利用したい」が多く、60歳以上では「利用したく
 ない」が多くなっています。



		合計	利用 したい	ない 利用 したく	わ か ら な い	無 回 答
全体		453	26.5	17.4	55.2	0.9
①性別	男性	187	24.6	17.1	56.7	1.6
	女性	244	28.7	18.0	52.9	0.4
②年齢	10 歳代	6	33.3	16.7	50.0	0.0
	20 歳代	45	42.2	15.6	42.2	0.0
	30 歳代	67	28.4	9.0	62.7	0.0
	40 歳代	76	27.6	10.5	60.5	1.3
	50 歳代	91	26.4	15.4	57.1	1.1
	60～64 歳	61	21.3	27.9	49.2	1.6
	65～74 歳	87	21.8	26.4	50.6	1.1
	75 歳以上	17	17.6	17.6	64.7	0.0

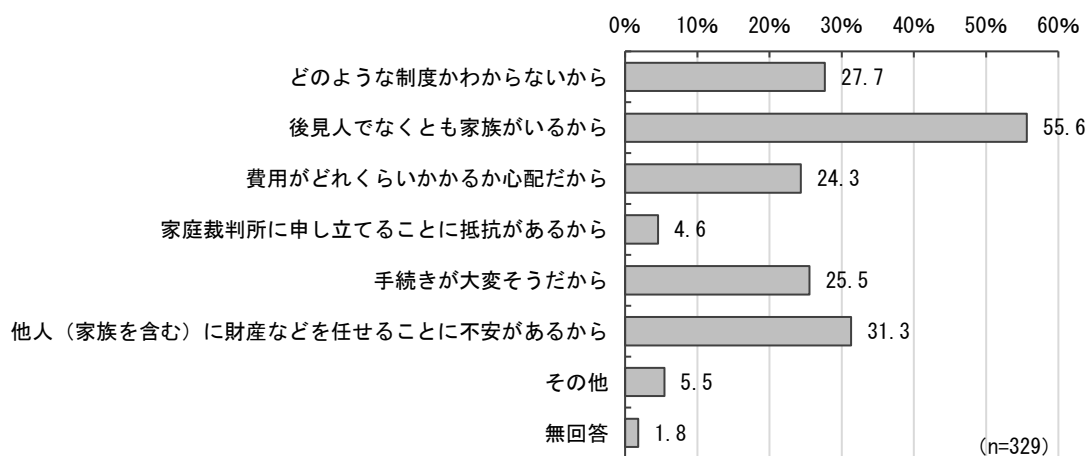
問 25 で「2. 利用したくない」「3. わからない」の方のうちがいます。

(1) その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

『成年後見制度』を利用したくない・わからない理由では、「後見人でなくとも家族がいるから」が 55.6%と最も多く、次いで「他人（家族を含む）に財産などを任せることに不安があるから」が 31.3%、「どのような制度かわからないから」が 27.7%となっています。

年代別でみると、「後見人でなくとも家族がいるから」が 50 歳代以上で 5 割以上となっており、特に 75 歳以上では 92.9%となっています。

また、「その他」の意見には、「将来のことなのでわからない」「必要となるタイミングが分からない」「自由にお金を使えなくなるから」などがありました。



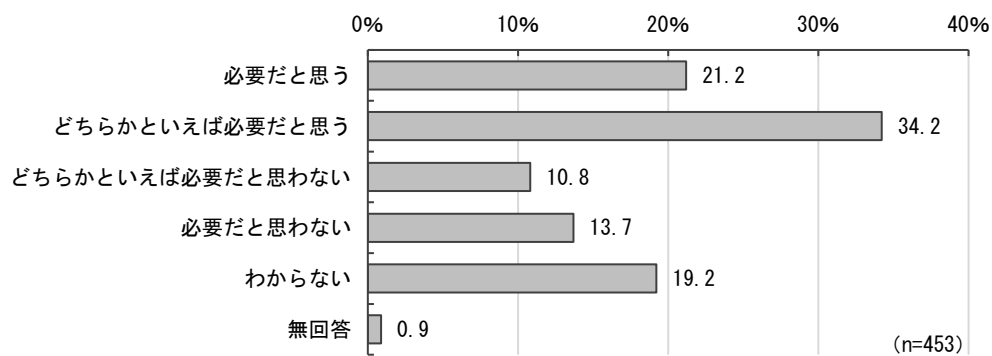
		合計	どのような制度かわからないから	後見人でなくとも家族がいるから	費用がどれくらいかかるか心配だから	家庭裁判所に申し立てることに抵抗があるから	手続きが大変そうだから	他人（家族を含む）に財産などを任せることに不安があるから	その他	無回答
全体		329	27.7	55.6	24.3	4.6	25.5	31.3	5.5	1.8
①性別	男性	138	29.7	52.2	21.0	4.3	22.5	30.4	8.0	0.7
	女性	173	26.0	56.6	27.7	5.2	27.7	34.1	3.5	2.9
②年齢	10 歳代	4	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	20 歳代	26	46.2	15.4	26.9	3.8	26.9	34.6	7.7	0.0
	30 歳代	48	35.4	50.0	33.3	4.2	35.4	41.7	6.3	0.0
	40 歳代	54	42.6	40.7	33.3	11.1	27.8	42.6	3.7	1.9
	50 歳代	66	18.2	57.6	22.7	6.1	28.8	34.8	3.0	3.0
	60～64 歳	47	17.0	68.1	21.3	4.3	25.5	21.3	8.5	0.0
	65～74 歳	67	20.9	70.1	14.9	0.0	13.4	22.4	6.0	3.0
	75 歳以上	14	7.1	92.9	14.3	0.0	21.4	14.3	7.1	7.1

7. 再犯防止について

問 26 あなたは、罪を犯した人への支援が必要だと思いますか。（1 つに○）

罪を犯した人への支援の必要性については、「どちらかといえば必要だと思う」が 34.2%と最も多く、次いで「必要だと思う」が 21.2%、「わからない」が 19.2%となっており、「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」を合わせた《必要》は 55.4%、「どちらかといえば必要だと思う」と「必要だと思わない」を合わせた《必要だと思わない》は 24.5%となっています。

年代別でみると、10 歳代では《必要だと思わない》が多く、他の年代では《必要》が多くなっています。

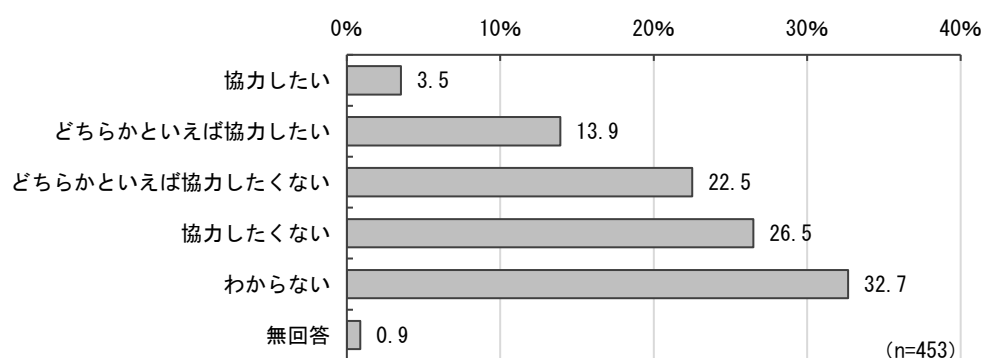


		合計	必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえば必要だと思わない	必要だと思わない	わからない	無回答	《必要》 (参考)	《必要だと思わない》 (参考)
	全体	453	21.2	34.2	10.8	13.7	19.2	0.9	55.4	24.5
①性別	男性	187	21.4	33.2	10.2	18.7	16.6	0.0	54.6	28.9
	女性	244	21.3	34.4	11.9	10.2	21.3	0.8	55.7	22.1
②年齢	10 歳代	6	16.7	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0	33.4	66.7
	20 歳代	45	24.4	31.1	13.3	20.0	11.1	0.0	55.5	33.3
	30 歳代	67	23.9	22.4	14.9	20.9	17.9	0.0	46.3	35.8
	40 歳代	76	18.4	44.7	5.3	15.8	14.5	1.3	63.1	21.1
	50 歳代	91	16.5	37.4	7.7	13.2	23.1	2.2	53.9	20.9
	60～64 歳	61	26.2	37.7	9.8	9.8	16.4	0.0	63.9	19.6
	65～74 歳	87	23.0	31.0	11.5	8.0	25.3	1.1	54.0	19.5
	75 歳以上	17	5.9	41.2	17.6	5.9	29.4	0.0	47.1	23.5

問 27 あなたは、罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思いますか。（1つに○）

罪を犯した人の立ち直りへの協力については、「わからない」が32.7%と最も多く、次いで「協力したくない」が26.5%、「どちらかといえば協力したくない」が22.5%となっており、「協力したい」と「どちらかといえば協力したい」を合わせた《協力したい》は17.4%、「どちらかといえば協力したくない」と「協力したくない」を合わせた《協力したくない》は49.0%となっています。

年代別でみると、いずれの年代も《協力したくない》が多くなっています。

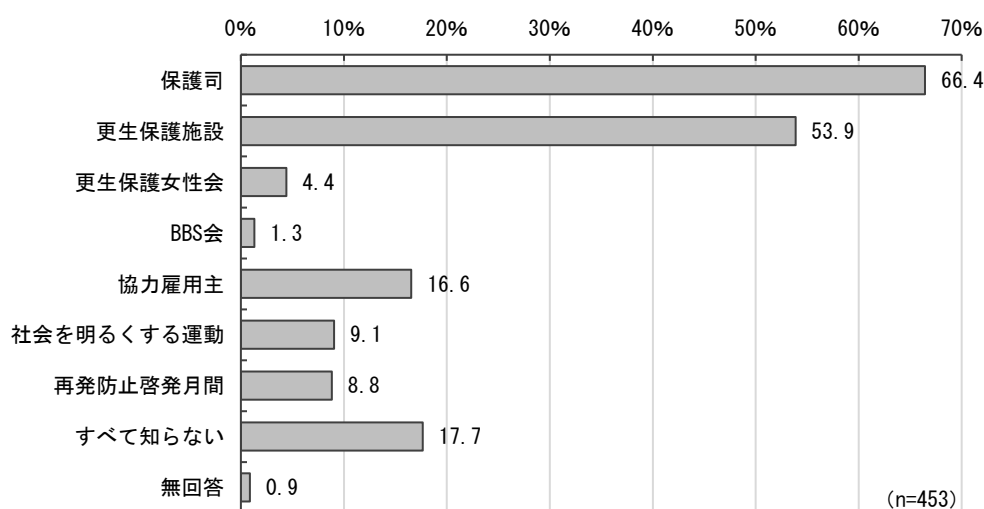


		合計	協力したい	どちらかといえば協力したい	どちらかといえば協力したくない	協力したくない	わからない	無回答	《協力したい》 (参考)	《協力したくない》 (参考)
全体		453	3.5	13.9	22.5	26.5	32.7	0.9	17.4	49.0
①性別	男性	187	4.3	12.3	20.3	32.1	31.0	0.0	16.6	52.4
	女性	244	2.9	15.6	23.8	24.2	32.8	0.8	18.5	48.0
②年齢	10 歳代	6	16.7	0.0	50.0	33.3	0.0	0.0	16.7	83.3
	20 歳代	45	8.9	17.8	22.2	28.9	22.2	0.0	26.7	51.1
	30 歳代	67	0.0	9.0	32.8	34.3	23.9	0.0	9.0	67.1
	40 歳代	76	3.9	18.4	18.4	31.6	26.3	1.3	22.3	50.0
	50 歳代	91	0.0	7.7	17.6	26.4	46.2	2.2	7.7	44.0
	60～64 歳	61	3.3	18.0	21.3	21.3	36.1	0.0	21.3	42.6
	65～74 歳	87	6.9	18.4	18.4	20.7	34.5	1.1	25.3	39.1
	75 歳以上	17	0.0	5.9	47.1	11.8	35.3	0.0	5.9	58.9

問 28 あなたが、犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援するためのものとして、知っているものを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援する知っている取り組みについては、「保護司」が66.4%と最も多く、次いで「更生保護施設」が53.9%、「協力雇用主」が16.6%となっており、「すべて知らない」は17.7%となっています。

年代別でみると、いずれの年代も「保護司」と「更生保護施設」が多くなっており、10歳代と20歳代では「すべて知らない」が33.3%とやや多くなっています。

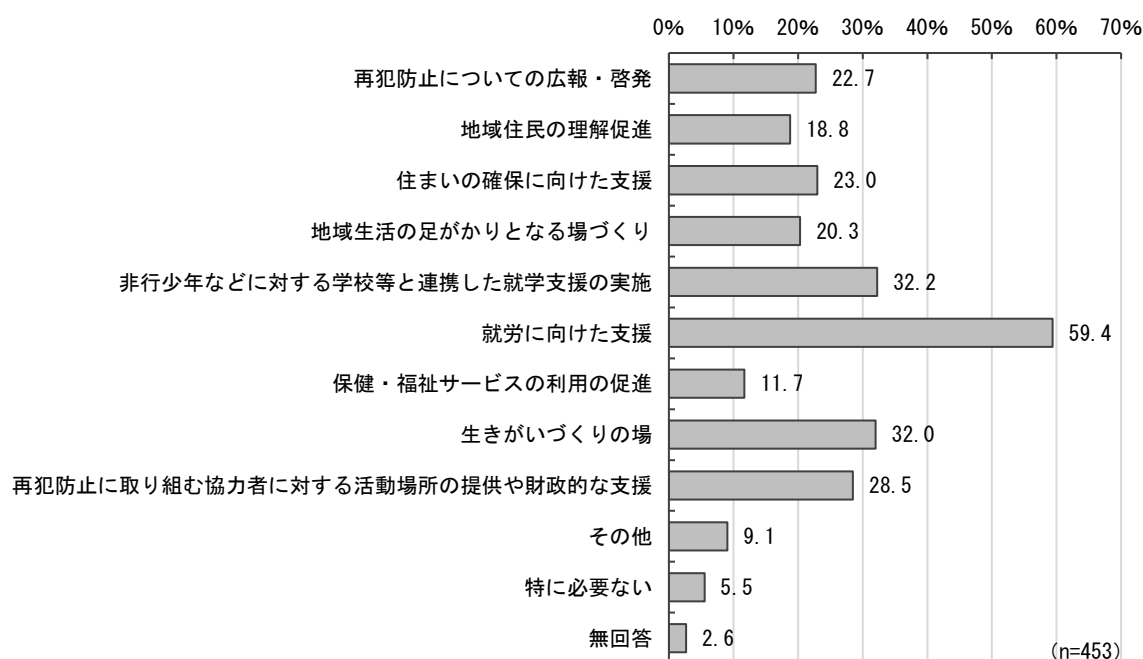


		合計	保護司	更生保護施設	更生保護女性会	BBS会	協力雇用主	社会を明るくする運動	再発防止啓発月間	すべて知らない	無回答
全体		453	66.4	53.9	4.4	1.3	16.6	9.1	8.8	17.7	0.9
①性別	男性	187	63.1	46.5	3.7	1.6	16.6	8.6	8.0	21.9	0.0
	女性	244	68.0	59.4	4.9	1.2	16.4	9.4	9.4	14.8	0.8
②年齢	10歳代	6	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	20歳代	45	28.9	53.3	8.9	4.4	8.9	11.1	20.0	33.3	0.0
	30歳代	67	44.8	49.3	3.0	1.5	14.9	6.0	4.5	22.4	0.0
	40歳代	76	64.5	51.3	1.3	1.3	11.8	11.8	9.2	19.7	2.6
	50歳代	91	70.3	57.1	2.2	0.0	18.7	6.6	7.7	19.8	1.1
	60～64歳	61	91.8	67.2	6.6	1.6	23.0	11.5	6.6	4.9	0.0
	65～74歳	87	80.5	44.8	6.9	1.1	20.7	10.3	8.0	12.6	1.1
	75歳以上	17	94.1	70.6	5.9	0.0	17.6	5.9	11.8	0.0	0.0

問 29 あなたは、犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちが、再び罪を犯さないようにするために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちが再び罪を犯さないようにするために必要なことでは、「就労に向けた支援」が59.4%と最も多く、次いで「非行少年などに対する学校等と連携した就学支援の実施」が32.2%、「生きがいつくりの場」が32.0%となっています。

また、「その他」の意見には、「刑罰を重くする」「罪の内容による」「更生はむずかしい」「(本人への) 指導・教育」「偏見をなくす、理解する」などがありました。



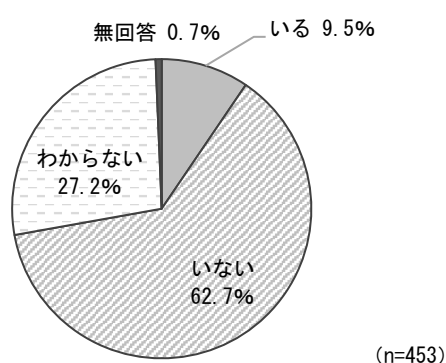
8. 孤独・孤立の状態にある方への支援について

問 30 あなたの周りに孤独・孤立の状態にある方はいますか。(1つに○)

例：ひきこもり、ひとり親家庭、望まない非正規雇用者、路上生活者、頼る人がいない高齢者など。

周囲に孤独・孤立状態にある方の有無では、「いる」が9.5%、「いない」が62.7%、「わからない」が27.2%となっています。

年代別でみると、すべての年代で「いない」が多くなっています。また、「いる」では40歳代がでは13.2%とやや多くなっています。

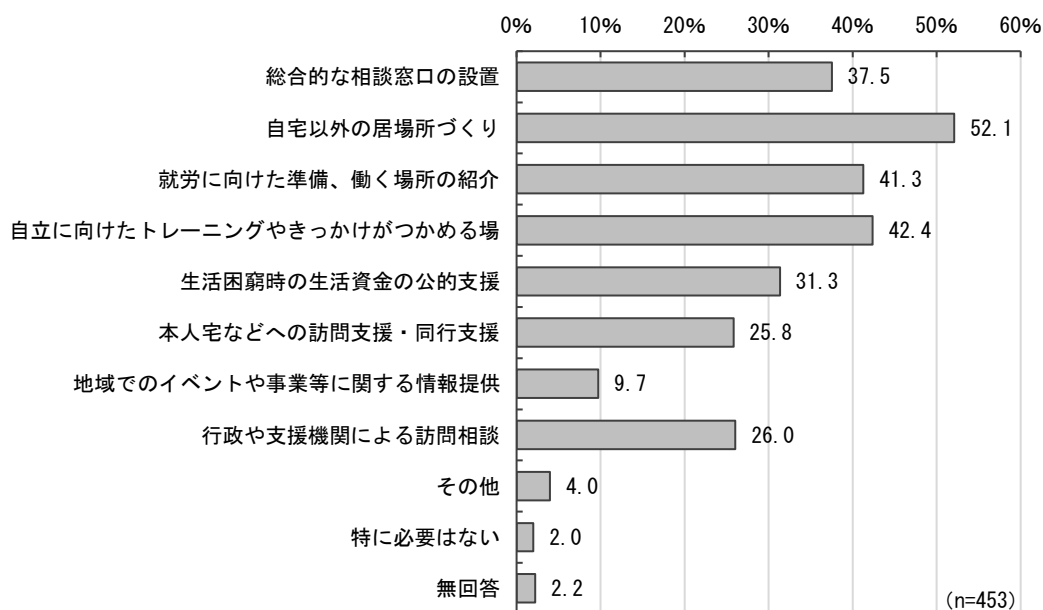


		合計	いる	いない	わからない	無回答
全体		453	9.5	62.7	27.2	0.7
①性別	男性	187	11.2	59.9	27.8	1.1
	女性	244	8.2	64.3	27.5	0.0
②年齢	10歳代	6	0.0	83.3	16.7	0.0
	20歳代	45	8.9	53.3	37.8	0.0
	30歳代	67	9.0	71.6	19.4	0.0
	40歳代	76	13.2	55.3	31.6	0.0
	50歳代	91	8.8	62.6	27.5	1.1
	60～64歳	61	9.8	68.9	21.3	0.0
	65～74歳	87	9.2	58.6	29.9	2.3
	75歳以上	17	5.9	76.5	17.6	0.0

問 31 孤独・孤立の状態にある方への支援としてどのような取組が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

孤独・孤立の状態にある方への支援として必要な取組では、「自宅以外の居場所づくり」が52.1%と最も多く、次いで「自立に向けたトレーニングやきっかけがつかめる場」が42.4%、「就労に向けた準備、働く場所の紹介」が41.3%となっています。

また、「その他」の意見には、「相談窓口を知ってもらうことが必要」などがありました。

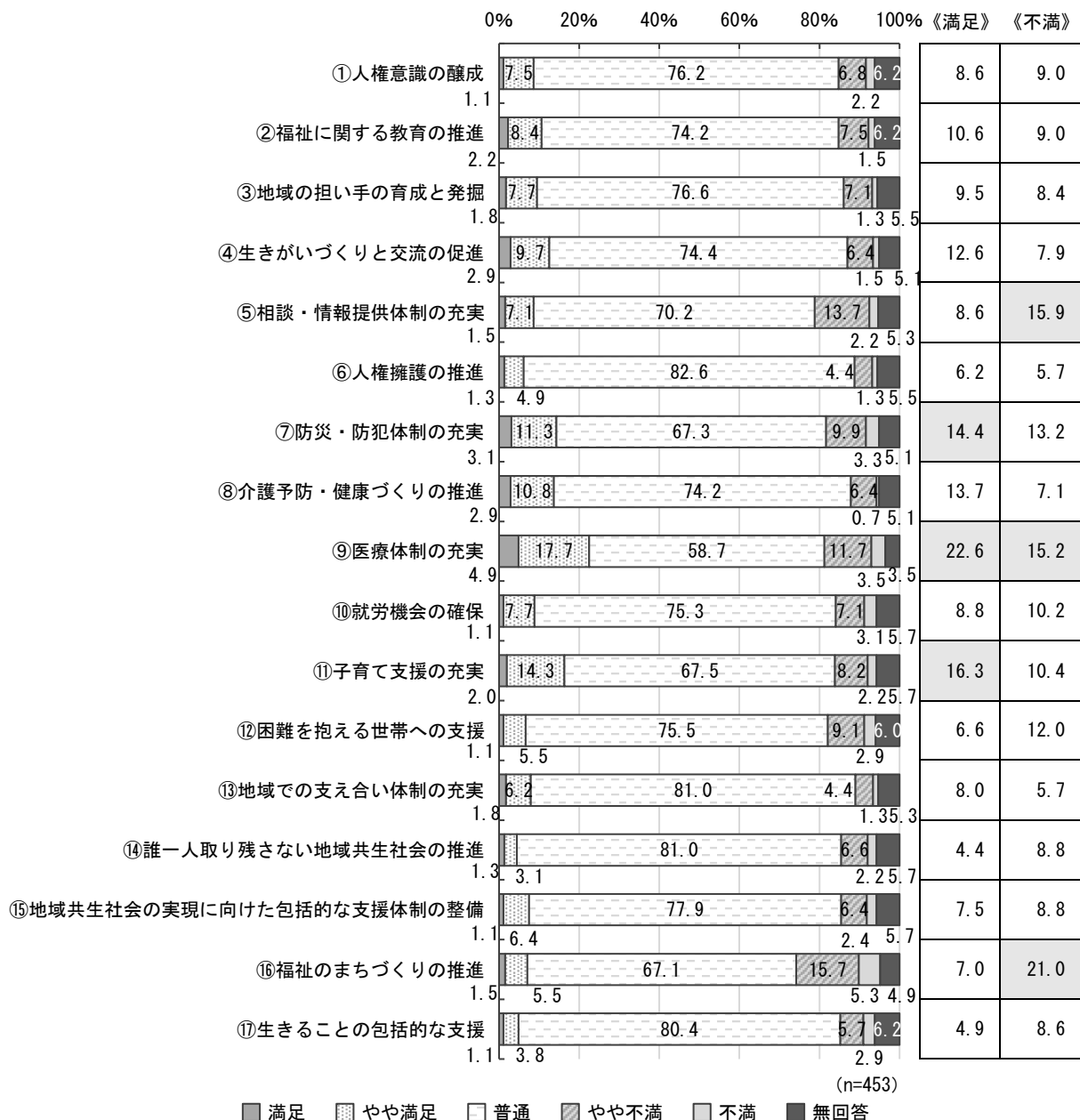


9. 市の福祉資源について

問 32 地域福祉に関する以下の取り組み（①～⑰）について、それぞれ満足度と重要度をお答えください。（それぞれ満足度と重要度にあてはまるもの1つに○）

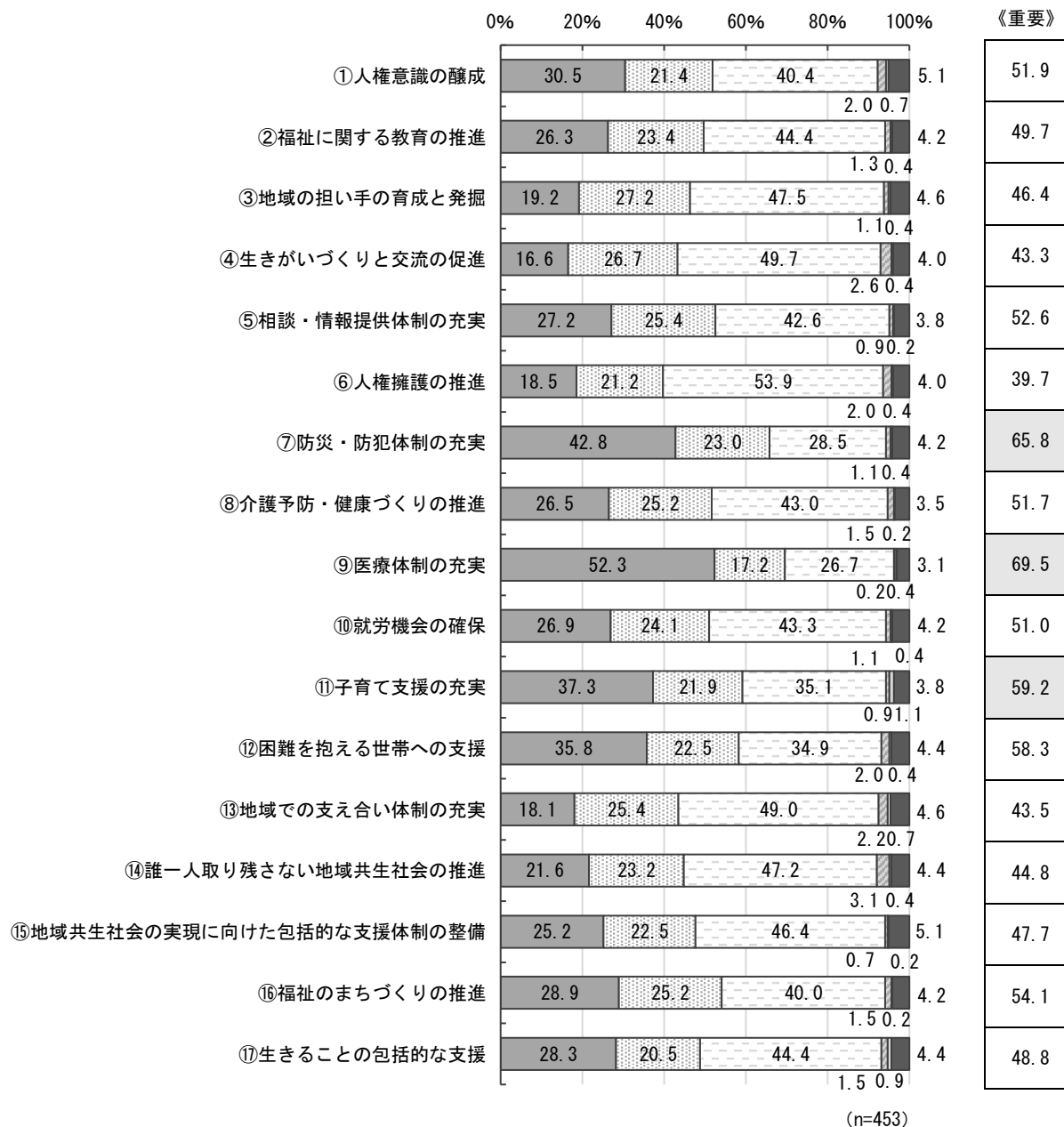
■ 満足度

地域福祉に関する取り組みのそれぞれの満足度をみると、「満足」と「やや満足」を合わせた《満足》は【⑨医療体制の充実】で22.6%と最も多く、次いで【⑪子育て支援の充実】が16.3%、【⑦防災・防犯体制の充実】が14.4%となっています。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた《不満》では【①⑥福祉のまちづくりの推進】が21.0%と最も多く、次いで【⑤相談・情報提供体制の充実】が15.9%、【⑨医療体制の充実】が15.2%となっています。



■ 重要度

地域福祉に関する取組のそれぞれの重要度をみると、「重要」と「やや重要」を合わせた《重要》では【⑨医療体制の充実】が69.5%と最も多く、次いで【⑦防災・防犯体制の充実】が65.8%、【⑪子育て支援の充実】が59.2%となっています。



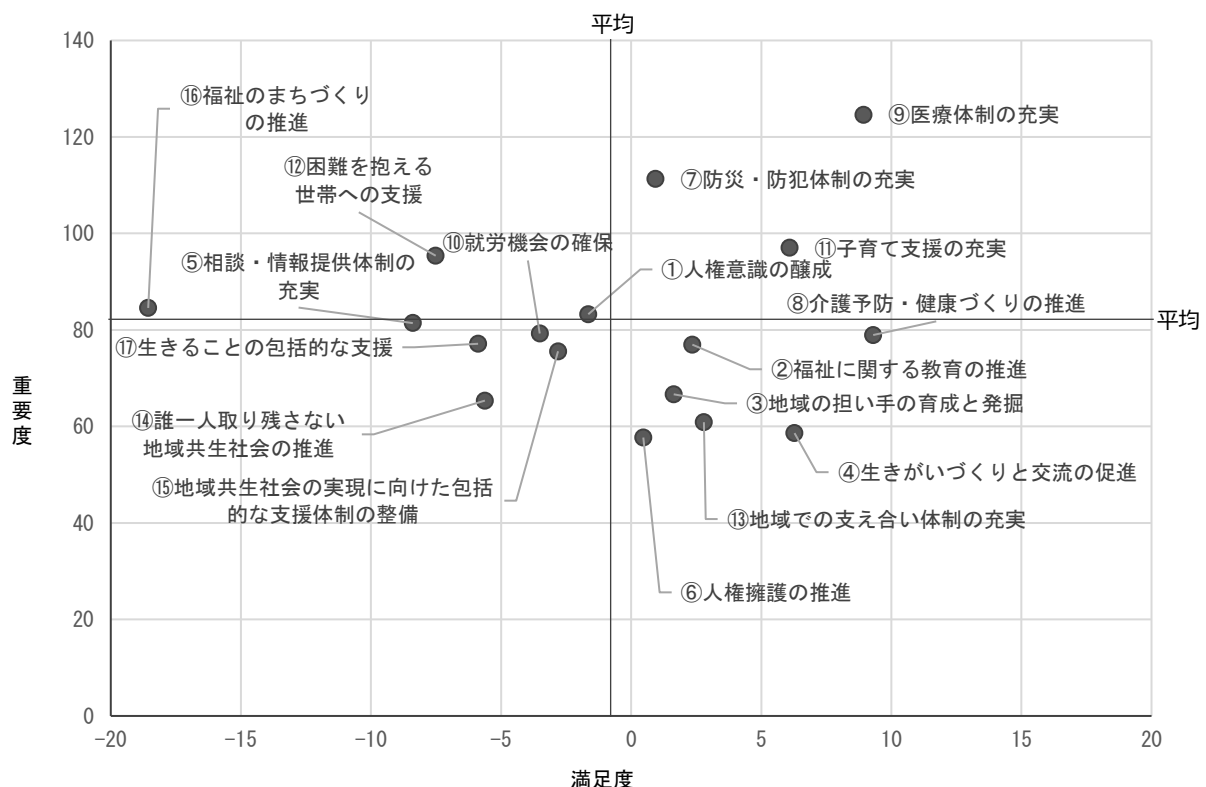
■ 重要 ■ やや重要 □ 普通 ■ あまり重要ではない ■ 重要ではない ■ 無回答

■ 満足度と重要度の相関関係

17項目について各項目の回答結果を5段階で点数化（満足/重要：2点、やや満足/やや重要：1点、普通：0点、やや不満/やや不要：-1点、不満/不要：-2点）したうえで、それらの和と回答者数から満足/重要を最大200から最小-200点で表した相関関係をグラフ化しました。

全体をみると、すべての項目で重要度が高くなっており、平均は満足度が-0.9点、重要度が80.9点となっています。

満足度と重要度の相関関係をみると、【⑨医療体制の充実】、【⑦防災・防犯体制の充実】、【⑪子育て支援の充実】に関する取組が、満足度と重要度がともに高くなっており、【⑭誰一人取り残さない地域共生社会の推進】、【⑮地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備】に関する取組が、満足度と重要度がともに平均を下回っています。また、【⑫困難を抱える世帯への支援】、【⑯福祉のまちづくりの推進】に関する取組は、重要度が高いが満足度は平均を下回り、【⑧介護予防・健康づくりの推進】、【①人権意識の醸成】、【②福祉に関する教育の推進】、【③地域の担い手の育成と発掘】、【④生きがいをづくりと交流の促進】、【⑬地域での支え合い体制の充実】、【⑥人権擁護の推進】に関する取組は、満足度は平均を上回っているが重要度が平均を下回っています。



10. 最後に（自由記述）

清瀬市の地域福祉に関するご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

清瀬市の地域福祉に関するご意見・ご要望は、107 件ありました。以下はいただいたご意見を内容ごとに分類し、地域福祉に関わる主要意見を要約したものです。

【福祉以外の分野との連携が必要なこと】（32 件）

①まちづくり、交通等について（27 件）

- ・道路の老朽化を早急に改善してほしい。
- ・歩道が狭い。介助者と一緒に歩いたり、車椅子では通れない。
- ・駅にエスカレーターを設置してほしい。階段の昇り降りで人が多くてあぶない。
- ・自転車道のスペースを広くしてほしい。
- ・バスが通っていない。移動手段がない。
- ・防災無線が聞き取れない。
- ・街灯が少ない。暗い。

②交流の場づくりについて（5 件）

- ・一人家族のため、ゆるいつながりの場が欲しい。
- ・各地域の体育館、センターをもっと開放し、コミュニティが広がるようにしてほしい。
- ・小4以降の学童が使えない子どもが一人にならない場や対応を検討してほしい。

【制度の狭間の課題（単身・孤立など）への対応】（6 件）

- ・友人が若くして孤独死しました。同じような人が出ないような支援があるといい。
- ・将来一人になったときが不安。プレお一人様、プレ介護になる市民にむけた制度があるといい。
- ・シングルも利用しやすい終活関連を支援する事業を清瀬市でも検討してほしい。
- ・親一人独身、これからが不安。50 歳を超えると無理がきかなくなる。
- ・働いている現役世代・若い世帯への支援。

【生活困窮・就労課題への対応】（3 件）

- ・義務教育でも子どもにお金がかかる。中学の制服など必須なものは無料にしてほしい。
- ・仕事をしていない人、生活保護受給者への就労支援等対応をしてほしい。

【居住に課題を抱える人への対応】（1 件）

- ・市内には高齢者や障害者のための施設がたくさんあるので、清瀬市民を優先利用させてほしい。

【虐待等の課題への対応】（1 件）

- ・親から放置されている子どもに対するサポートやケアをもっと積極的に行ってほしい。

【地域住民が集う場所の整備や既存施設等の活用について】（7 件）

- ・老朽化している地域市民センターをリニューアルしてほしい。
- ・誰でも気軽にほっとできる場所がほしい。

- ・子連れにやさしいお店や遊び場がほしい。

【全庁的な体制整備について】（５件）

- ・土日でも市役所窓口をお願いしたい。
- ・職員が地域の人に寄り添い情報を聞きだす、自発的に行動するなど、職員のスキルアップをしてほしい。

【福祉サービスの利用促進、情報提供について】（１３件）

- ・地域福祉の取り組みについて、知らないことが多すぎる。もっと周知してほしい。
- ・市報、ホームページ、SNS、動画配信など、視覚的にわかりやすく情報を発信してほしい。
- ・車椅子で行ける病院・クリニックを分かるようにしてほしい。問い合わせ先も分からない。
- ・ホームページがアクセスしづらい。地域福祉に関する情報にアクセスしやすくしてほしい。
- ・難聴者に対する音声以外の情報提供を検討してほしい。

【地域福祉に関する活動への住民等の参加促進に関すること】（１３件）

①地域住民・ボランティア団体・NPO法人等の社会福祉活動への支援（７件）

- ・無償ボランティアに頼り過ぎ。有償ボランティアを検討してほしい。
- ・小中学生からボランティア体験を取り入れてはどうか。
- ・地域住民・ボランティア団体、NPO法人等と行政がつながりをもった支援ができるとよい。
- ・自治会を設置する支援をしてほしい。
- ・地域に住民が少ないので、地域のことを決める際には市からサポートしていただき、住民同士のパイプ役をお願いしたい。

②地域福祉・地域課題への理解関心を深め、主体的な参加を促進することについて（６件）

- ・そんなに困っていないので、地域福祉について考えたことがなかった。
- ・今後はご近所の方々と助け合って生活したい。
- ・自分ごとでない問題に対して、どうしたら関心が持てるかが課題。

【包括的な支援体制の整備に関すること】（５件）

- ・窓口が多すぎて、わからない。
- ・相談にいても、たらいまわしになる。各部署間の連携を強めてほしい。
- ・こども・仕事・経済的なことなど、様々な問題を抱え悲しくなる。

その他ご意見は 21 件ありました。

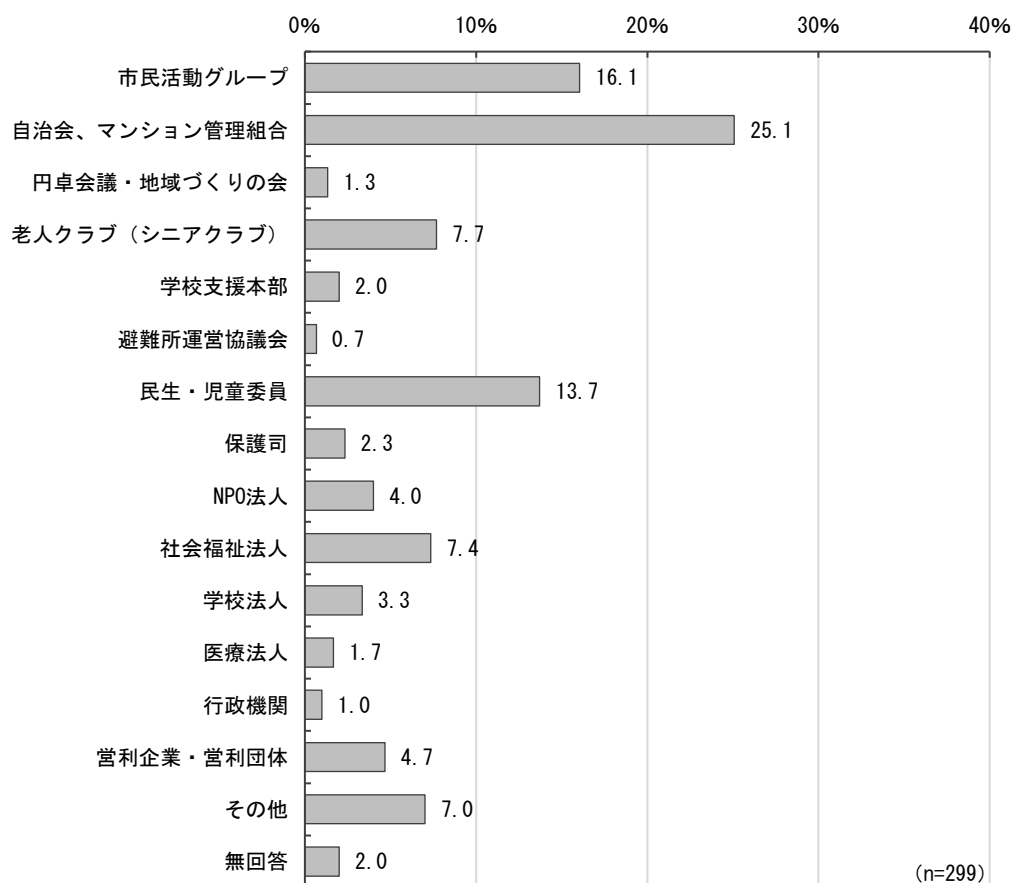
第3章 団体調査

1. 基本属性（貴団体等について）

問1 貴団体・グループの種類を教えてください。（1つに○）

回答いただいた団体・グループの種類は、「自治会、マンション管理組合」が25.1%と最も多く、次いで「市民活動グループ」が16.1%、「民生・児童委員」が13.7%となっています。

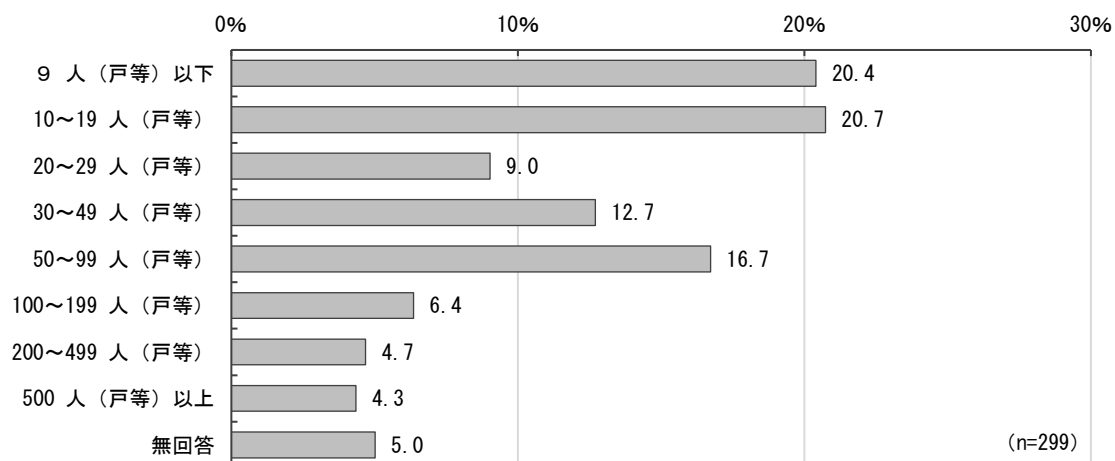
また、「その他」の意見には、「商店会」「公益法人」「こども食堂」などがありました。



問2 貴団体・グループの令和7年10月1日現在のおおよその概要をお答えください。

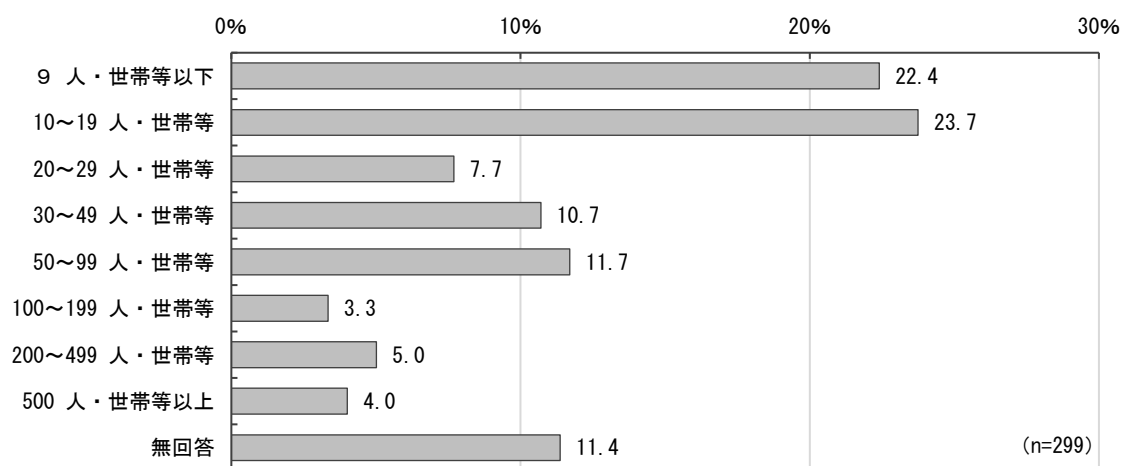
① 会員・職員数

回答いただいた団体・グループの会員・職員数では、「10～19 人（戸等）」が 20.7%と最も多く、次いで「9 人（戸等）以下」が 20.4%、「50～99 人（戸等）」が 16.7%となっています。



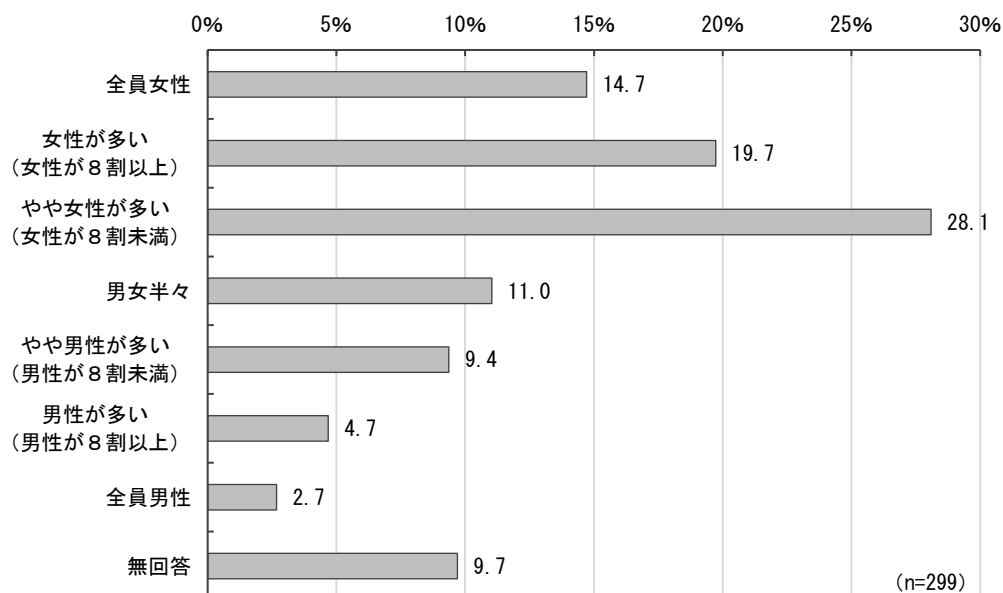
② 実質的な活動者・利用者数

回答いただいた団体・グループの実質的な活動者・利用者の状況では「10～19 人（戸等）」が 23.7%と最も多く、次いで「9 人（戸等）以下」が 22.4%、「50～99 人（戸等）」が 11.7%となっています。



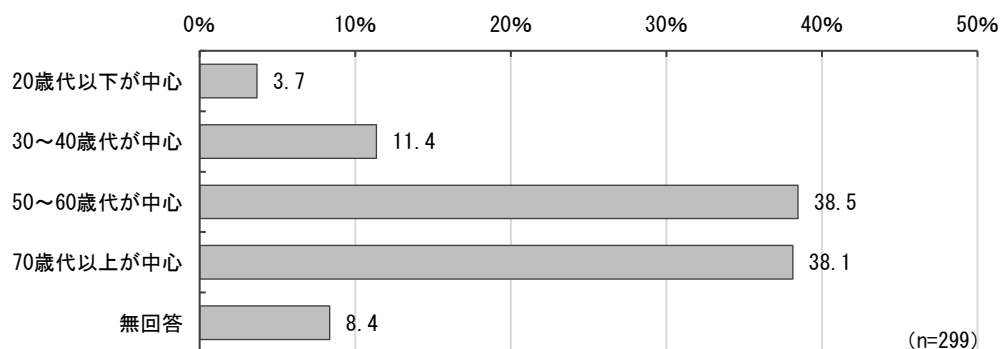
③ 会員・職員の男女比率

回答いただいた団体・グループの会員・職員の男女比では、「やや女性が多い(女性が8割未満)」が28.1%と最も多く、次いで「女性が多い(女性が8割以上)」が19.7%、「全員女性」が14.7%と、男性より女性が多くなっています。



④ 会員・職員の年齢

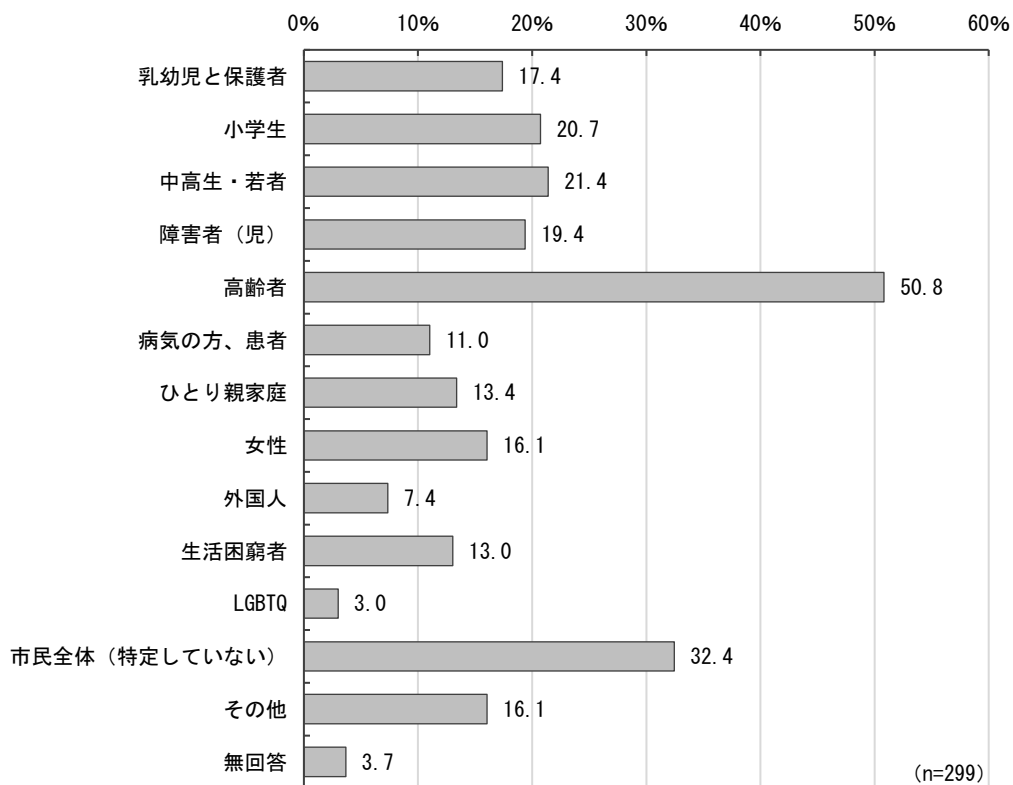
回答いただいた団体・グループの会員・職員の中心となる年代では、「50～60 歳代が中心」が38.5%と最も多く、次いで「70 歳代以上が中心」が38.1%となっています。



⑤ 活動対象（あてはまるものすべてに○）

回答いただいた団体・グループの活動対象では、「高齢者」が50.8%と最も多く、次いで「市民全体（特定していない）」が32.4%、「中高生・若者」が21.4%となっています。

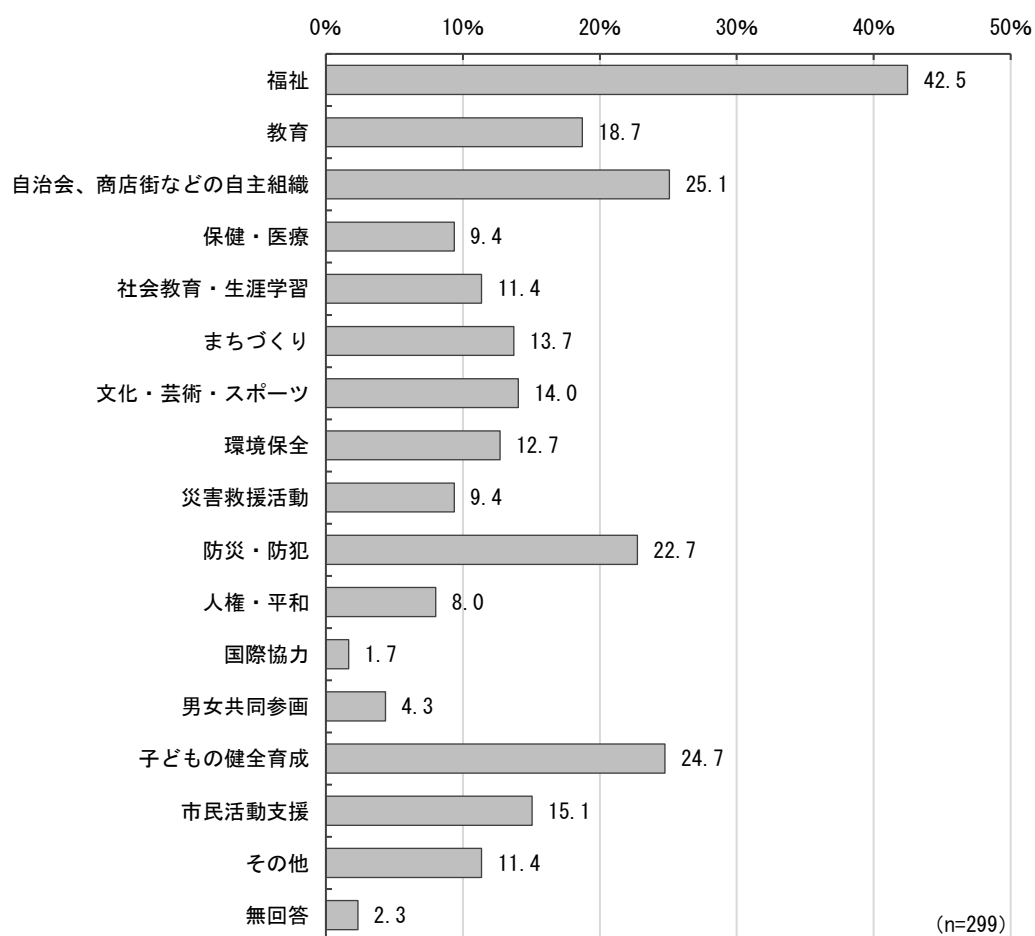
また、「その他」の意見には、「更生保護対象者」「地域住民」などがありました。



問3 貴団体・グループの主となる事業、または地域活動についてお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

回答いただいた団体・グループの主な活動内容は、「福祉」が42.5%と最も多く、次いで「自治会、商店街などの自主組織」が25.1%、「子どもの健全育成」が24.7%となっています。

また、「その他」の意見には、「夏祭り」「事業者支援」「会食サービス」「団地管理」などがありました。



(1) 活動内容を具体的にお書きください。

以下はいただいた内容と、問1と問2の回答から分野ごとに分類し、主要意見を要約したものです。

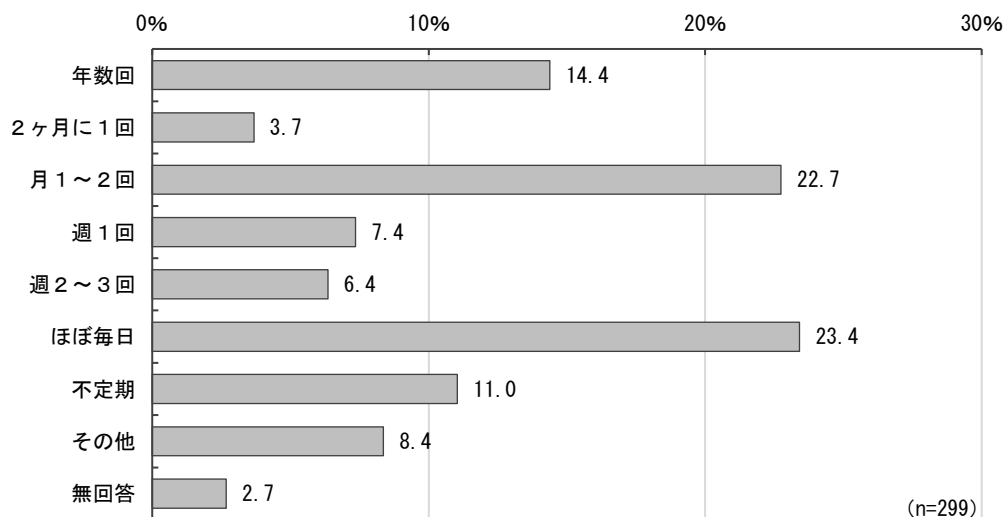
分野	活動内容
1 自治会、管理組合等	自治管理、自治会活動、町内会運営、清掃活動（地域の清掃活動、市内清掃、ゴミ集積場の掃除等）、情報提供（回覧、掲示板にポスターを貼る）防災訓練（消火訓練）、防犯（防犯パトロール、見回り、外灯点検、見守り）、イベント（お祭り、文化交流会）、募金、困りごとの橋渡し、地域の健康・生きがいづくり
2 市民（市民活動グループ、シニアクラブ等）活動団体	
子育て（児童健全育成）	子ども食堂、子どもの居場所、子育て支援、小中学校での恭男育支援活動、壊れたおもちゃの修理
健康・介護予防（運動・健康づくり）	10の筋トレ、筋力アップ運動、ウォーキング、体操、登山、水中運動、グランドゴルフ、ゲートボール、ボッチャ、輪投げ、スカットボールストレッチ、体力測定会、転倒予防、認知症予防、フレイル予防、ひきこもり予防、音楽（銭太鼓、踊り、健康促進、音楽会、カラオケ、民謡）、講演会、映画上映、料理教室、俳句、てん刻、けん玉、ゲーム、マジック、健康マージャン、囲碁、手芸など
福祉活動（障害者、介護）	意思疎通支援（点字、手話、音訳）、障害者支援、介護サービス、見守り、介護者の交流の場
環境・動物・災害救助（自然環境の保護保全・美化活動）	清掃活動、花壇の手入れ、公園の放射能測定、動物救済、ドッグラン、環境や食品、農業などの学習の場、消防訓練
国際交流	アジアの方との様々な交流、日本語教室、多文化共生・国際交流の各種講座やイベント
文化・芸術（音楽、歴史、工芸など）	少年少女合唱団、風景や花などを描く、朗読
サロン・居場所	家族交流会、多世代交流、多文化交流、親子の居場所づくり、孤立・孤食を防ぐ居場所の提供、月1回のカフェ、話相手
まちづくり、その他	なやみ相談、無料相談、ヤングケアラー支援、就農を促す活動
3 小地域福祉活動（学校支援本部、円卓会議、避難所運営等）	地域（通学路）パトロール・見守り、学校支援活動、避難所運営（訓練や学習含む）や手伝い、イベントの手伝い、地域の安全、安心の場を構成していくこと
4 民生・児童委員、保護司等	訪問・見守り（小中学生、高齢者等）、関連機関へのつなぎ役、面談、困っている方への相談窓口
5 福祉団体・社会福祉法人	障害者支援、介護保険サービス、高齢福祉サービス、幼児の預かり・保育後デイサービス、（幼児）発達支援と家族支援子育て支援、児童養護、医療
6 医療・教育	医療事業、健診事業、教育、幼児教育
7 行政機関	職業紹介、雇用保険、雇用対策などに関する事務
8 営利企業（商店街・商工会等）	市内一斉掃除、イベント（夏の盆踊り、市民祭り）、事業者支援など

問4 貴団体・グループの活動状況をお答えください。

(1) 活動頻度 (最も近いもの1つに○)

団体・グループの活動頻度については、「ほぼ毎日」が23.4%と最も多く、次いで「月1～2回」が22.7%、「年数回」が14.4%となっています。

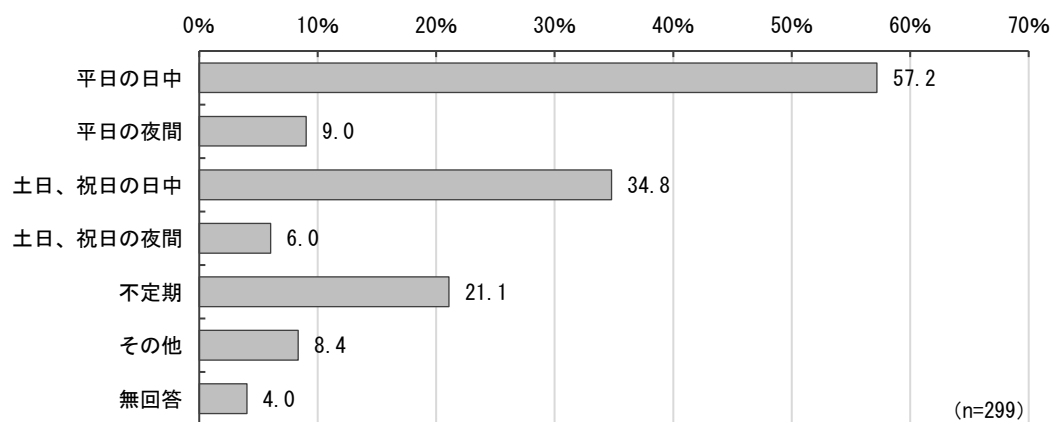
また、「その他」の意見には、「活動していない」「週5日」などがありました。



(2) 時間帯 (あてはまるものすべてに○)

団体・グループの活動時間帯については、「平日の日中」が57.2%と最も多く、次いで「土日、祝日の日中」が34.8%、「不定期」が21.1%となっています。

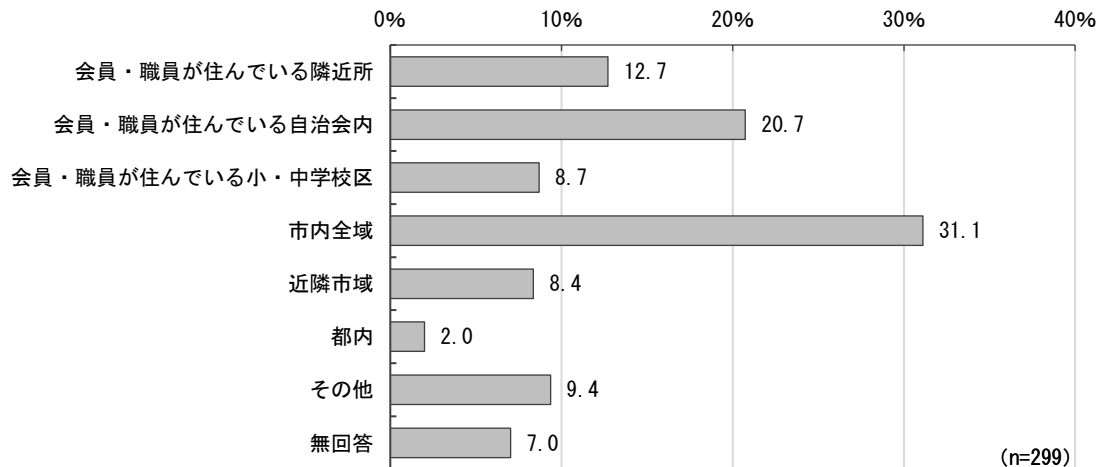
また、「その他」の意見には、「365日」「24時間」「土曜の午後」などがありました。



(3) 貴団体・グループの主となる事業、または地域活動を行っている主な地域
(主なもの1つに○)

団体・グループの主な事業・活動地域では、「市内全域」が31.1%と最も多く、次いで「会員・職員が住んでいる自治会内」が20.7%、「会員・職員が住んでいる隣近所」が12.7%となっています。

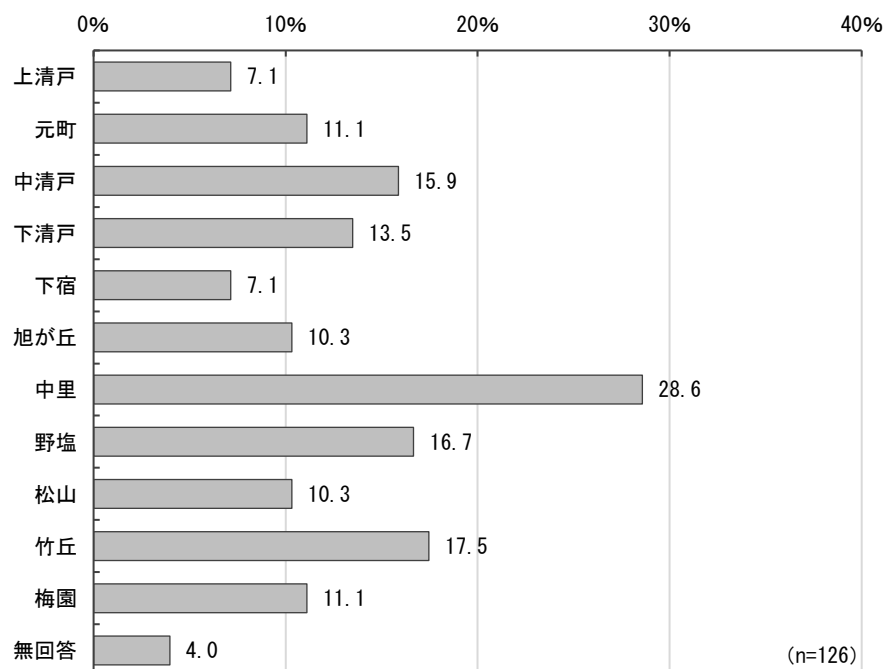
また、「その他」の意見には、「病院内」「どこでも活動できる」がありました。



問4 (3) で1～3を選んだ方にうかがいます。

(3) - 1 主な活動地域をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

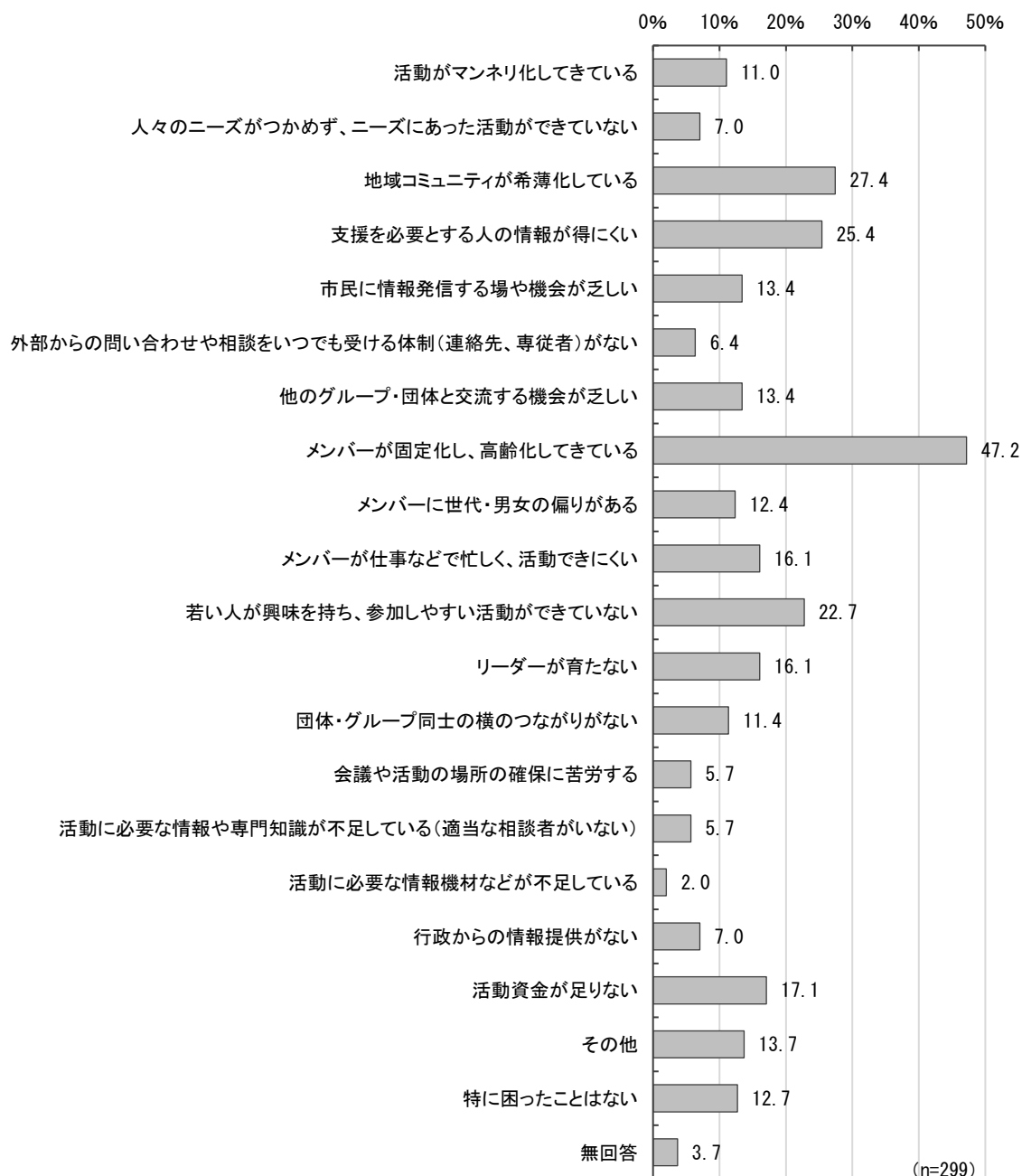
団体・グループの主な事業・活動地域の市内地域では、「中里」が28.6%と最も多く、次いで、「竹丘」が17.5%、「野塩」が16.7%となっています。



問5 貴団体・グループ等の主となる事業、または地域活動を行う上で困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

団体・グループが事業・地域活動を行う上で困っていることについては、「メンバーが固定化し、高齢化してきている」が47.2%と最も多く、次いで「地域コミュニティが希薄化している」が27.4%、「支援を必要とする人の情報が得にくい」が25.4%となっています。

また、「その他」の意見には、「スタッフ不足」「利用者・参加者がいない」などがありました。



活動分野別（問３（１））にみると、「メンバーが固定化し、高齢化してきている」は、【行政機関】を除く分野で多くなっており、民生委員・保護司等では「支援を必要とする人の情報が得にくい」が64.4%、小地域福祉活動では「地域コミュニティが希薄化している」が69.2%と多くなっています。

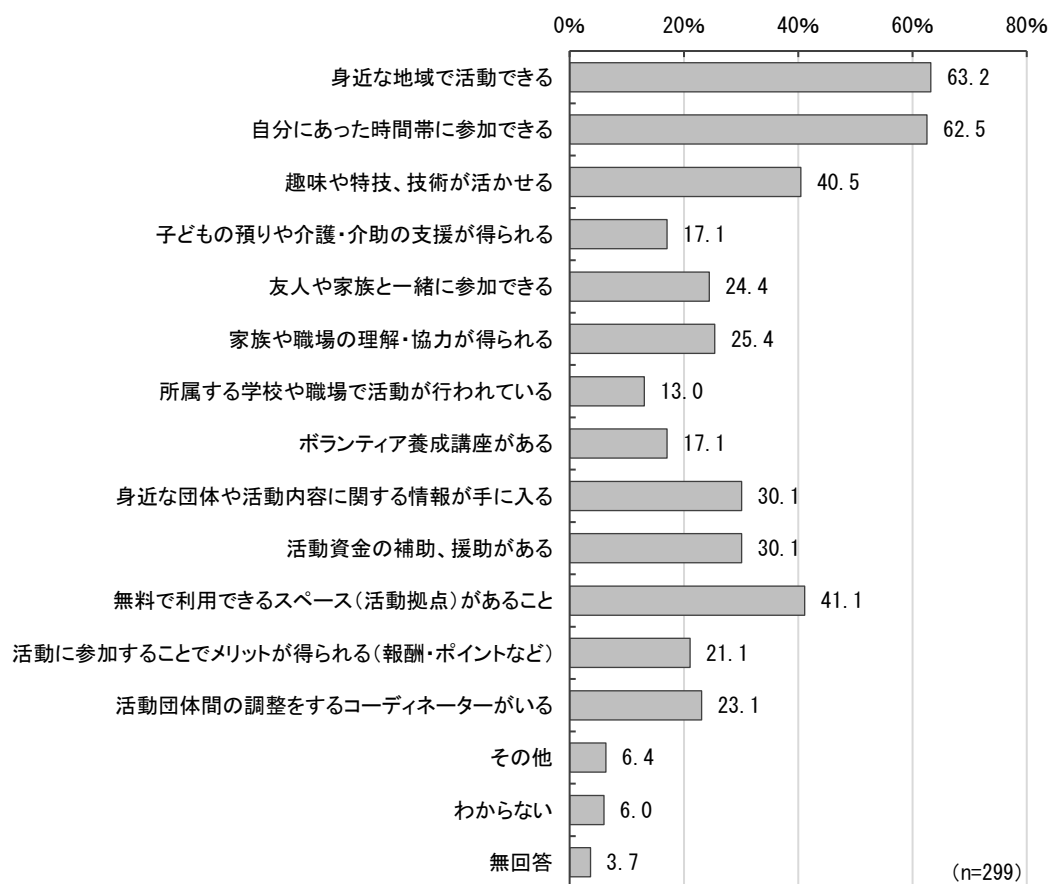
	合計	活動がマンネリ化してきている	人々のニーズがつかめず、ニーズにあった活動ができていない	地域コミュニティが希薄化している	支援を必要とする人の情報が得にくい	市民に情報発信する場や機会が乏しい	外部からの問い合わせや相談をいつでも受ける体制（連絡先、専従者）がない	他のグループ・団体と交流する機会が乏しい	メンバーが固定化し、高齢化してきている	メンバーに世代・男女の偏りがある	メンバーが仕事などで忙しく、活動できにくい	若い人が興味を持ち、参加しやすい活動ができていない
全体	299	11.0	7.0	27.4	25.4	13.4	6.4	13.4	47.2	12.4	16.1	22.7
自治会、管理組合等	77	13.0	11.7	41.6	19.5	3.9	6.5	10.4	54.5	11.7	22.1	24.7
市民活動団体	92	15.2	4.3	15.2	22.8	21.7	8.7	14.1	59.8	19.6	9.8	19.6
小地域福祉活動	13	15.4	15.4	69.2	15.4	30.8	23.1	15.4	38.5	7.7	46.2	23.1
民生・児童委員、保護司等	45	4.4	13.3	40.0	64.4	11.1	2.2	13.3	44.4	6.7	22.2	35.6
福祉団体・社会福祉法人	40	5.0	0.0	20.0	17.5	17.5	5.0	25.0	22.5	12.5	7.5	12.5
医療・教育	15	0.0	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0	6.7	20.0	0.0	6.7	6.7
行政機関	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
営利	9	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	11.1	22.2
その他	6	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	66.7	16.7	16.7	50.0

	合計	リーダーが育たない	団体・グループ同士の横のつながりが弱い	会議や活動の場所の確保に苦労する	活動に必要な情報や専門知識が不足している（適当な相談者がいない）	活動に必要な情報機材などが不足している	行政からの情報提供がない	活動資金が足りない	その他	特に困ったことはない	無回答
全体	299	16.1	11.4	5.7	5.7	2.0	7.0	17.1	13.7	12.7	3.7
自治会、管理組合等	77	18.2	10.4	5.2	5.2	3.9	11.7	14.3	7.8	15.6	3.9
市民活動団体	92	20.7	14.1	7.6	4.3	1.1	9.8	21.7	17.4	6.5	1.1
小地域福祉活動	13	30.8	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0	30.8	23.1	0.0	0.0
民生・児童委員、保護司等	45	4.4	4.4	6.7	13.3	2.2	4.4	8.9	15.6	4.4	2.2
福祉団体・社会福祉法人	40	15.0	22.5	2.5	5.0	2.5	2.5	17.5	22.5	17.5	2.5
医療・教育	15	0.0	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0	6.7	0.0	40.0	33.3
行政機関	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
営利	9	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0
その他	6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0

問6 多くの人がボランティア活動や地域活動に参加するためには、どのような環境づくり、条件等が必要と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

多くの人がボランティア活動や地域活動に参加するための、必要な環境づくり、条件等については、「身近な地域で活動できる」が63.2%と最も多く、次いで「自分にあった時間帯に参加できる」が62.5%、「無料で利用できるスペース（活動拠点）があること」が41.1%となっています。

また、「その他」の意見には、「高齢化の対策」「若者の参加促進」「職員も参加する」「ネットなどで利用先を探しやすいような情報提供が必要」などがありました。

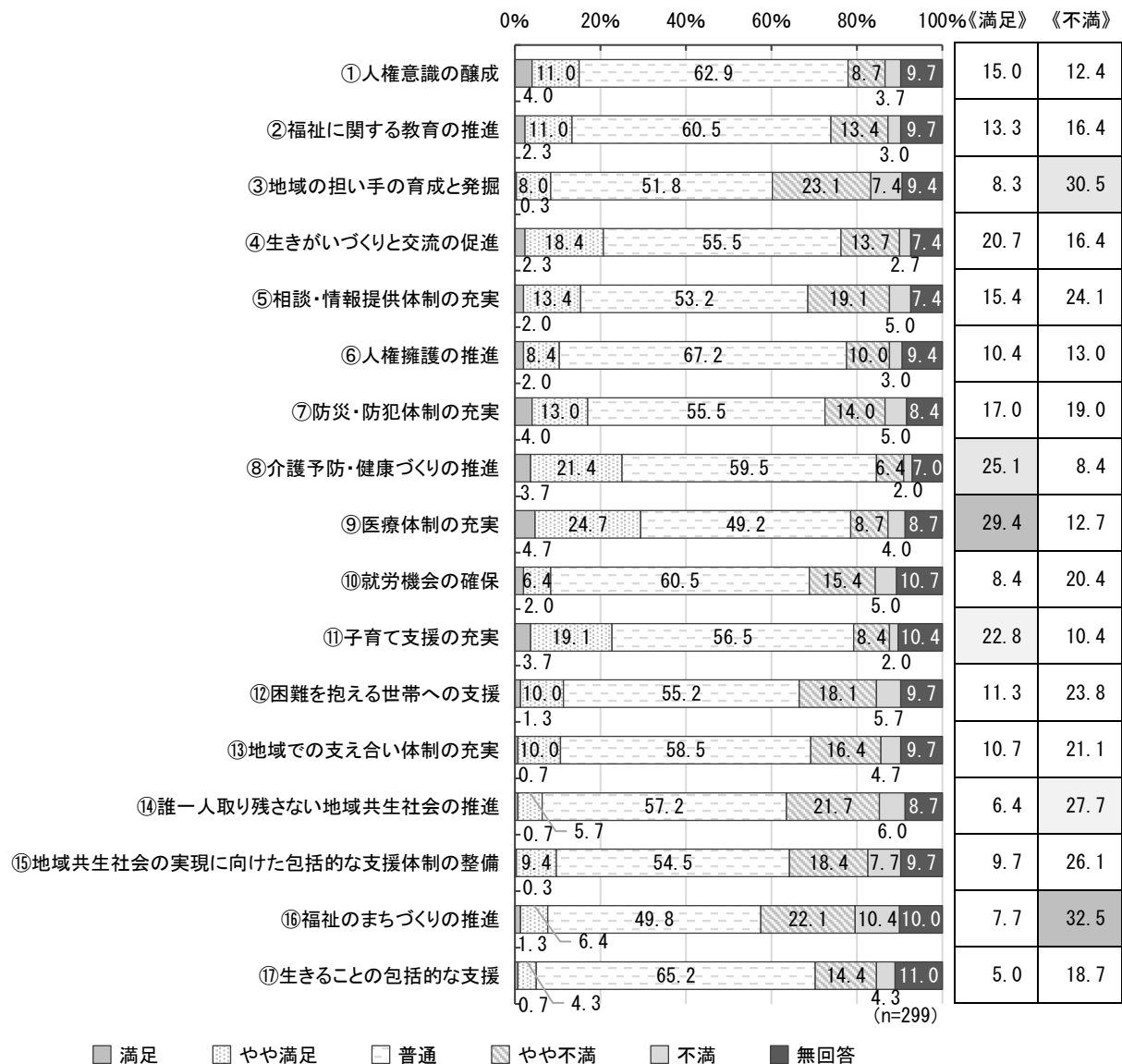


2. 地域福祉について

問7 地域福祉に関する以下の取り組み（①～⑰）について、それぞれ満足度と重要度をお答えください。（それぞれ満足度と重要度にあてはまるもの1つに○ずつ）

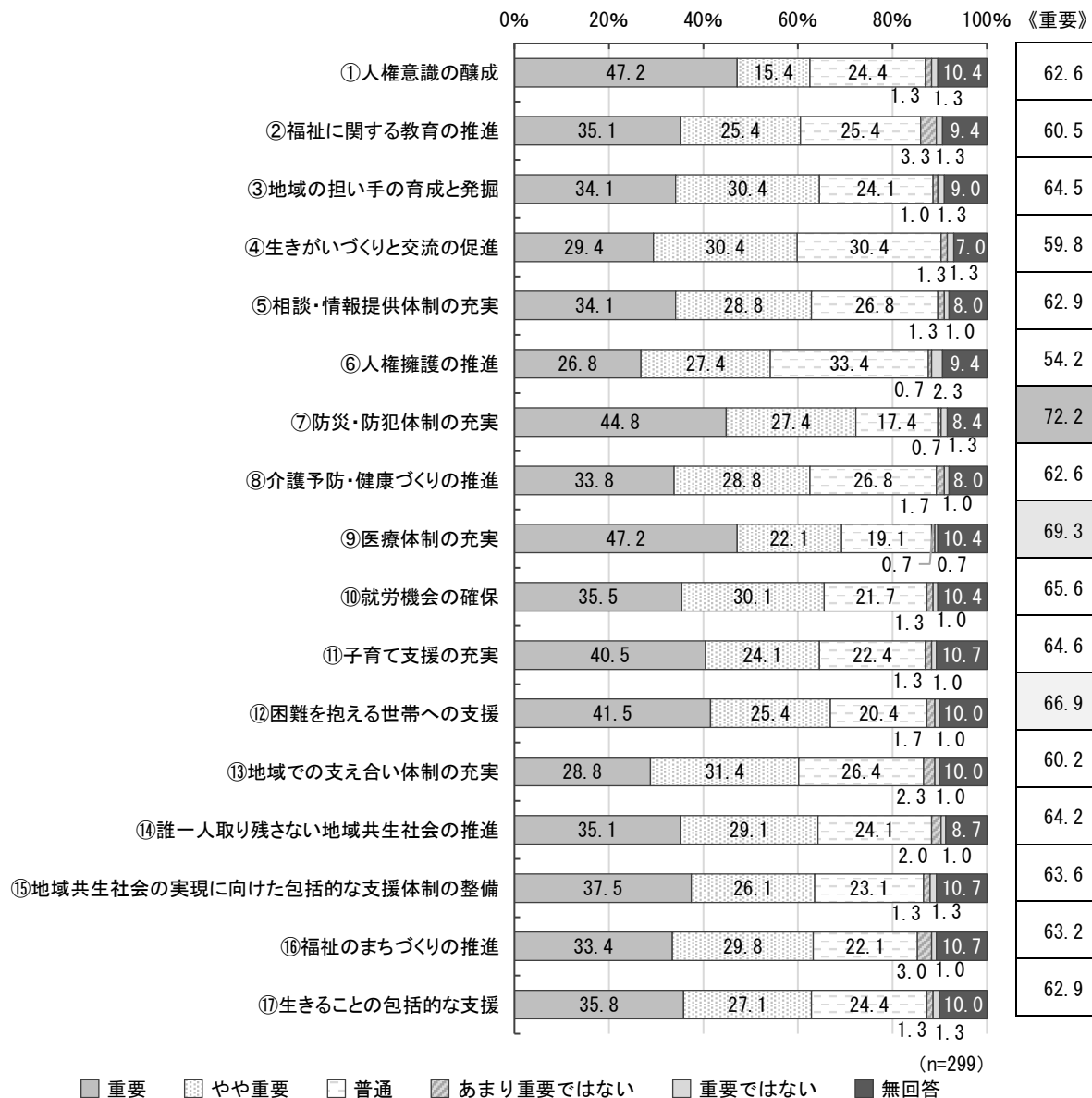
■ 満足度

地域福祉に関する17つの取り組みに関する満足度をみると、「満足」と「やや満足」を合わせた《満足》は『医療体制の充実』が29.4%と最も多く、次いで『介護予防・健康づくりの推進』が25.1%、『子育て支援の充実』が22.8%となっています。また「やや不満」と「不満」を合わせた《不満》は『福祉のまちづくりの推進』が32.5%と最も多く、次いで『地域の担い手の育成と発掘』が30.5%、『誰一人取り残さない地域共生社会の推進』が27.7%となっています。



■ 重要度

地域福祉に関する17つの取組に関する重要度をみると、「重要」と「やや重要」を合わせた《重要》は『防災・防犯体制の充実』が72.2%と最も多く、次いで『医療体制の充実』が69.3%、『困難を抱える世帯への支援』が66.9%となっています。その他の項目についても《重要》は、概ね6割程となっています。

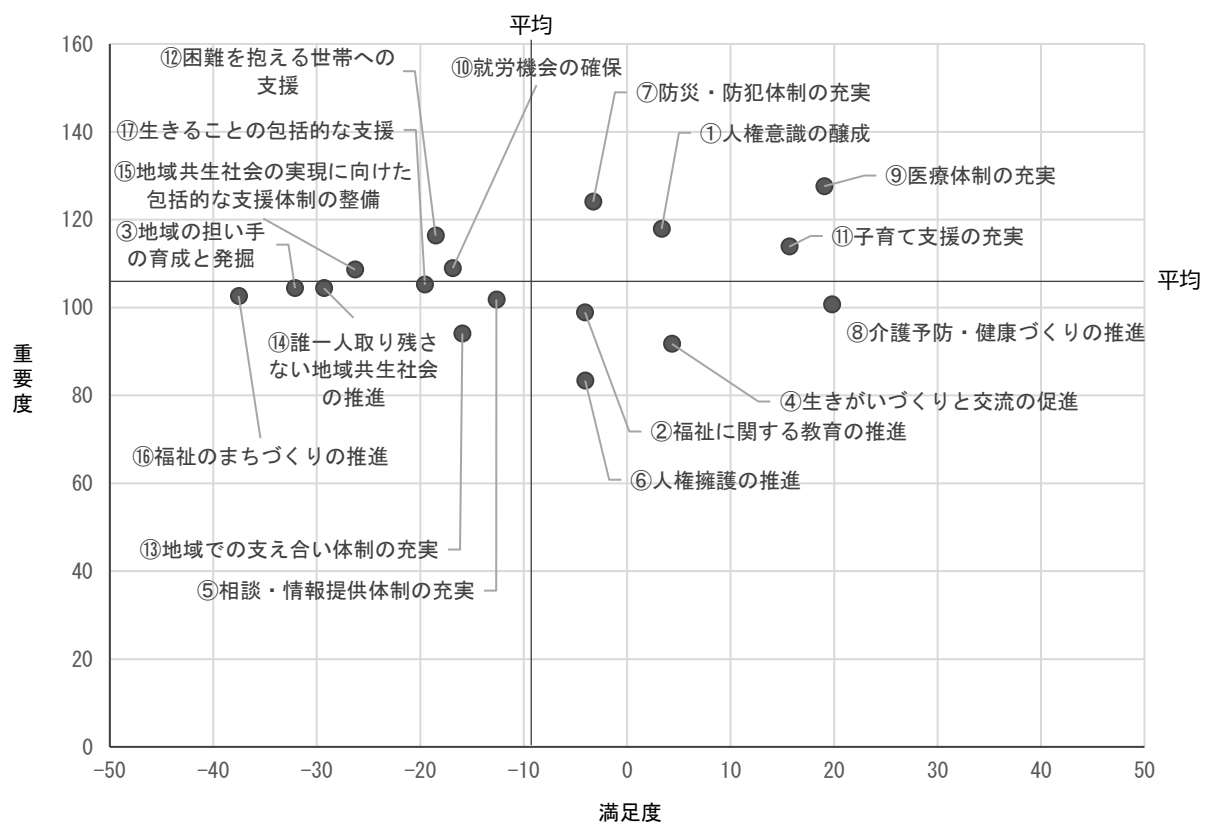


■ 満足度と重要度の相関関係

17項目について各項目の回答結果を5段階で点数化（満足/重要：2点、やや満足/やや重要：1点、普通：0点、やや不満/やや不要：-1点、不満/不要：-2点）したうえで、それらの和と回答者数から満足/重要を200～-200点で表した相関関係をグラフ化しました。

全体をみると、すべての項目で重要度が高くなっており、平均は満足度が-9.3点、重要度が106.2点となっています。

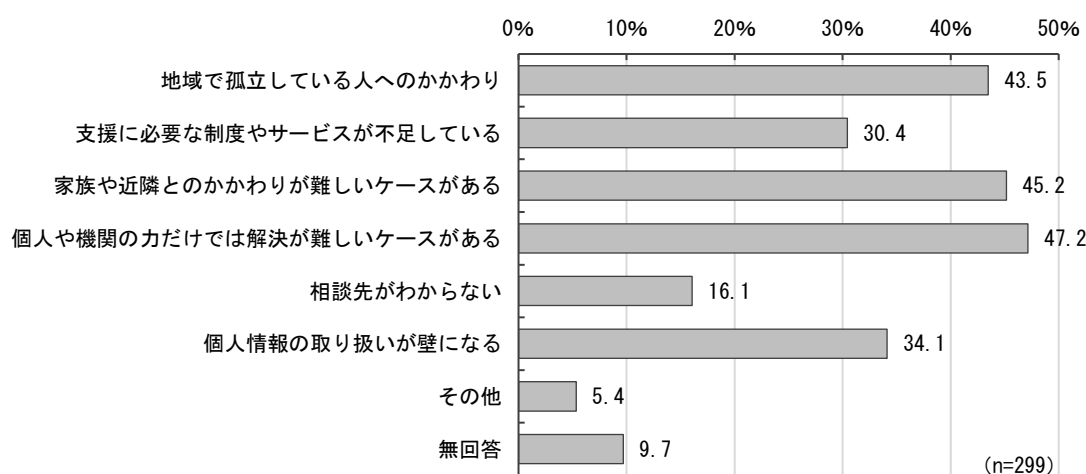
満足度と重要度の相関関係をみると、【⑨医療体制の充実】、【⑦防災・防犯体制の充実】、【①人権意識の醸成】、【⑪子育て支援の充実】に関する取組が、満足度と重要度がともに高くなっており、【⑬地域での支え合い体制の充実】、【⑯福祉のまちづくりの推進】、【⑤相談・情報提供体制の充実】に関する取組が、満足度と重要度がともに平均を下回っています。また、【⑫困難を抱える世帯への支援】、【⑩就労機会の確保】、【⑮地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備】に関する取組は、重要度が高いが満足度は平均を下回り、【⑧介護予防・健康づくりの推進】、【④生きがいきつくりと交流の促進】、【②福祉に関する教育の推進】、【⑥人権擁護の推進】に関する取組は、満足度は平均を上回っているが重要度が平均を下回っています。



問8 支援を必要とする人と接する中で課題と感じている点がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

支援を必要とする人と接する中での課題は、「個人や機関の力だけでは解決が難しいケースがある」が47.2%と最も多く、次いで「家族や近隣とのかかわりが難しいケースがある」が45.2%、「地域で孤立している人へのかかわり」が43.5%となっています。

また、「その他」の意見には、「支援を必要としても自ら支援を求めない人へのアプローチが不足している」「家庭内の安全確保」などがありました。



(1) 問8の課題の解決のために、必要だと思う取り組みや社会資源がありましたら、ご自由にお書きください。

支援を必要とする人と接する中での課題解決のために、必要だと思う取り組みや社会資源についてのご意見は、92件ありました。以下はいただいたご意見を内容ごとに分類し、主要意見を要約したものです。

【課題、問題点】

- ・個人情報の壁がある。支援が必要な人の把握や取り扱いが難しい。
- ・サポーターの高齢化。
- ・オレンジハウスが増えない。

【解決方法、必要な取組・社会資源等】

①既存事業の充実

- ・既存事業の充実。

②横のつながり

- ・相談窓口の充実。

(包括的な窓口、相談しやすい仕組み、専門知識をもつ人材の充実、アプリ利用など)

- ・関係団体での情報共有や連携が必要。
- ・サポート体制の充実。

③居場所の確保

- ・母子支援施設などの充実。
- ・フリースペースの設置。（行き場のない方が寄れる場所）
- ・小学高学年や中学生などの居場所が必要。

④住民力の活用

- ・身近な地域・小地域で繋がることが大切。
- ・自治会づくりや近所との関わりが必要。
- ・社会資源の利活用。
- ・ケアラーをなくす仕組み。
- ・リーダーの育成。
- ・見守り、声かけが必要。（外国籍の方、高齢のひきこもり、ケアラーなど）

⑤知るきっかけづくり（学びの場、周知）

- ・転居してきた方への地域情報のアプローチが必要。
- ・社会福祉の周知が大切。
- ・再犯防止に向けたサポート体制の充実。受入れ体制の充実。
- ・どのようなところに困りごとがあるのかを学ぶ機会があるといい。

⑥サポート力の強化

- ・人材の育成が重要。ボランティア養成講座。
- ・人員の拡充（地域福祉コーディネーター、地域子育て支援コーディネーター、学校支援員など）。
- ・地道な信頼の積み重ねが大切。

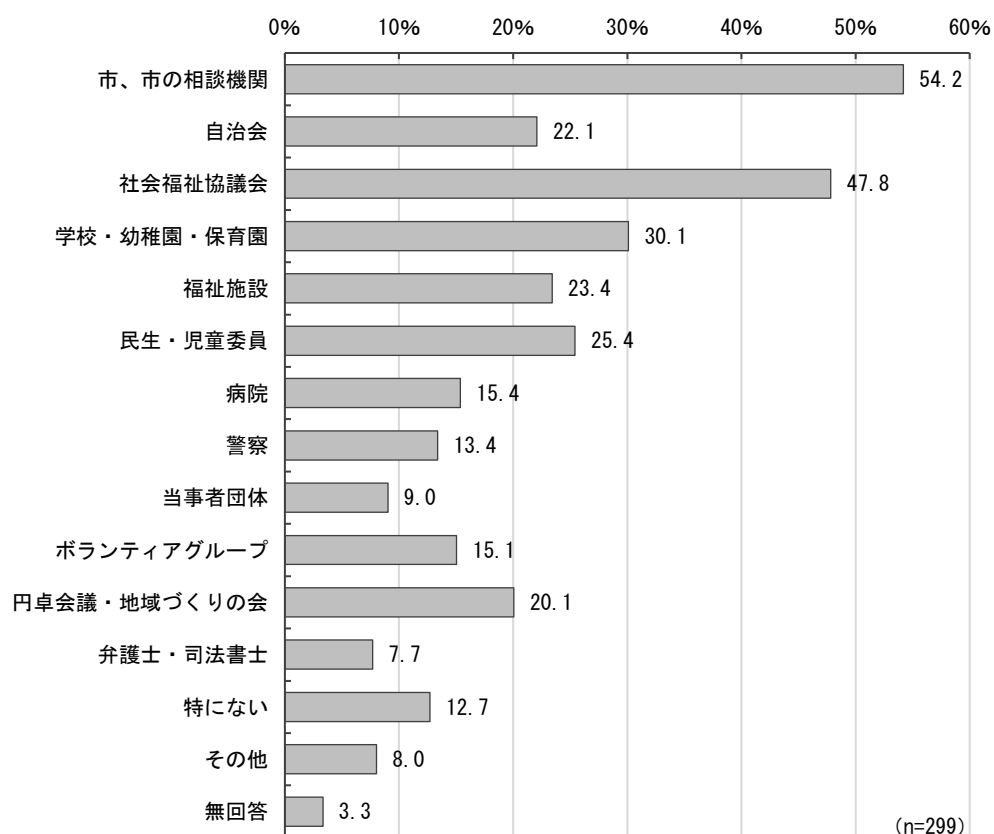
⑦その他

- ・若者支援が必要。
- ・学校（大学など）誘致で若者の力を活用する。
- ・高齢者の仕事の機会の充実。
- ・身寄りのない認知症の方への支援が必要。
- ・柔軟な支援体制があるといい。
- ・医療ケアの必要な方への防災対策。

問9 現在、どのような関係機関、専門職と連携していますか。(あてはまるものすべてに○)

関係機関・専門職との現在の連携状況では、「市、市の相談機関」が54.2%と最も多く、次いで「社会福祉協議会」が47.8%、「学校・幼稚園・保育園」が30.1%となっています。

また、「その他」の意見には、「子どもの居場所」「消費生活センター」「消防関連」「保護観察所」などがありました。

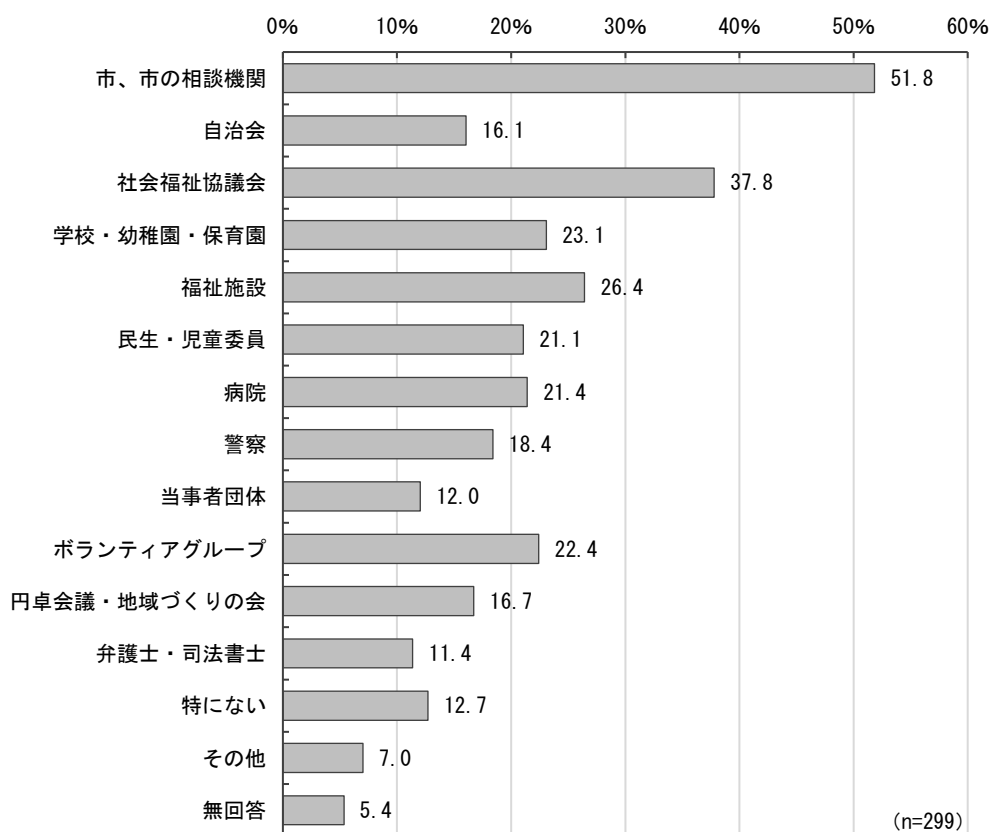


問 10 今後、どのような関係機関、専門職と連携していきたいですか。
(あてはまるものすべてに○)

関係機関・専門職との今後の連携意向では、「市、市の相談機関」が51.8%と最も多く、次いで「社会福祉協議会」が37.8%、「福祉施設」が26.4%となっています。

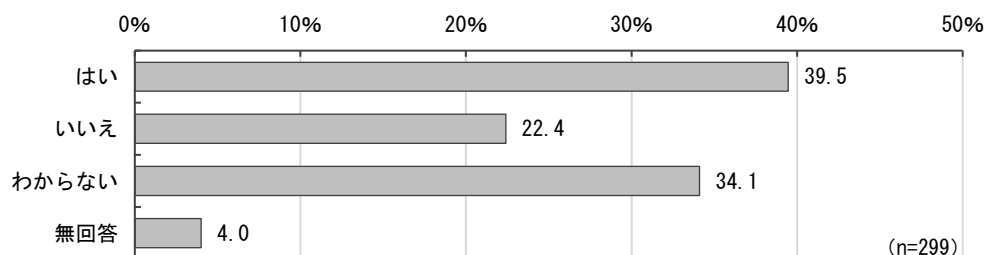
問9の現在の連携状況と比べると、「ボランティアグループ」は7.3%、「病院」は6.0%の増加となっています。

また、「その他」の意見には、「子ども食堂」「消防関連」「地域包括支援センター」「民間企業」「老人会」「必要に応じて」などがありました。



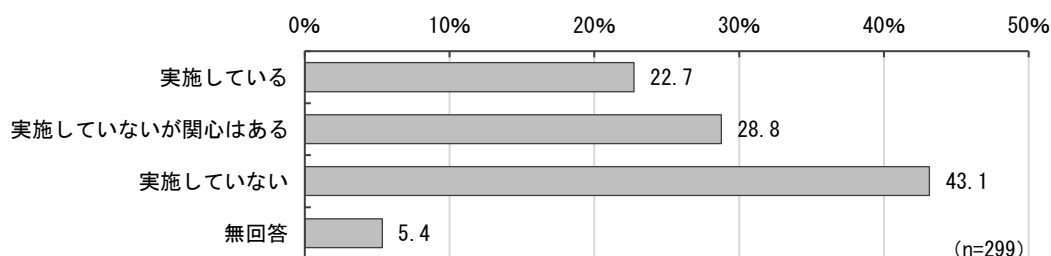
問 11 貴団体・グループの対象者（利用者）の中に、複数の課題（生活困窮・障害・ひきこもり・介護など）を抱えている人はいますか。（1つに○）

団体の利用者の中に複数の課題を抱えている人の有無では、「はい」が 39.5%、「いいえ」が 22.4%、「わからない」が 34.1%となっています。



問 12 貴団体・グループは、アウトリーチ活動（地域の困難を抱える人々に積極的に接触し支援する活動）を実施していますか。（1つに○）

アウトリーチ活動の実施状況は、「実施している」が 22.7%となっている一方、「実施していないが関心はある」が 28.8%、「実施していない」が 43.1%となっています。



実施している具体的な内容では、訪問（家庭訪問、見守り訪問）、子ども食堂・子どもたちの居場所提供、食事の提供・配達、コミュニケーション、チラシ配布、面接・相談・アドバイス、家庭支援等がありました。

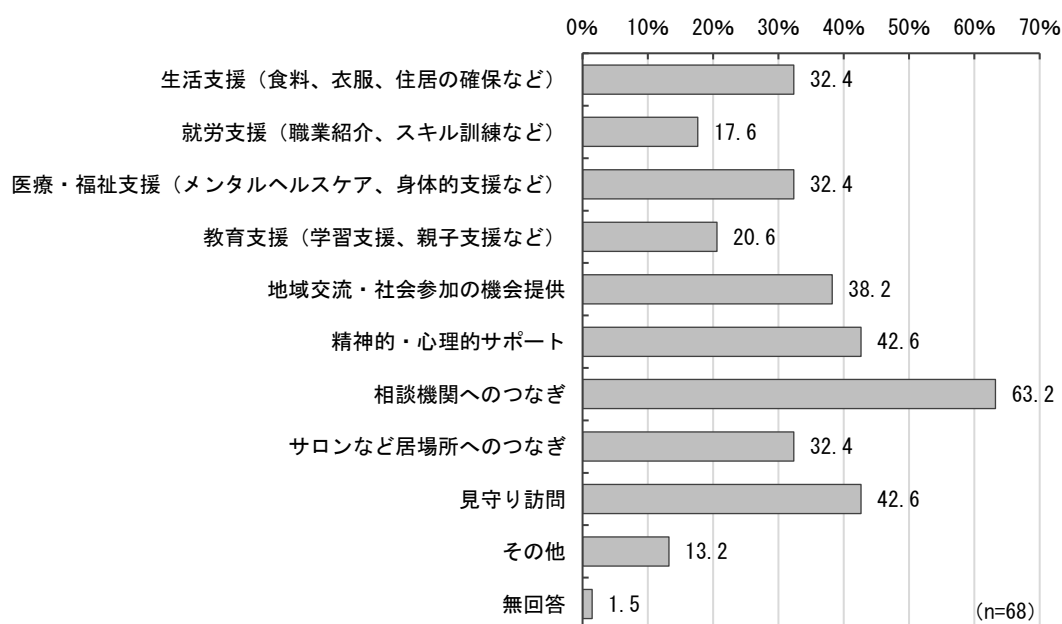
問 12 で「1. 実施している」を選んだ方にうかがいます。

(1) 貴団体・グループは、アウトリーチ活動を通じて、どのような支援を行っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

アウトリーチ活動を通じて行っている支援では、「相談機関へのつなぎ」が 63.2%と最も多く、次いで「精神的・心理的サポート」と「見守り訪問」が 42.6%、「地域交流・社会参加の機会提供」が 38.2%となっています。

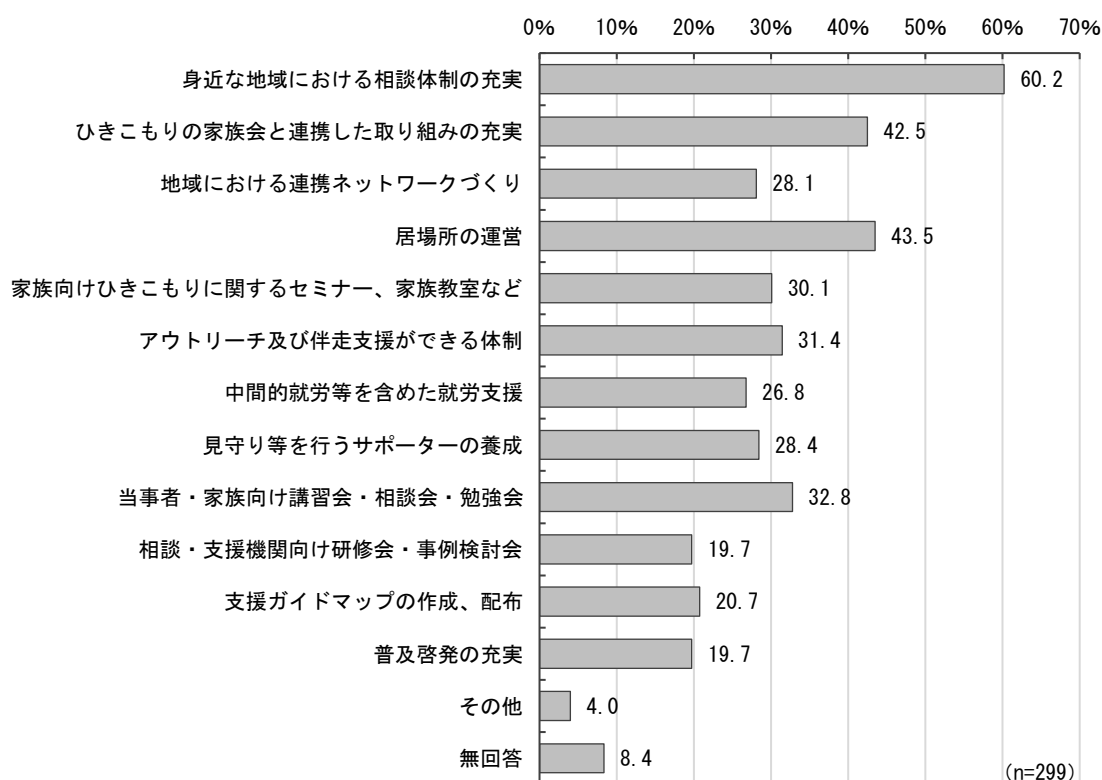
また、「その他」の意見には、「社会復帰支援」「出前講座」などがありました。



問 13 ひきこもりに係る支援について、行政や社会福祉協議会、支援機関が今後取り組む必要があると考えることは何だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

ひきこもりに係る支援について今後取り組む必要があることでは、「身近な地域における相談体制の充実」が60.2%と最も多く、次いで「居場所の運営」が43.5%、「ひきこもりの家族会と連携した取り組みの充実」が42.5%となっています。

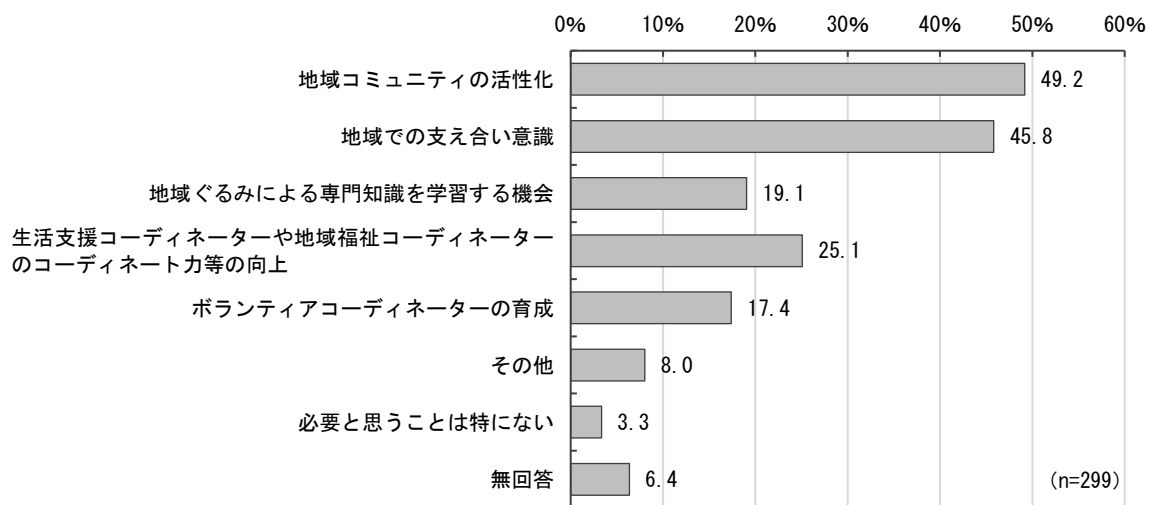
また、「その他」の意見には、「家族の問題。行政が入るのは無理がある」「専門家にまかせる」「ひきこもりだけでなく、不登校の子の居場所にも力を入れてほしい」などがありました。



問 14 地域で福祉を担う人材を育成するためには、何が必要だと思いますか。（2 つまでに○）

地域で福祉を担う人材を育成するために必要なことでは、「地域コミュニティの活性化」が 49.2%と最も多く、次いで「地域での支え合い意識」が 45.8%、「生活支援コーディネーターや地域福祉コーディネーターのコーディネート力等の向上」が 25.1%となっており、「必要と思うことは特にない」は 3.3%となっています。

また、「その他」の意見には、「資金助成、有償制度など、メリットを提示（有償ボランティア）」「小学生のころからボランティア活動に参加させる・見学させる」「個人情報の取り扱いがネックになっている」「予算をつけて専門職を雇用する」などがありました。

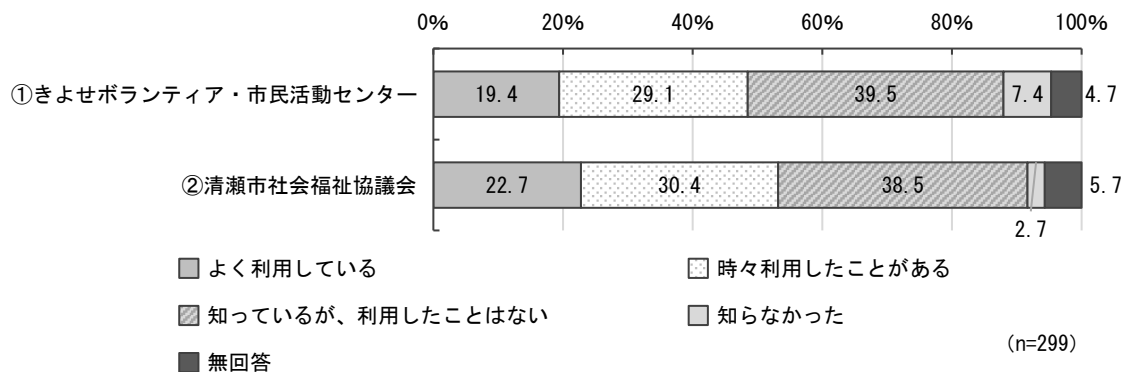


3. 清瀬市社会福祉協議会について

問 15 以下の①～②の施設について、利用されたことはありますか。（それぞれあてはまるもの1つに○）

【きよせボランティア・市民活動センター】の利用状況は、「知っているが、利用したことはない」が39.5%と最も多く、次いで「時々利用したことがある」が29.1%、「よく利用している」が19.4%となっています。

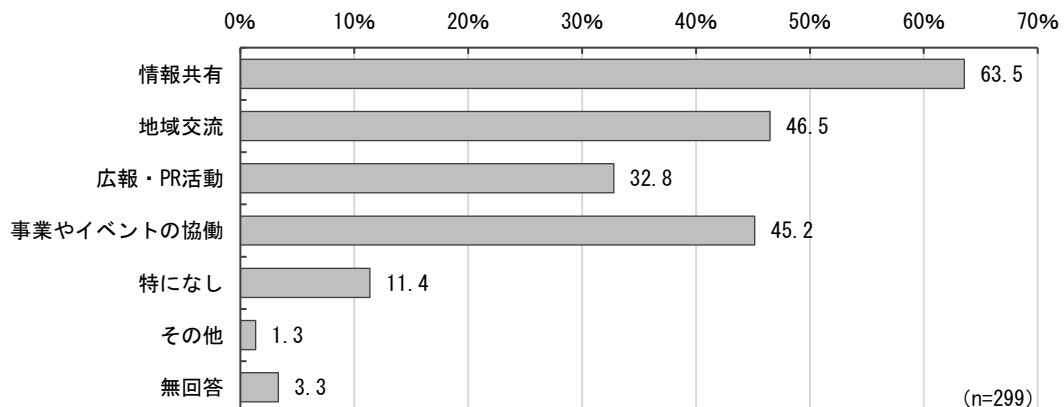
【清瀬市社会福祉協議会】の利用状況は、「知っているが、利用したことはない」が38.5%と最も多く、次いで「時々利用したことがある」が30.4%、「よく利用している」が22.7%となっています。



問 16 普段の活動において、清瀬市社会福祉協議会とどのような連携ができると考えますか。（あてはまるものすべてに○）

普段の活動において清瀬市社会福祉協議会と連携可能な内容では、「情報共有」が63.5%と最も多く、次いで「地域交流」が46.5%、「事業やイベントの協働」が45.2%となっており、「特になし」が11.4%となっています。

また、「その他」の意見には、「大事な機関なのに遠すぎて地域の困っている方が使いたくても使えない。相談もしにくい」「社協のホームページに子ども食堂の開催状況を作成してほしい」がありました。



問 17 清瀬市社会福祉協議会に期待することがありましたら、ご自由にお書きください。

清瀬市社会福祉協議会に期待するご意見等は、61 件ありました。以下はいただいたご意見を内容ごとに分類し、主要意見を要約したものです。

【地域活動などへの支援】（11 件）

- ・市民活動・ボランティア活動を支える組織として期待。
- ・コミュニティプラザひまわりを活かした取り組みに期待。
- ・登録団体が無料で利用できる開催場所を増やしてほしい。
- ・地域のイベントや活動で協働できるよう、必要に応じて相談に乗ってほしい。
- ・学校内の企画に協力をお願いしたい。
- ・今後も、活動の運営サポートや募集に協力してもらいたい。

【コーディネート機能・ネットワーク化】（6 件）

- ・専門職と連携した取組が必要。
- ・協働していきたい。
- ・情報のつなぎをしてほしい。
- ・連携と隙間のないサポート体制の構築してほしい。
- ・団体同士のつなぎをしてほしい。

【新しい課題への取り組み】（10 件）

- ・新たな資源創出を率先してすすめてほしい。
- ・現状把握と分析をお願いしたい。
- ・地域福祉事業・活動のプロデュースをしてほしい。
- ・ひきこもりの方の社会的就労事業を行ってほしい。
- ・終活に係る取組をしてほしい。
- ・フードバンクの届ける仕組みを検討してほしい。

【相談機能の充実】（7 件）

- ・清瀬市内の基幹的な相談支援センター的な役割を担ってほしい。
- ・いろいろな機関と連携し、孤立している方への支援につなげてほしい。
- ・困っている方に寄り添った取り組みを今後も続けてほしい。
- ・関わっている方はたくさんいるが、もっと人員を増やしてほしい。

【人づくり】（5 件）

- ・手話での会話ができる人を期待する。
- ・中高生、大学生、社会人に幅広くボランティア意識をもらえるようなボランティアの養成をしてほしい。

【広報・情報発信】（18 件）

- ・サービスを必要としている方への周知・啓発を行ってほしい。
- ・気軽な情報交換をしてほしい。
- ・福祉に関する情報を提供してほしい。

- ・活動紹介の機会が増えるといい。
- ・好評例やプログラムなど様々な情報提供してほしい。
- ・社協の活動内容がわかりづらい。もっと見えるようになるといい。
- ・認知度を高める取組をしたほうがいい。
- ・地域で接点を持てるといい。

【その他】（4件）

- ・活動を支える財源を確保したい。
- ・自主事業の展開してほしい。
- ・モデルケースの紹介をしてほしい。

4. 最後に（自由記述）

問 18 清瀬市の地域福祉に関するご意見、ご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。

清瀬市の地域福祉に関するご意見・ご要望は、92 件ありました。以下はいただいたご意見を内容ごとに分類し、地域福祉に関わる主要意見を要約したものです。

【福祉以外の分野との連携が必要なこと】（14 件）

①まちづくり、交通等について（7 件）

- ・防災活動に偏りがある。災害に強い地域づくりに期待。
- ・バスが通らない地域の買物支援が必要。
- ・道路の狭さや駅のバリアフリー化が遅れている。
- ・電動車椅子やシルバーカーで歩道の移動が困難。

②交流の場づくりについて（3 件）

- ・気軽に立ち寄れて、コミュニケーションがとれるスペースの確保が必要。

③教育について（3 件）

- ・学校と連携し、学校の授業、生徒活動の中に福祉分野を取り入れた方がよい。
- ・児童の安全な環境づくりが必要。

④まちおこし、商工について（1 件）

- ・福祉と観光を結びつけた地域の活性化が必要。

【制度の狭間の課題（単身・孤立など）への対応】（3 件）

- ・社会的孤立は病につながる。地域の連携が孤立対策となる。
- ・ひきこもりの人に、ひきこもりに関する支援策を伝えるなど働きかけをした方がよい。
- ・身寄りのない一人暮らしの方が病気になった時に入院できない課題がある（身元保証をお願いしたい）。

【生活困窮・就労課題への対応】（2 件）

- ・生涯現役で働く社会の実現。
- ・人出不足で困っている業界がある。ひきこもりの人の就労支援（職場体験など）をした方がよい。

【犯罪をした人への社会復帰支援について】（1 件）

- ・清瀬の現状に合わせた再犯防止計画を策定してほしい。

【地域住民が集う場所の整備や既存施設等の活用について】（7 件）

- ・公共施設を減らさないでほしい。活動場所の確保が必要。
- ・安心して活動できる拠点を整備してほしい。
- ・老人いこいの家や空き教室の活用等、旧来の使い方だけではない活用方法の検討が必要。

【福祉サービスの利用促進、情報提供について】（13 件）

- ・市報だけではなく、情報をアプリ配信にするなどした方がよい。
- ・どんな相談窓口があるのか、支援内容の見える化をしてほしい。

- ・障害者に合わせた声かけ、リーフレットの作成、筆談などの対応をしてほしい。
- ・情報発信を積極的に行ってほしい。
- ・各サービスを関連させて説明してほしい。

【地域福祉に関する活動への住民等の参加促進に関すること】（29 件）

①地域住民・ボランティア団体・NPO法人等の社会福祉活動への支援（28 件）

- ・ボランティアの人材不足が課題。有償ボランティアに期待。
- ・次のなり手がいない。
- ・気軽に情報共有、意見交換ができるといい。
- ・同様の活動をする団体を対象としたイベントの開催など、連携強化の場への支援が必要。
- ・ボランティア団体等への財政的支援をしてほしい。
- ・活動事例の周知。
- ・活動参加へのよびかけを手伝ってほしい。

②地域福祉・地域課題への理解関心を深め、主体的な参加を促進することについて（1 件）

- ・地域活動の重要さが分からない。

【包括的な支援体制の整備に関すること】（15 件）

- ・総合的な相談窓口が必要。
- ・相談時に、さいごまで寄り添い、伴走してほしい。

【アンケート・計画の内容について】（5 件）

- ・実現可能な計画にしてほしい。
- ・具体的で数値的なことが記載された計画としてほしい。コストや目標指数などからロードマップも掲げて、毎年度の進捗を成果指数を用いて評価してほしい。
- ・アンケートの結果を公開してほしい。
- ・アンケートの内容を計画に反映し、確実に今後の施策に反映させてほしい。

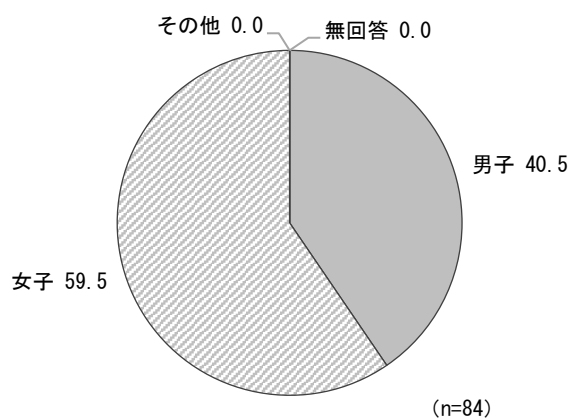
その他ご意見は3件ありました。

第4章 こども調査

1. 基本属性

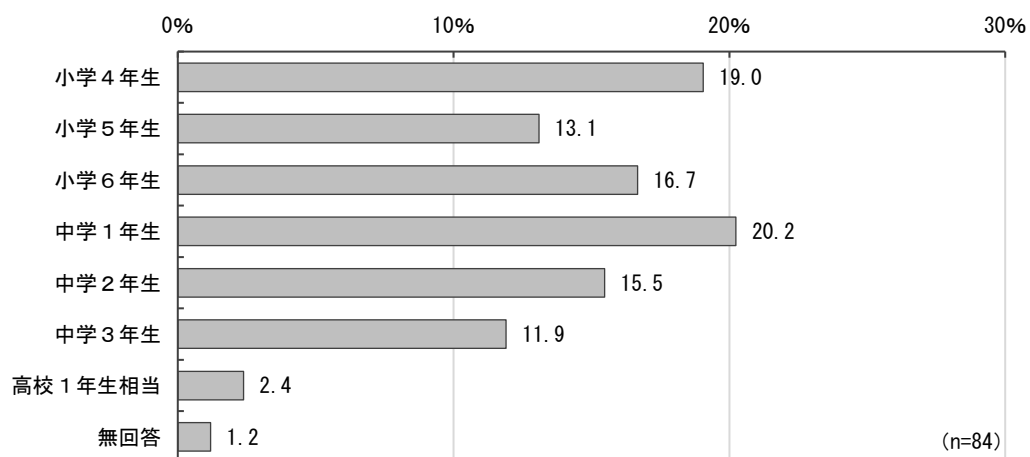
問1 あなたの性別をお答えください。

回答者の性別では、「男子」が40.5%、「女子」が59.5%となっています。



問2 あなたの学年をお教えてください。(1つに○)

回答者の学年では、「中学1年生」が20.2%と最も多く、次いで「小学4年生」が19.0%、「小学6年生」が16.7%となっています。



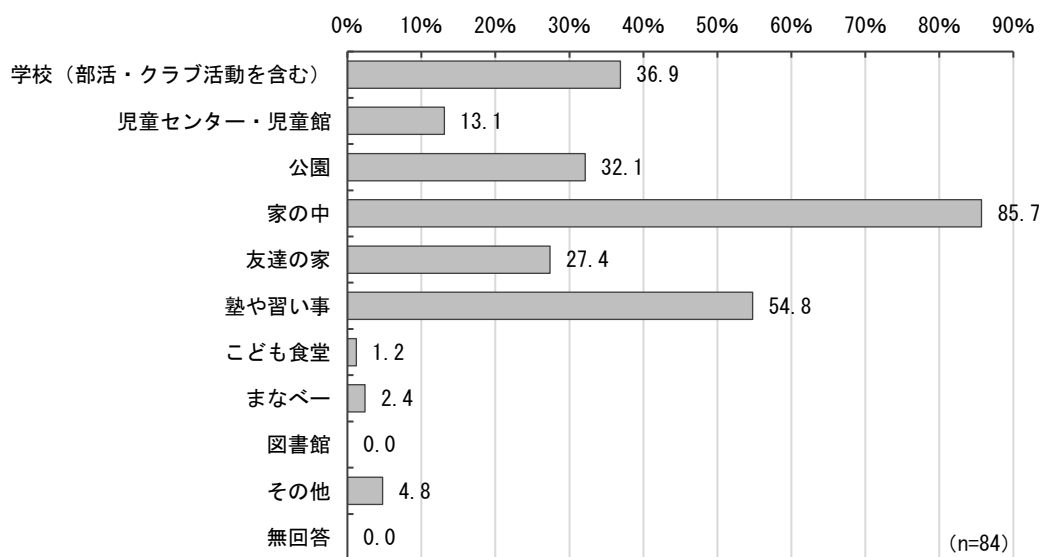
2. 放課後以降の過ごし方

問3 放課後はどんなところで過ごしますか。(あてはまるものすべてに○)

放課後に過ごす場所では、「家の中」が85.7%と最も多く、次いで「塾や習い事」が54.8%、「学校（部活・クラブ活動を含む）」が36.9%となっています。

学年別でみると、小学生・中学生以上ともに「家の中」が最も多く、小学生では「塾や習い事」、中学生以上では「学校（部活・クラブ活動を含む）」が多くなっています。

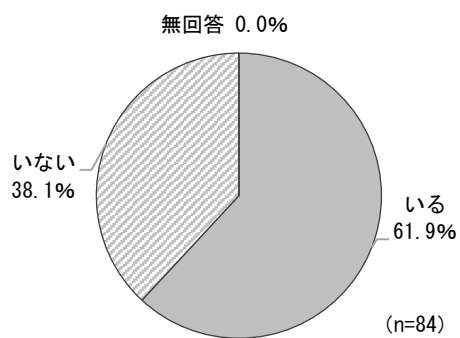
また、「その他」の意見には、「学校が運営している塾や学童のようなコース」「放課後等デイサービス」がありました。



	合計	学校（部活・クラブ活動を含む）	児童センター・児童館	公園	家の中	友達の家	塾や習い事	こども食堂	まなべー	図書館	その他	無回答
全体	84	36.9	13.1	32.1	85.7	27.4	54.8	1.2	2.4	0.0	4.8	0.0
小学生	41	22.0	17.1	51.2	82.9	39.0	65.9	2.4	4.9	0.0	4.9	0.0
中学生以上	42	50.0	9.5	14.3	90.5	16.7	45.2	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0
男子	34	29.4	8.8	32.4	82.4	23.5	47.1	2.9	2.9	0.0	8.8	0.0
女子	50	42.0	16.0	32.0	88.0	30.0	60.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0

問4 放課後、宿題をみてる大人はいますか。(1つに○)

宿題を見てる大人の有無では「いる」が61.9%、「いない」が38.1%となっています。
学年別でみると、小学生では「いる」が多く、中学生以上では「いない」が多くなっています。



	合計	いる	いない	無回答
全体	84	61.9	38.1	0.0
小学生	41	78.0	22.0	0.0
中学生以上	42	47.6	52.4	0.0
男子	34	55.9	44.1	0.0
女子	50	66.0	34.0	0.0

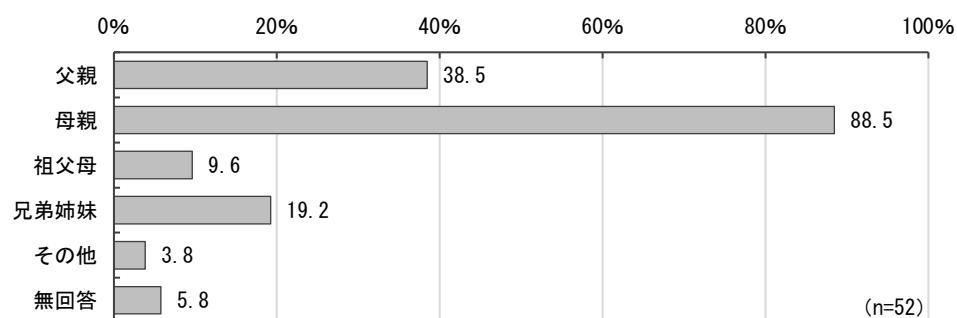
問4で「1. いる」を選んだ方にうかがいます。

(1) 主に誰がみてくれますか。(あてはまるものすべてに○)

宿題をみてくれる主な大人では、「母親」が88.5%と最も多く、次いで「父親」が38.5%、「兄弟姉妹」が19.2%となっています。

学年別性別でみると、いずれも「母親」が多くなっています。

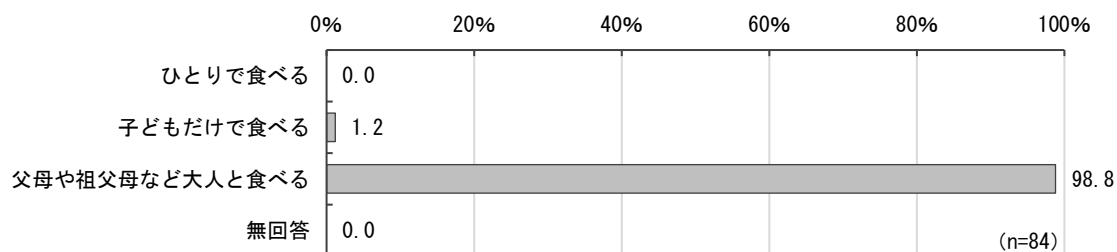
また、「その他」の意見には、「学校の先生」「塾の先生」がありました。



	合計	父親	母親	祖父母	兄弟姉妹	その他	無回答
全体	52	38.5	88.5	9.6	19.2	3.8	5.8
小学生	32	40.6	90.6	12.5	18.8	3.1	3.1
中学生以上	20	35.0	85.0	5.0	20.0	5.0	10.0
男子	19	26.3	89.5	5.3	15.8	0.0	5.3
女子	33	45.5	87.9	12.1	21.2	6.1	6.1

問5 ふだん、夕食は誰と食べていますか。(1つに○)

ふだん夕食を一緒に食べる人では、「父母や祖父母など大人と食べる」が98.8%と最も多くなっています。

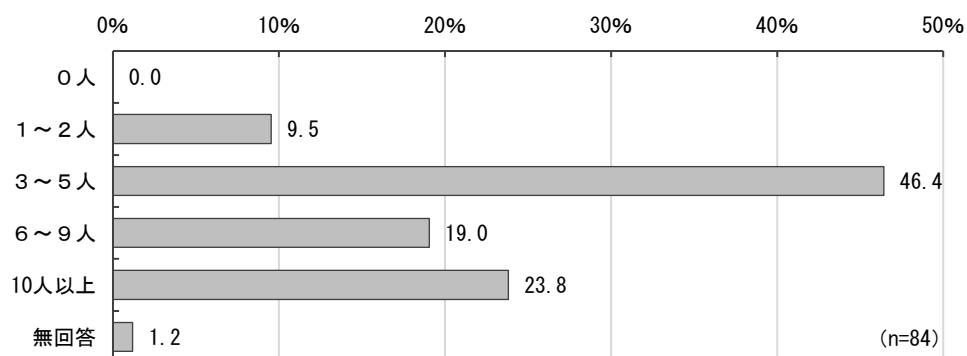


問6 最近1週間で、学校の先生以外で何人の大人と話をしましたか。(1つに○)

※「大人」には家族も含まれます。

最近1週間で、学校の先生以外の大人と話をした人数では、「3～5人」が46.4%と最も多く、次いで「10人以上」が23.8%、「6～9人」が19.0%となっています。

学年別でみると、いずれも「3～5人」が最も多くなっています。「10人以上」をみると、小学生では31.7%とやや多くなっています。



	合計	0人	1～2人	3～5人	6～9人	10人以上	無回答
全体	84	0.0	9.5	46.4	19.0	23.8	1.2
小学生	41	0.0	7.3	36.6	24.4	31.7	0.0
中学生以上	42	0.0	11.9	57.1	14.3	14.3	2.4
男子	34	0.0	17.6	41.2	14.7	23.5	2.9
女子	50	0.0	4.0	50.0	22.0	24.0	0.0

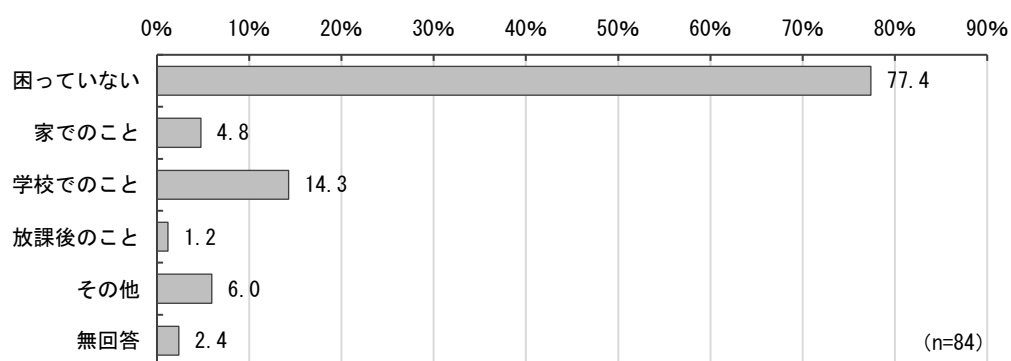
3. 困りごとや相談先

問7 生活の中で困っていることは、どんなことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

生活の中で困っていることについては、「困っていない」が77.4%と最も多く、次いで「学校でのこと」が14.3%、「その他」が6.0%となっています。

性別学年別にみると、小学生では「困っていない」が8割、中学生以上では7割となっており、困りごとの中ではいずれも「学校でのこと」が多くなっています。

また、「その他」の意見には、「受験勉強」「通学路、公園」「友人関係」「寝不足」がありました。

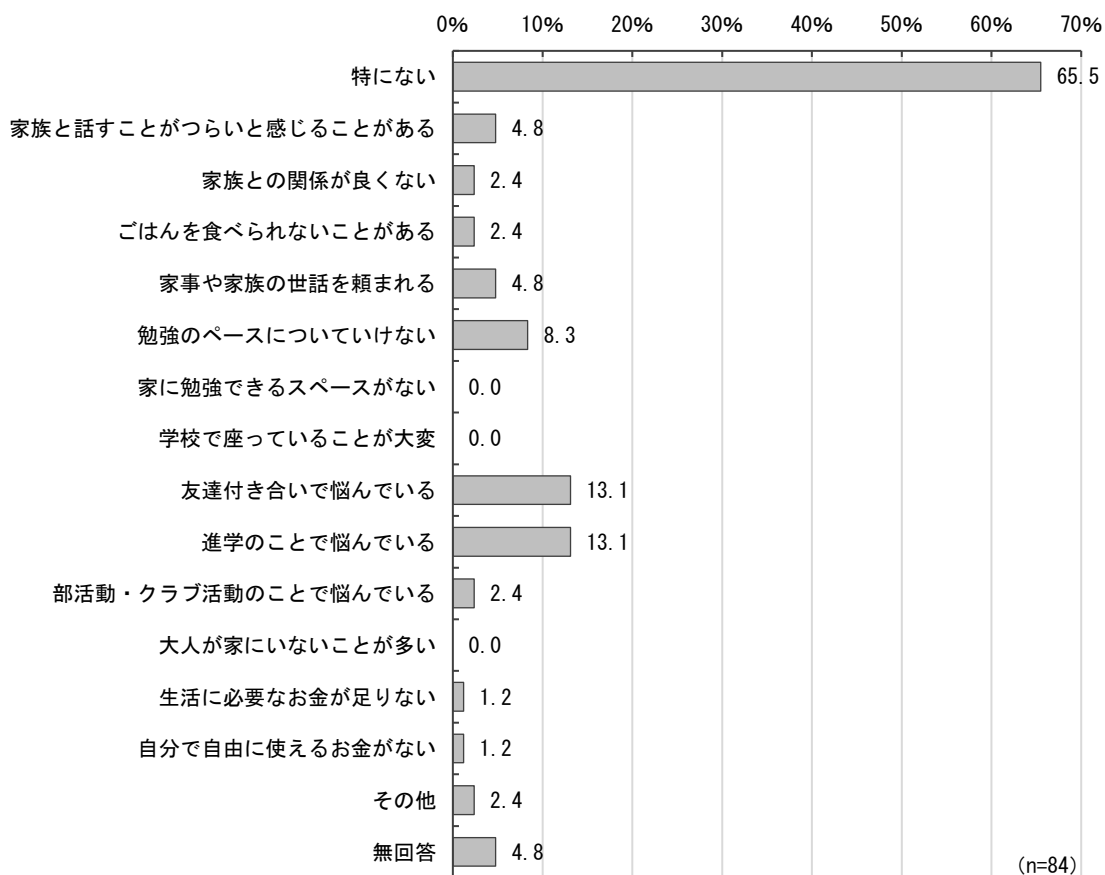


	合計	困っていない	家でのこと	学校でのこと	放課後のこと	その他	無回答
全体	84	77.4	4.8	14.3	1.2	6.0	2.4
小学生	41	85.4	0.0	7.3	2.4	7.3	0.0
中学生以上	42	69.0	9.5	21.4	0.0	4.8	4.8
男子	34	79.4	2.9	14.7	0.0	2.9	2.9
女子	50	76.0	6.0	14.0	2.0	8.0	2.0

問8 生活の中で特に困っていることを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

生活の中で特に困っていることでは、「特にない」が65.5%と最も多く、次いで「友達付き合いで悩んでいる」と「進学のこと悩んでいる」が13.1%、「勉強のペースについていけない」が8.3%となっています。

また、「その他」の意見には、「お茶を入れる係」がありました。



性別学年別でみると、いずれも「特にない」が最も多くなっています。また、困りごとの中では、小学生では「友達付き合いで悩んでいる」が最も多く、中学生以上では「進学のこと悩んでいる」が最も多くなっています。

	合計	特にない	家族と話すことがつらい と感じることがある	家族との関係が良くない	ごはんを食べられないこ とがある	家事や家族の世話を頼ま れる	勉強のペースについてい けない	家に勉強できるスペース がない	学校で座っていることが 大変
全体	84	65.5	4.8	2.4	2.4	4.8	8.3	0.0	0.0
小学生	41	68.3	0.0	0.0	0.0	9.8	4.9	0.0	0.0
中学生以上	42	61.9	9.5	4.8	4.8	0.0	11.9	0.0	0.0
男子	34	70.6	5.9	2.9	2.9	2.9	5.9	0.0	0.0
女子	50	62.0	4.0	2.0	2.0	6.0	10.0	0.0	0.0

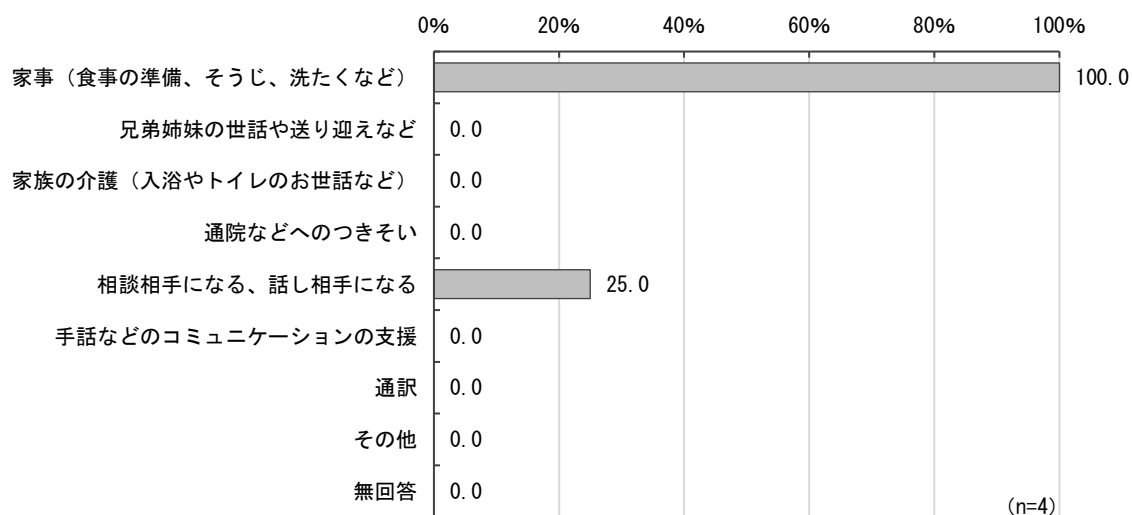
	合計	友達付き合いで悩んでい る	進学のこと悩んでいる	部活動・クラブ活動のこ とで悩んでいる	大人が家にいないことが 多い	生活に必要なお金が足り ない	自分で自由に使えるお金 がない	その他	無回答
全体	84	13.1	13.1	2.4	0.0	1.2	1.2	2.4	4.8
小学生	41	14.6	4.9	0.0	0.0	2.4	2.4	4.9	7.3
中学生以上	42	11.9	21.4	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4
男子	34	5.9	5.9	2.9	0.0	2.9	0.0	2.9	2.9
女子	50	18.0	18.0	2.0	0.0	0.0	2.0	2.0	6.0

問8で「5. 家事や家族の世話を頼まれる」を選んだ方にうかがいます。

(1) あなたが家で大人の代わりに行っているお世話は、どのようなものですか。

(あてはまるものすべてに○)

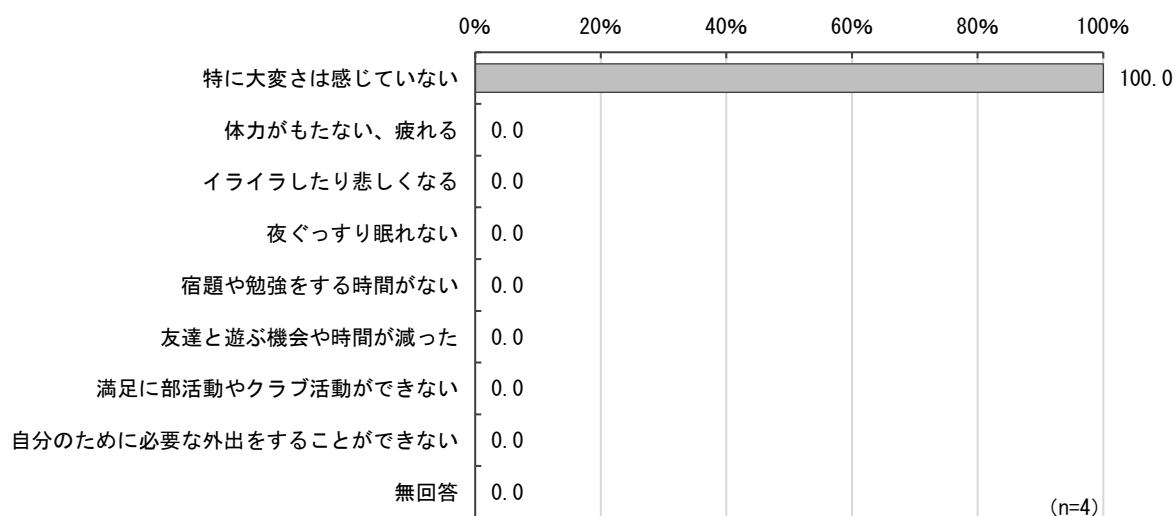
家で大人の代わりに行っているお世話の内容では、「家事（食事の準備、そうじ、洗たくなど）」が100.0%となっています。



問8で「5. 家事や家族の世話を頼まれる」を選んだ方にうかがいます。

(2) お世話をすることによってどのような大変さを感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

お世話をすることの大変さでは、「特に大変さは感じていない」が100.0%となっています。

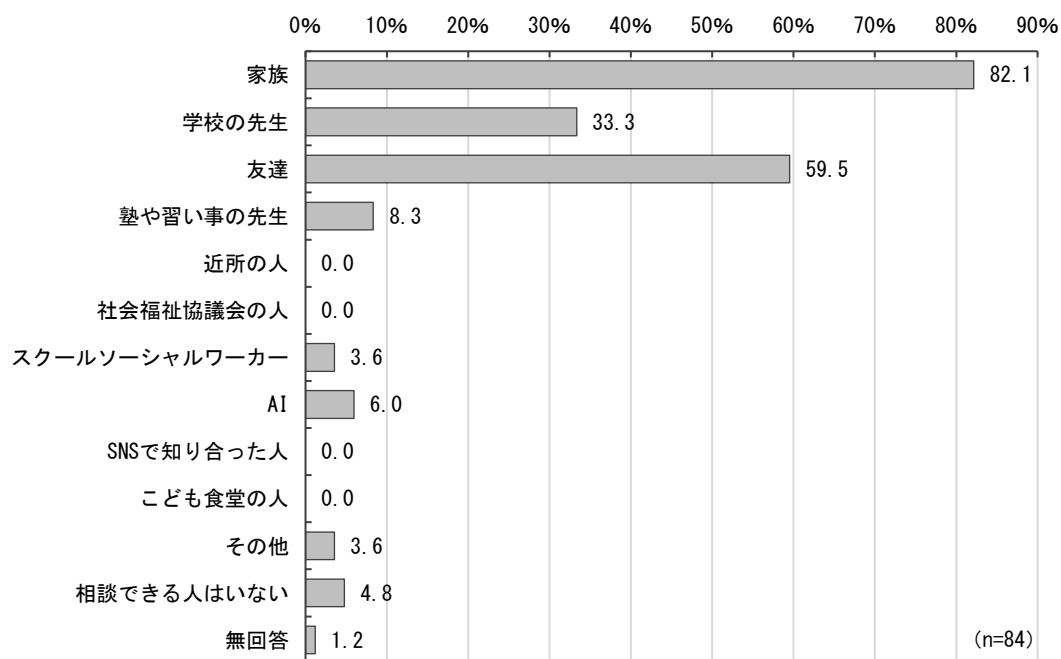


問9 ふだん、困りごとや悩みごとを誰に相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

ふだんの困りごとや悩みごとの相談相手では、「家族」が82.1%と最も多く、次いで「友達」が59.5%、「学校の先生」が33.3%となっています。

性別年齢別でみると、いずれも「家族」「友達」が多くなっています。

また、「その他」の意見には、「親友」「学校の相談室のカウンセラー」「悩みがない」がありました。

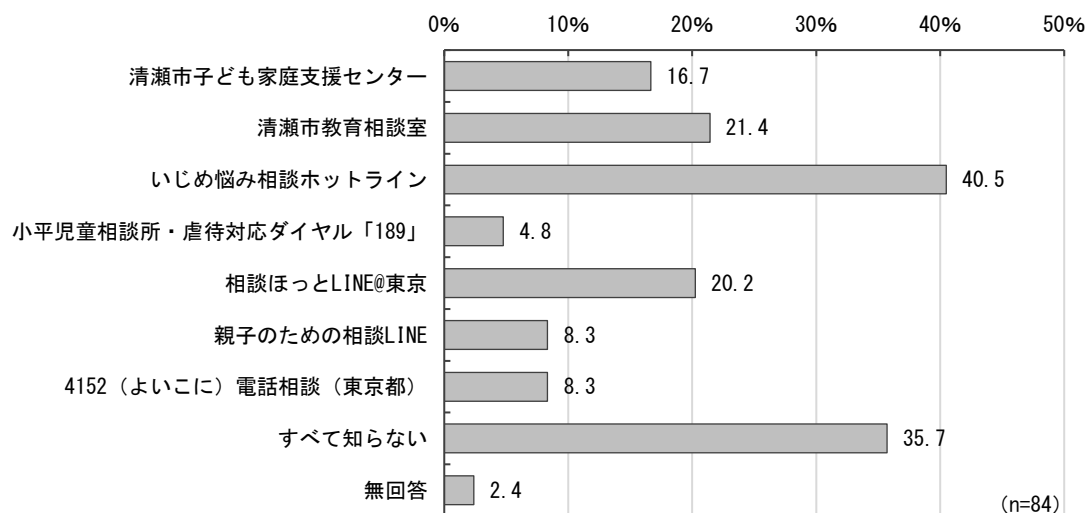


	合計	家族	学校の先生	友達	塾や習い事の先生	近所の人	社会福祉協議会の人	スクールソーシャルワーカー	AI	SNSで知り合った人	こども食堂の人	その他	相談できる人はいない	無回答
全体	84	82.1	33.3	59.5	8.3	0.0	0.0	3.6	6.0	0.0	0.0	3.6	4.8	1.2
小学生	41	97.6	43.9	61.0	7.3	0.0	0.0	2.4	4.9	0.0	0.0	4.9	0.0	0.0
中学生以上	42	66.7	23.8	57.1	9.5	0.0	0.0	4.8	7.1	0.0	0.0	2.4	9.5	2.4
男子	34	82.4	32.4	50.0	11.8	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	5.9	2.9
女子	50	82.0	34.0	66.0	6.0	0.0	0.0	6.0	8.0	0.0	0.0	6.0	4.0	0.0

問 10 困った時の相談先として、次のものを知っていますか。(知っているものすべてに○)

困った時の相談先として知っているものについては、「いじめ悩み相談ホットライン」が40.5%と最も多く、次いで「清瀬市教育相談室」が21.4%、「相談ほっとLINE@東京」が20.2%となっている一方で、「すべて知らない」が35.7%となっています。

性別年齢別でみると、男子と小学生では「すべて知らない」が最も多くなっています。



	合計	清瀬市子ども家庭支援センター	清瀬市教育相談室	いじめ悩み相談ホットライン	小平児童相談所・虐待対応ダイヤル「189」	相談ほっとLINE@東京	親子のための相談LINE	4152 (よいこに) 電話相談 (東京都)	すべて知らない	無回答
全体	84	16.7	21.4	40.5	4.8	20.2	8.3	8.3	35.7	2.4
小学生	41	17.1	22.0	31.7	4.9	17.1	9.8	12.2	43.9	0.0
中学生以上	42	16.7	21.4	50.0	4.8	23.8	7.1	4.8	28.6	2.4
男子	34	14.7	17.6	35.3	0.0	14.7	2.9	2.9	41.2	5.9
女子	50	18.0	24.0	44.0	8.0	24.0	12.0	12.0	32.0	0.0

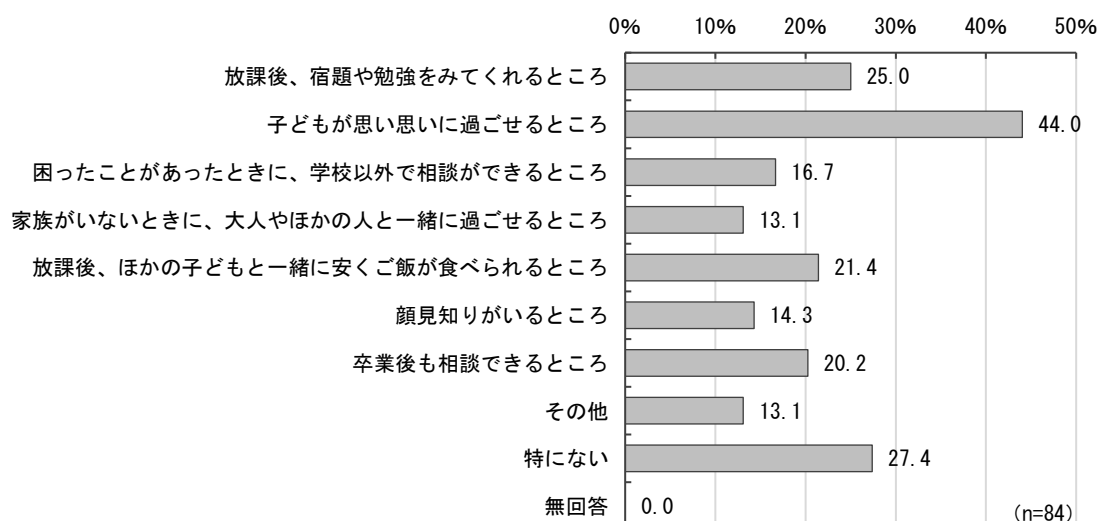
4. 清瀬の将来・未来像について

問 11 住みやすい清瀬になるために、あったらよいと思うものをすべて選んでください。
(あてはまるものすべてに○)

住みやすい清瀬になるために、あったらよいと思うものについては、「子どもが思い思いに過ごせるところ」が44.0%と最も多く、次いで「放課後、宿題や勉強をみてくれるところ」が25.0%、「放課後、ほかの子どもと一緒に安くご飯が食べられるところ」が21.4%となっています。一方で「特にない」は27.4%となっています。

性別でみると、男子より女子の方が割合が多く、「困ったことがあったときに、学校以外で相談ができるところ」では男子が5.9%に対して、女子が24.0%となっています。

また、「その他」の意見には、「図書館」「公園」「室内で遊べるところ」「勉強できるところ」「児童館」「相談場所」などがありました。



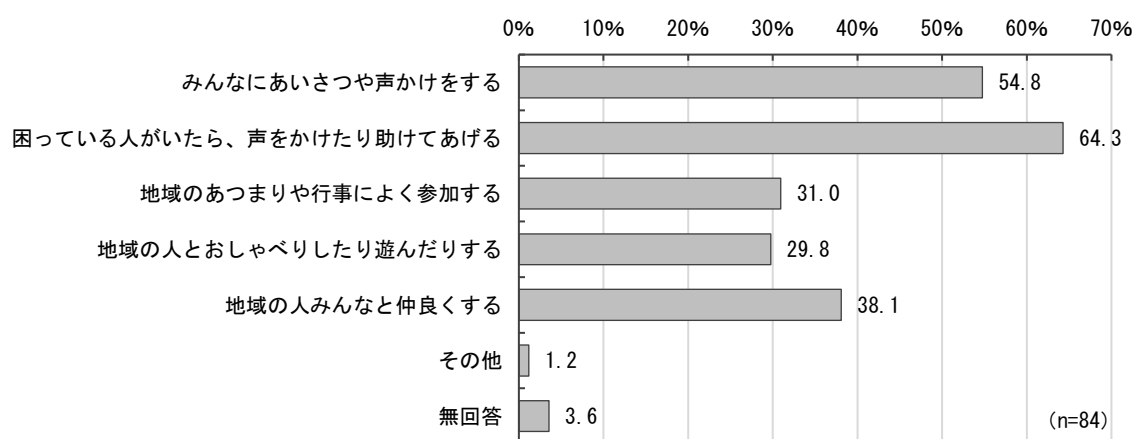
	合計	放課後、宿題や勉強をみてくれるところ	子どもが思い思いに過ごせるところ	困ったことがあったときに、学校以外で相談ができるところ	家族がいないときに、大人やほかの人と一緒に過ごせるところ	放課後、ほかの子どもと一緒に安くご飯が食べられるところ	顔見知りがいるところ	卒業後も相談できるところ	その他	特にない
全体	84	25.0	44.0	16.7	13.1	21.4	14.3	20.2	13.1	27.4
小学生	41	26.8	56.1	22.0	12.2	26.8	14.6	24.4	14.6	19.5
中学生以上	42	23.8	33.3	11.9	14.3	16.7	14.3	14.3	11.9	35.7
男子	34	20.6	29.4	5.9	11.8	17.6	8.8	20.6	11.8	38.2
女子	50	28.0	54.0	24.0	14.0	24.0	18.0	20.0	14.0	20.0

問 12 最後に、清瀬市でみんなが「安心」して楽しく暮らすために、あなたが出来るようなことは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

清瀬市でみんなが「安心」して楽しく暮らすためにできそうなことでは、「困っている人がいたら、声をかけたり助けてあげる」が64.3%と最も多く、次いで「みんなにあいさつや声かけをする」が54.8%、「地域の人みんなと仲良くする」が38.1%となっています。

性別でみると、男子より女子の方が割合が多く、「困っている人がいたら、声をかけたり助けてあげる」では男子が52.9%、女子が72.0%となっています。

また、「その他」の意見には、「ボランティア」がありました。



	合計	みんなにあいさつや声かけをする	困っている人がいたら、声をかけたり助けてあげる	地域のあつまりや行事によく参加する	地域の人とおしゃべりしたり遊んだりする	地域の人みんなと仲良くする	その他	無回答
全体	84	54.8	64.3	31.0	29.8	38.1	1.2	3.6
小学生	41	63.4	68.3	29.3	31.7	43.9	0.0	0.0
中学生以上	42	47.6	59.5	33.3	28.6	33.3	2.4	7.1
男子	34	47.1	52.9	29.4	26.5	29.4	0.0	8.8
女子	50	60.0	72.0	32.0	32.0	44.0	2.0	0.0

資 料 調 査 票

1. 市民調査

清瀬市地域福祉計画・清瀬市民地域福祉活動計画策定 に係るアンケート調査【市民調査】

日頃より清瀬市の市政及び社会福祉協議会の運営にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、清瀬市及び清瀬市社会福祉協議会では、安心して暮らせる地域づくりのために、「第5次清瀬市地域福祉計画・第5次清瀬市民地域福祉活動計画」を策定します。

この計画の策定にあたり、市民の皆様の地域福祉に関する考えやご意見をうかがい、計画策定の基礎資料にさせていただきたいと考えております。

つきましては、今後の地域福祉を発展させるため、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、この調査は、令和7年9月1日現在、清瀬市にお住まいの18歳以上の方を対象として無作為に選んだ方々に調査票をお送りしています。皆様の考えやご意見など、いただいた回答を統計的に処理するため、個人が特定されることはございませんので、率直なご意見をお聞かせ下さい。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和7年10月

清瀬市長

湊谷 桂司

清瀬市社会福祉協議会会長 山下 晃

【回答方法】インターネットまたは調査票の郵送のいずれかの方法でご回答ください。

【回答時間】15分程度（目安）

【回答期限】11月25日（火）消印有効

インターネットによる回答方法	調査票の郵送による回答方法
① URL または二次元コードから専用ウェブサイト にアクセスしてください。 【URL】https://forms.gle/W3R3oXSZ7rYFHf0j9 【二次元コード】  ② 最初の質問には、00000と入力してください。 ※郵送回答との二重回答を防ぐためのものです。 ③ 途中保存は出来ませんので、お時間に余裕のあるときに回答してください。	① この調査は、封筒のあて名の方ご本人について、 回答をお願いするものです。本人がご記入できない場合は、ご家族の方がご本人のお考えを聞きながらご記入ください。 ② 回答はあてはまる答えの番号を○で囲むか、回答欄に回答を記入してください。「その他」を選んだ場合は、その具体的な内容を（ ）の中に記入してください。 ③ ご回答いただいたアンケート票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、回答期限までにお近くの郵便ポストへご投函ください。

【問合せ先】

◆地域福祉計画の内容について ⇒ （発注元）清瀬市福祉子ども部福祉総務課
電話 042-497-2056（直通）（土・日・祝日を除く 9:00～17:00）

◆地域福祉活動計画の内容について ⇒ 清瀬市社会福祉協議会
電話 042-495-5333（代表）（土・日・祝日を除く 9:00～17:00）

◆アンケートの回答方法について ⇒ （受託会社）株式会社シティ・プランニング
電話 03-5621-9955（直通）（土・日・祝日を除く 9:30～17:00）



Anniversary
55th
清瀬市

地域福祉って？

「地域福祉」とは、地域に暮らす誰もが安心して暮らせるように、地域住民、地域団体、関係団体などが協働して、地域生活の課題を解決するための支え合いの関係づくりや活動を行うことです。地域福祉計画は高齢者、障害者、子ども・子育て等の枠を超えた福祉分野全体の指針となります。

「地域福祉計画」と「地域福祉活動計画」ってなにが違うの？

地域福祉計画は、「地域の助け合いによる福祉」と「公的機関による地域生活支援」を推進するために、人と人とのつながりを基本として、「顔の見える関係づくり」「ともに生きる社会づくり」をめざすための理念と仕組みをつくる計画です。

地域福祉活動計画は、本市では清瀬市社会福祉協議会が、地域福祉を推進していくための理念や仕組みをもとに、地域の多様な主体と相互協力して進めていく計画です。地域福祉計画とは両輪の関係となります。

地域のことを一番よく知っている皆様の参加が必要です。

ご自身やご家族のために、現在と将来の清瀬市のために、皆様の意見をぜひお聴かせください。

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護及び活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見させていただきます。

記

【個人情報の保護及び活用目的について】

この調査は、清瀬市地域福祉計画・清瀬市民地域福祉活動計画の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、清瀬市地域福祉計画・清瀬市民地域福祉活動計画策定と効果評価の目的以外には活用いたしません。また当該情報については、市において適切に管理いたします。

ただし、清瀬市地域福祉計画・清瀬市民地域福祉活動計画策定時及び効果評価時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理する市町村外のデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析することがあります。

【アンケート調査の回答内容の取扱いについて】

アンケート調査でご回答いただいた内容は、株式会社シティ・プランニングに集計・分析を委託していますが、情報は適切に管理いたします。

以上

株式会社シティ・プランニングは、一般財団法人日本情報経済社会推進協会より「プライバシーマーク」の付与認定を受けております。調査の実施にあたりましては、個人情報保護方針にしたがい、情報の管理を徹底いたします。



問1 あなた（あて名のご本人）の性別と令和7年9月1日現在の年齢について、それぞれ1つに○をしてください。

① 性別	1. 男性	2. 女性	3. その他
② 年齢	1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代	4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60～64歳	7. 65～74歳 8. 75歳以上 9. 答えたくない

問2 お住まいの地区を教えてください。（1つに○）

地区	1. 上清戸 2. 元町 3. 中清戸	4. 下清戸 5. 下宿 6. 旭が丘	7. 中里 8. 野塩 9. 松山	10. 竹丘 11. 梅園
----	---------------------------	---------------------------	-------------------------	------------------

問3 家族構成を教えてください。（1つに○）

1. 一人暮らし 2. 夫婦のみ（パートナー含む） 3. 二世世代家族（あなたと子ども など） 4. 二世世代家族（親とあなた など） 5. 三世世代家族（あなたと子どもと孫 など）	6. 三世世代家族（親とあなたと子ども など） 7. あなたとその他の高齢者（配偶者、親、子ども以外）のみ 8. その他 （ ）
---	---

問4 職業を教えてください。（1つに○）

1. 常勤の勤め人 2. パート・アルバイト・内職など 3. 自営業 4. 専業主婦（夫）	5. 学生 6. 定年を迎えたために働いていない 7. 病気や障害のために働いていない 8. その他（ ）
--	--

問5 あなたの家族構成のうち、支援を必要とする人がいますか。（1つに○）

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問5で「1. はい」の方におうかがいします。

（1） 支援を必要とする方は、具体的にどのような方ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 障害のある児 2. 障害のある方 3. 認知症の方 4. 要介護認定者	5. 精神疾患のある方 6. 生活困窮者 7. ひきこもり 8. セルフ・ネグレクト※	9. その他 （ ）
---	--	---------------

※ セルフ・ネグレクトとは、自分に対する関心や意欲がなくなり、食事や着替え、病気の治療など、本来であれば生活していくのに必要な行為をしない、あるいはできないこと。掃除や洗濯、ゴミ出しなど衛生管理もできなくなり、健康や日常生活に支障が生じる状態のこと。

▼地域での困りごと、相談先、情報入手先などについて

問6 あなたは、以下の相談先（①～⑳）を知っていますか。（それぞれ1つに○）

	1. 知っている	2. 知らない
記入例) ① 市民相談	①	2
① 市民相談	1	2
② 男女共同参画センター「アイレック」	1	2
③ きよせ生活相談支援センター「いっぽ」	1	2
④ 清瀬市民活動センター（きよせボランティア・市民活動センター）	1	2
⑤ 清瀬市消費生活センター	1	2
⑥ 健康相談、こころの健康電話相談	1	2
⑦ 清瀬市子ども家庭支援センター	1	2
⑧ 清瀬市教育支援センター「フレンドルーム」、教育相談室	1	2
⑨ 清瀬市障害者福祉センター「おおぞら」	1	2
⑩ 清瀬市子どもの発達支援・交流センター「とことこ」	1	2
⑪ 清瀬市障害者就労支援センター「ワークル・きよせ」	1	2
⑫ きよせ権利擁護センター「あいねっと」	1	2
⑬ 地域包括支援センター	1	2
⑭ 清瀬市社会福祉協議会	1	2
⑮ 地域福祉コーディネーター	1	2
⑯ 生活支援コーディネーター	1	2
⑰ 地域ケア推進部会（第1層協議体）	1	2
⑱ 民生・児童委員	1	2
⑲ 保護司	1	2
⑳ 社会福祉法人による「ひとまず相談窓口」	1	2

問7 あなたが、毎日の暮らしの中で感じている困りごとがあれば、教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 自分や家族の健康に関すること | 7. 近所との関係 |
| 2. 自分や家族の生活に関すること | 8. 家族間の関係 |
| 3. 生活費など経済的なこと | 9. 孤独・孤立に関すること |
| 4. 仕事や勉強に関すること | 10. 特にない |
| 5. 育児、子育てに関すること | 11. その他() |
| 6. 介護に関すること | |

問8 あなたに困りごとがある場合、誰に相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 家族 | 9. 民生・児童委員 |
| 2. 友人、知人 | 10. 地域福祉コーディネーター |
| 3. 職場の上司、同僚 | 11. 社会福祉協議会 |
| 4. 近所の人や自治会の役員 | 12. 医師・医療機関 |
| 5. 市職員、市の相談機関 | 13. 介護支援専門員(ケアマネジャー) |
| 6. 国や都の相談機関 | 14. その他() |
| 7. 民間の電話相談 | 15. 誰に相談すればよいのかわからない |
| 8. NPOなどの市民活動団体 | 16. 相談しようとは思わない |

問9 市役所などの相談窓口へ相談しやすくするために、必要だと思うことは何ですか。
(3つまでに○)

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1. 身近な場所に相談窓口がある | |
| 2. 1か所で色々な相談ができる | |
| 3. 専門性の高い相談ができる | |
| 4. プライバシーが守られる | |
| 5. 予約なしで相談ができる | |
| 6. 相談窓口に行かずに相談ができる(オンラインでの相談やAIの活用など) | |
| 7. 相談に要する時間に制限がない | |
| 8. 相談の際、子どもや要介護者等の面倒を見てくれる。 | |
| 9. 土日でも相談ができる | |
| 10. 夜間でも相談ができる | |
| 11. その他() | |
| 12. 特に要望はない | |
| 13. わからない | |

▼地域でのつながり・コミュニティについて

問 10 あなたは、自治会に加入していますか。(1つに○)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 自治会に加入し、積極的に活動している |
| 2. 自治会に加入しているが、時々活動する程度 |
| 3. 自治会に加入しているが、活動はほとんどしていない |
| 4. 自治会には加入していない |
| 5. 地域に自治会がない、知らない |
| 6. その他 () |

問 11 ご近所づきあいは、次のどれにあてはまりますか。(1つに○)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 家を行き来するつきあいがある | 4. 顔を知っている程度 |
| 2. 立ち話をするつきあいがある | 5. 近所についてはあまり知らない |
| 3. 会えばあいさつをする程度 | |

問 12 地域で安心して生活していくために、住民相互の自主的な協力関係が必要だと思いますか。(最も近い考え1つに○)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 必要だと思う | 3. あまり必要だとは思わない |
| 2. ある程度必要だと思う | 4. 必要だとは思わない |

問 13 地域でのつながりをつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(3つまでに○)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 近隣の住民同士で、普段からあいさつや声かけをすること |
| 2. 住民がお祭りなどの地域の行事などに参加すること |
| 3. 住民がボランティア活動や地域活動に参加すること |
| 4. ボランティア活動や地域活動に伴う研修を行うこと |
| 5. ボランティア活動や地域活動を行える人を育成すること |
| 6. 広報などで「つながり」の重要性を周知すること |
| 7. 地域活動の重要性を発信・PRすること |
| 8. 身近な地域で見守り等を担う住民が普段の困りごとの相談にのること |
| 9. 多様な文化の理解や生きづらさに理解のある人を増やすこと |
| 10. 円卓会議・地域づくりの会の活性化 |
| 11. 助け合いの場や組織の情報を得やすくすること |
| 12. 困っている人と支援できる人との調整できる人材を育成すること |
| 13. ボランティアなどの活動拠点を整備すること |
| 14. 地域での福祉活動に伴う活動費など資金的援助を充実すること |
| 15. その他 () |
| 16. 特にない・わからない |

▼社会参加・地域活動について

問 14 ボランティア活動や地域活動に参加したことがありますか。(1つに○)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 現在活動している | ⇒ 問 14 (1)、(2)、(3) へ |
| 2. 以前活動していたが、現在はしていない | ⇒ 問 14 (2)、(3) へ |
| 3. 参加したことはない | ⇒ 問 15 へ |

問 14 で「1. 現在活動している」の方にうかがいます。

(1) どれくらいの頻度で参加していますか。(1つに○)

- | | | |
|----------|----------|---------|
| 1. 週4回以上 | 3. 週1回 | 5. 年に数回 |
| 2. 週2～3回 | 4. 月1～3回 | |

問 14 で1または2の方（ボランティア活動等に参加したことがある方）にうかがいます。

(2) どのような活動に参加したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| 1. 介護施設や病院等での活動 | 9. 円卓会議・地域づくりの会 |
| 2. 高齢者支援の活動
(サロン・認知症カフェなど) | 10. 学校支援本部 |
| 3. 子育て支援の活動 | 11. 若者支援やこども食堂 |
| 4. 障害者の支援 | 12. 就労支援 |
| 5. 趣味や特技を生かした活動 | 13. 外国人支援 |
| 6. 災害援助などの活動 | 14. 地域の防災や地域おこしに関する活動 |
| 7. ごみ拾いなどの環境美化に関する活動 | 15. 自治会活動 |
| 8. イベント・行事等の支援活動 | 16. 子ども会・PTA 活動 |
| | 17. その他 () |

(3) ボランティア活動等に参加したきっかけを教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 人の役に立ちたいから | 6. 進学や就職に有利になるから |
| 2. 自分たちのために必要な活動だから | 7. 知人・友人に誘われたから |
| 3. 楽しそうだから | 8. 困っている人や団体から頼まれたから |
| 4. 余暇を有効に活用したいから | 9. 学校の授業などで機会があったから |
| 5. 趣味や特技を生かしたいから | 10. その他 () |

問 15 ボランティア活動や地域活動に参加したいと思いますか。(1つに○)

1. ぜひ参加したい 2. 可能な範囲で参加したい 3. わからない ⇒ 問 16 へ	} (1) へ ↓ 4. 参加したくない(できない) 理由をおきかせください。 () ⇒ 問 16 へ
---	--

問 15 で1または2の方(ボランティア活動等に参加したい方)にうかがいます。

(1) どのような内容・分野の活動に参加したいですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 福祉 2. 保健・医療 3. 社会教育・生涯学習 4. まちづくり 5. 文化・芸術・スポーツ 6. 環境保全 7. 災害救援活動	8. 防災・防犯 9. 人権・平和 10. 国際協力 11. 男女共同参画 12. 子どもの健全育成 13. 市民活動支援 14. その他 ()
--	---

(2) 活動しやすいのはいつですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 平日の日中 2. 平日の夜間 3. 土日、祝日の日中	4. 土日、祝日の夜間 5. その他 () 6. わからない
-------------------------------------	---------------------------------------

問 16 多くの人がボランティア活動や地域活動に参加するためには、どのような環境づくり、条件等が必要だと思いますか。(3つまでに○)

1. 地域活動(サロンも含む)の情報 2. 知り合いがいる 3. 近所での活動がある 4. 活動をしている人と情報交換ができる 機会 5. 公共施設での活動	6. 自宅でできる活動 7. 移動手段がある 8. 一緒に行ってくれる人がいる 9. その他 ()
---	--

問17 地域での活動に協力してもいいと思いますか。(1つに○)

1. 無償で協力できる
2. 有償なら協力できる
3. 活動内容により、無償で協力できる
4. 活動内容により、有償で協力できる
5. 活動内容に関わらず、無償・有償のどちらでも協力できる
6. 現在は協力できないが、将来的には無償で協力したい
7. 現在は協力できないが、将来的には有償で協力したい
8. 協力できない
9. わからない
10. その他 ()

問18 身寄りのない人への支援を行った際に、困ったことがありましたか。(1つに○)

- | | | |
|--------|---------|----------------|
| 1. あった | 2. なかった | 3. 支援を行ったことがない |
|--------|---------|----------------|

問18で「1. あった」(困ったことがあった)の方にうかがいます。

(1) どのようなことに困りましたか。(記入式)

--

(2) その際、どこかに相談をしましたか。(1つに○)

- | | |
|----------------------------------|------------|
| 1. 相談した
→ 相談先を教えてください。
() | 2. 相談しなかった |
|----------------------------------|------------|



清瀬市公式キャラクター

「ニンニンくん®」

ニンニンくんは清瀬市の登録商標です

あと半分です

引き続きよろしくおねがいします



清瀬市社会福祉協議会
イメージキャラクター

「きよちゃん」

問 19 困りごとを抱える地域の人に対して、あなたが支援・協力できそうなことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 病院への送迎支援	12. 掃除・洗濯等の協力
2. 買い物・散歩等の外出（同行）支援	13. 安否確認・見守り・声かけ・あいさつ
3. 買い物の代行	14. 防犯のための巡回
4. 薬の受け取り代行	15. 災害時の助け合い活動
5. 福祉サービス利用の手続き支援	16. 簡単な修理の協力
6. サロン活動・自治会・子ども食堂等の運営協力	17. 子どもを一時的に預かる
7. 認知症カフェ・ひきこもりの若者等の社会参加の場づくり	18. 子ども同士の交流の機会への協力
8. 話し相手（傾聴ボランティア）	19. 学校活動への協力
9. 相談相手	20. 手紙を代筆する、代わりに電話をかける
10. 点字や手話などを用いた情報支援	21. その他 ()
11. ゴミ出しの協力	22. 特にない

▼災害時の対策等について

問 20 あなたは、地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難することができますか。（1つに○）

1. できる	2. できない	3. わからない
--------	---------	----------

問 21 あなたは、災害のときの避難場所・避難所を知っていますか。（1つに○）

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 22 災害（地震など）時の対策として、充実してほしいことはありますか。（3つまでに○）

1. 災害発生の連絡	8. 避難前、避難後の文字や音声による情報提供
2. 災害時の安否確認（あらかじめ希望し、登録した方のみ）	9. 市のホームページ
3. 避難場所・避難所への誘導	10. X（旧ツイッター）、フェイスブック等のSNS活用
4. 地域で助け合える体制の整備	11. メールやLINEの活用
5. 災害弱者に配慮した避難所整備・備蓄品の確保	12. その他 ()
6. 医療面での配慮	13. 特にない
7. 避難生活における介護者の確保	

▼権利擁護について

問 23 あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。(1つに○)

1. 名称も内容も知っている
2. 名称は知っているが、内容はよく知らない
3. 名称も内容も全く知らない

問 24 あなたは、「市民後見人」について知っていますか。(1つに○)

1. 名称も内容も知っている
2. 名称は知っているが、内容はよく知らない
3. 名称も内容も全く知らない

<用語解説>

用 語	解 説
成年後見制度	認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断する能力が十分ではない方について、財産管理、身のまわりの世話のために介護などのサービスや施設への入所に関する契約締結、遺産分割協議など、本人の権利を守る援助者（後見人等）を選ぶことで、本人を法律的に支援する制度。
市民後見人	弁護士や司法書士などの資格をもたない、親族以外の市民による成年後見人等。市町村等の支援をうけて後見業務（主に、ひとりで決めることに不安のある方の金銭管理、介護・福祉サービスの利用援助の支援など。）を行う。

問 25 将来的に、あなた自身の判断能力が不十分となった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)

1. 利用したい	2. 利用したくない	3. わからない
----------	------------	----------

問 25 で「2. 利用したくない」「3. わからない」の方に向かってください。

(1) その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. どのような制度かわからないから
2. 後見人でなくとも家族がいるから
3. 費用がどれくらいかかるか心配だから
4. 家庭裁判所に申し立てることに抵抗があるから
5. 手続きが大変そうだから
6. 他人（家族を含む）に財産などを任せることに不安があるから
7. その他（_____）

▼再犯防止について

問 26 あなたは、罪を犯した人への支援が必要だと思いますか。(1つに○)

1. 必要だと思う	4. 必要だと思わない
2. どちらかといえば必要だと思う	5. わからない
3. どちらかといえば必要だと思わない	

問 27 あなたは、罪を犯した人の立ち直りに協力したいと思いますか。(1つに○)

1. 協力したい	4. 協力したくない
2. どちらかといえば協力したい	5. わからない
3. どちらかといえば協力したくない	

問 28 あなたが、犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援するためのものとして、知っているものを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 保護司	5. 協力雇用主
2. 更生保護施設	6. 社会を明るくする運動
3. 更生保護女性会	7. 再犯防止啓発月間
4. BBS会	8. すべて知らない

<用語解説>

用 語	解 説
保護司	犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える国家公務員（無給のため、実質的に民間のボランティア）。
更生保護施設	刑務所などから釈放された人や保護観察を受けている人などのうち、頼るべき人がいないなどの理由で直ちに自立更生することが難しい人たちに対して、一定期間、宿泊場所や食事を提供したり、就職指導や社会適応のために必要な生活指導を行う施設。
更生保護女性会	地域の犯罪予防活動と犯罪をした人や非行のある少年の更生支援活動を行うボランティア団体。
BBS会	様々な問題を抱える少年と、「兄」や「姉」のような存在として接し、一緒に悩み、学び、楽しむことを通じて、少年の立ち直りや自立を支援する青年ボランティア団体。
協力雇用主	犯罪をした人などを積極的に雇用し、その立ち直りに協力する民間の事業主。

用 語	解 説
社会を明るくする運動	犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪のない地域社会を築こうとする全国的な運動。
再犯防止啓発月間	法務省が再犯の防止等の推進に関する法律に基づき、広く再犯防止についての関心と理解を深めるために重点的に再犯防止に関する様々な広報・啓発活動を展開する期間（毎年7月）。

問 29 あなたは、犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちが、再び罪を犯さないようにするために、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 再犯防止についての広報・啓発	7. 保健・福祉サービスの利用の促進
2. 地域住民の理解促進	8. 生きがいづくりの場
3. 住まいの確保に向けた支援	9. 再犯防止に取り組む協力者に対する活動場所の提供や財政的な支援
4. 地域生活の足がかりとなる場づくり	10. その他 ()
5. 非行少年などに対する学校等と連携した就学支援の実施	11. 特に必要ない
6. 就労に向けた支援	

▼孤独・孤立の状態にある方への支援について

問 30 あなたの周りに孤独・孤立の状態にある方はいますか。（1つに○）

例：ひきこもり、ひとり親家庭、望まない非正規雇用者、路上生活者、頼る人がいない高齢者など。

1. いる	2. いない	3. わからない
-------	--------	----------

問 31 孤独・孤立の状態にある方への支援としてどのような取組が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 総合的な相談窓口の設置	7. 地域でのイベントや事業等に関する情報提供
2. 自宅以外の居場所づくり	8. 行政や支援機関による訪問相談
3. 就労に向けた準備、働く場所の紹介	9. その他 ()
4. 自立に向けたトレーニングやきっかけがつかめる場	10. 特に必要ない
5. 生活困窮時の生活資金の公的支援	
6. 本人宅などへの訪問支援・同行支援	

▼市の福祉資源について

問 32 地域福祉に関する以下の取り組み（①～⑧）について、それぞれ満足度と重要度をお答えください。（それぞれ満足度と重要度にあてはまるもの1つに○）

内容	満足度					重要度				
	1. 満足	2. やや満足	3. 普通	4. やや不満	5. 不満	1. 重要	2. やや重要	3. 普通	4. あまり重要ではない	5. 重要ではない
記入例) ①人権意識の醸成 （差別や偏見をなくすための取組）	1	②	3	4	5	①	2	3	4	5
①人権意識の醸成 （差別や偏見をなくすための取組）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
②福祉に関する教育の推進 （道徳授業や地域での福祉講座の開催）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
③地域の担い手の育成と発掘 （ボランティアの発掘・育成など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
④生きがいづくりと交流の促進 （ふれあいサロンなどの居場所づくりや、 地域行事の実施による住民の交流）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑤相談・情報提供体制の充実 （支援者や行政との関係づくり、情報の 入手や相談のしやすさ）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑥人権擁護の推進 （権利擁護・成年後見制度など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑦防災・防犯体制の充実 （防災訓練への参加や、悪徳商法への注意 喚起）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑧介護予防・健康づくりの推進 （健康寿命の延伸や介護予防教室など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

内容	満足度					重要度				
	1. 満足	2. やや満足	3. 普通	4. やや不満	5. 不満	1. 重要	2. やや重要	3. 普通	4. あまり重要ではない	5. 重要ではない
⑨医療体制の充実 (保健・医療・福祉の連携、救急医療など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑩就労機会の確保 (高齢者、ひとり親、障害のある人などの 就労ニーズへの対応)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑪子育て支援の充実 (こどもの権利擁護、子育て支援サービスの 充実)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑫困難を抱える世帯への支援 (ひとり親、生活困窮者、ヤングケアラーな どの支援)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑬地域での支え合い体制の充実 (見守り活動、ごみ捨てや買い物支援など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑭誰一人取り残さない地域共生社会の推進 (孤独・孤立・ひきこもり対策の推進など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑮地域共生社会の実現に向けた包括的な支 援体制の整備 (子ども・障害・高齢・生活困窮など分野を 横断した包括的な相談・支援体制の整備 など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑯福祉のまちづくりの推進 (バリアフリー、交通空白地域の解消など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑰生きることの包括的な支援 (自殺対策、こころの相談窓口の充実など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

▼さいごに

清瀬市の地域福祉に関するご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

以上で終了です。ありがとうございました。

回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、
11月25日（火）までにお近くの郵便ポストへご投函ください。（消印有効）

～ご協力ありがとうございます～



2. 団体調査

清瀬市地域福祉計画・清瀬市民地域福祉活動計画策定に係るアンケート調査【団体調査】

日頃より清瀬市の市政及び社会福祉協議会の運営にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、清瀬市では「清瀬市地域福祉計画」を、清瀬市社会福祉協議会では「清瀬市民地域福祉活動計画」をそれぞれ策定し活動してきましたが、このたび、清瀬市及び清瀬市社会福祉協議会では、安心して暮らせる地域づくりのために、それぞれの計画を「第5次清瀬市地域福祉計画・第5次清瀬市民地域福祉活動計画」として一本化し、一体的に計画を策定します。

この計画の策定にあたり、清瀬市または清瀬市社会福祉協議会が把握している、市内で地域福祉に携わり活躍されている方々に、地域福祉に関する考えやご意見をうかがい、計画策定の基礎資料にさせていただきたいと考えております。

つきましては、今後の地域福祉を発展させるため、ご協力くださいますようお願いいたします。いただいた回答は統計的に処理します。皆様の考えやご意見など、率直なご意見をお聞かせ下さい。お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和7年10月

清瀬市長

澁谷 桂司

清瀬市社会福祉協議会会長 山下 晃

【調査・回答について】

回答期限
11月25日
(火)
(消印有効)

- ◆この調査は、封筒のあて名の方ご本人または団体担当者に、回答をお願いするものです。
- ◆インターネット または 調査票の郵送 のいずれかの方法でご回答ください。

回答の
目安時間
約20分

インターネットによる回答方法	調査票の郵送による回答方法
① URL または二次元コードから専用ウェブサイト にアクセスしてください。 【URL】 https://forms.gle/JxbyCVHXQtdF6H116 【二次元コード】  ② 最初の質問には、0000 と 入力してください。 ※郵送回答との二重回答を防ぐためのものです。 ③ 途中保存は出来ませんので、お時間に余裕のある ときに回答してください。	① 回答はあてはまる答えの番号を○で囲むか、回 答欄に回答を記入してください。「その他」を選ん だ場合は、その具体的な内容を()の中 に記入してください。 ② ご回答いただいたアンケート票は、同封の返信 用封筒(切手不要)に入れ、回答期限までにお近 くの郵便ポストへご投函ください。

【問合せ先】



Anniversary
清瀬市

- ◆地域福祉計画の内容について ⇒ (発注元) 清瀬市福祉子ども部福祉総務課
電話 042-497-2056 (直通) (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
- ◆地域福祉活動計画の内容について ⇒ 清瀬市社会福祉協議会
電話 042-495-5333 (代表) (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
- ◆アンケートの回答方法について ⇒ (受託会社) 株式会社シティ・プランニング
電話 03-5621-9955 (直通) (土・日・祝日を除く 9:30~17:00)

地域福祉って？

「地域福祉」とは、地域に暮らす誰もが安心して暮らせるように、地域住民、地域団体、関係団体などが協働して、地域生活の課題を解決するための支え合いの関係づくりや活動を行うことです。地域福祉計画は高齢者、障害者、子ども・子育て等の枠を超えた福祉分野全体の指針となります。

「地域福祉計画」と「地域福祉活動計画」ってなにが違うの？

地域福祉計画は、「地域の助け合いによる福祉」と「公的機関による地域生活支援」を推進するために、人と人とのつながりを基本として、「顔の見える関係づくり」「ともに生きる社会づくり」をめざすための理念と仕組みをつくる計画です。

地域福祉活動計画は、本市では清瀬市社会福祉協議会が、地域福祉を推進していくための理念や仕組みをもとに、地域の多様な主体と相互協力して進めていく計画です。地域福祉計画とは両輪の関係となります。

このアンケートは、清瀬市内で活動・活躍している団体、関係者及び関係機関の方にお送りしております。清瀬市地域のことを一番よく知っている皆様の参加が必要です。ご自身やご家族のために、現在と将来の清瀬市のために、皆様の意見をぜひ聴かせてください。

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護及び活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見なさせていただきます。

記

【個人情報の保護及び活用目的について】

この調査は、清瀬市地域福祉計画・清瀬市民地域福祉活動計画の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、清瀬市地域福祉計画・清瀬市民地域福祉活動計画策定と効果評価の目的以外には活用いたしません。また当該情報については、市において適切に管理いたします。

ただし、清瀬市地域福祉計画・清瀬市民地域福祉活動計画策定時及び効果評価時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理する市町村外のデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析することがあります。

【アンケート調査の回答内容の取扱いについて】

アンケート調査でご回答いただいた内容は、株式会社シティ・プランニングに集計・分析を委託していますが、情報は適切に管理いたします。

以上

株式会社シティ・プランニングは、一般財団法人日本情報経済社会推進協会より「プライバシーマーク」の付与認定を受けております。調査の実施にあたりましては、個人情報保護方針にしたがい、情報の管理を徹底いたします。

▼貴団体等について

問1 貴団体・グループの種類を教えてください。(1つに○)

1. 市民活動グループ	9. NPO法人
2. 自治会、マンション管理組合	10. 社会福祉法人
3. 円卓会議・地域づくりの会	11. 学校法人
4. 老人クラブ（シニアクラブ）	12. 医療法人
5. 学校支援本部	13. 行政機関
6. 避難所運営協議会	14. 営利企業・営利団体
7. 民生・児童委員	15. その他
8. 保護司	()

問2 貴団体・グループの令和7年10月1日現在のおおよその概要をお答えください。

① 会員・職員数	() 人
② 実質的な活動者・利用者数	() 人
③ 会員・職員の男女比率	男性 () %、女性 () %
④ 会員・職員の年齢	() 歳代が中心 (多い)
⑤ 活動対象（あてはまるものすべてに○）	
1. 乳幼児と保護者	8. 女性
2. 小学生	9. 外国人
3. 中高生・若者	10. 生活困窮者
4. 障害者（児）	11. L G B T Q
5. 高齢者	12. 市民全体（特定していない）
6. 病気の方、患者	13. その他
7. ひとり親家庭	()

問3 貴団体・グループの主となる事業、または地域活動についてお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 福祉 | 9. 災害救援活動 |
| 2. 教育 | 10. 防災・防犯 |
| 3. 自治会、商店街などの自主組織 | 11. 人権・平和 |
| 4. 保健・医療 | 12. 国際協力 |
| 5. 社会教育・生涯学習 | 13. 男女共同参画 |
| 6. まちづくり | 14. 子どもの健全育成 |
| 7. 文化・芸術・スポーツ | 15. 市民活動支援 |
| 8. 環境保全 | 16. その他() |

(1) 活動内容を具体的にお書きください。

問4 貴団体・グループの活動状況をお答えください。

(1) 活動頻度(最も近いもの1つに○)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 年数回 | 5. 週2～3回 |
| 2. 2か月に1回 | 6. ほぼ毎日 |
| 3. 月1～2回 | 7. 不定期 |
| 4. 週1回 | 8. その他() |

(2) 時間帯(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 平日の日中 | 4. 土日、祝日の夜間 |
| 2. 平日の夜間 | 5. 不定期 |
| 3. 土日、祝日の日中 | 6. その他() |

(3) 貴団体・グループの主となる事業、または地域活動を行っている主な地域

(主なもの1つに○)

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1. 会員・職員が住んでいる隣近所 | 4. 市内全域 |
| 2. 会員・職員が住んでいる自治会内 | 5. 近隣市域 |
| 3. 会員・職員が住んでいる小・中学校区 | 6. 都内 |
| | 7. その他() |

問4 (3) で1～3を選んだ方にうかがいます。

(3)－1 主な活動地域をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 上清戸	5. 下宿	9. 松山
2. 元町	6. 旭が丘	10. 竹丘
3. 中清戸	7. 中里	11. 梅園
4. 下清戸	8. 野塩	

問5 貴団体・グループ等の主となる事業、または地域活動を行う上で困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 活動がマンネリ化してきている
2. 人々のニーズがつかめず、ニーズにあった活動ができていない
3. 地域コミュニティが希薄化している
4. 支援を必要とする人の情報が得にくい
5. 市民に情報発信する場や機会が乏しい
6. 外部からの問い合わせや相談をいつでも受ける体制（連絡先、専従者）がない
7. 他のグループ・団体と交流する機会が乏しい
8. メンバーが固定化し、高齢化してきている
9. メンバーに世代・男女の偏りがある
10. メンバーが仕事などで忙しく、活動できにくい
11. 若い人が興味を持ち、参加しやすい活動ができていない
12. リーダーが育たない
13. 団体・グループ同士の横のつながりが少ない
14. 会議や活動の場所の確保に苦勞する
15. 活動に必要な情報や専門知識が不足している（適当な相談者がいない）
16. 活動に必要な情報機材などが不足している
17. 行政からの情報提供がない
18. 活動資金が足りない
19. その他（_____）
20. 特に困ったことはない

問6 多くの人がボランティア活動や地域活動に参加するためには、どのような環境づくり、条件等が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 身近な地域で活動できる
2. 自分にあった時間帯に参加できる
3. 趣味や特技、技術が活かせる
4. 子どもの預りや介護・介助の支援が得られる
5. 友人や家族と一緒に参加できる
6. 家族や職場の理解・協力が得られる
7. 所属する学校や職場で活動が行われている
8. ボランティア養成講座がある
9. 身近な団体や活動内容に関する情報が手に入る
10. 活動資金の補助、援助がある
11. 無料で利用できるスペース（活動拠点）があること
12. 活動に参加することでメリットが得られる（報酬・ポイントなど）
13. 活動団体間の調整をするコーディネーターがいる
14. その他（_____）
15. わからない



清瀬市公式キャラクター
「ニンニンくん®」
ニンニンくんは清瀬市の登録商標です



清瀬市社会福祉協議会
イメージキャラクター
「きよちゃん」

▼地域福祉について

問7 地域福祉に関する以下の取り組み（①～⑦）について、それぞれ満足度と重要度をお答えください。（それぞれ満足度と重要度にあてはまるもの1つに○ずつ）

内容	満足度					重要度				
	1. 満足	2. やや満足	3. 普通	4. やや不満	5. 不満	1. 重要	2. やや重要	3. 普通	4. あまり重要ではない	5. 重要ではない
記入例) ①人権意識の醸成 （差別や偏見をなくすための取組）	1	②	3	4	5	①	2	3	4	5
①人権意識の醸成 （差別や偏見をなくすための取組）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
②福祉に関する教育の推進 （道徳授業や地域での福祉講座の開催）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
③地域の担い手の育成と発掘 （ボランティアの発掘・育成など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
④生きがいがつくりと交流の促進 （ふれあいサロンなどの居場所づくりや、 地域行事の実施による住民の交流）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑤相談・情報提供体制の充実 （支援者や行政との関係づくり、情報の 入手や相談のしやすさ）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑥人権擁護の推進 （権利擁護・成年後見制度など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑦防災・防犯体制の充実 （防災訓練への参加や、悪徳商法への注意喚起）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑧介護予防・健康づくりの推進 （健康寿命の延伸や介護予防教室など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

もうちょっと
項目がつづくよ



内容	満足度					重要度				
	1. 満足	2. やや満足	3. 普通	4. やや不満	5. 不満	1. 重要	2. やや重要	3. 普通	4. あまり重要ではない	5. 重要ではない
⑨医療体制の充実 (保健・医療・福祉の連携、救急医療など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑩就労機会の確保 (高齢者、ひとり親、障害のある人などの 就労ニーズへの対応)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑪子育て支援の充実 (こどもの権利擁護、子育て支援サービスの 充実)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑫困難を抱える世帯への支援 (ひとり親、生活困窮者、ヤングケアラーな どの支援)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑬地域での支え合い体制の充実 (見守り活動、ごみ捨てや買い物支援など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑭誰一人取り残さない地域共生社会の推進 (孤独・孤立・ひきこもり対策の推進など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑮地域共生社会の実現に向けた包括的な支 援体制の整備 (子ども・障害・高齢・生活困窮など分野を 横断した包括的な相談・支援体制の整備 など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑯福祉のまちづくりの推進 (バリアフリー、交通空白地域の解消など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑰生きることの包括的な支援 (自殺対策、こころの相談窓口の充実など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

あと4ページ



問8 支援を必要とする人と接する中で課題と感じている点がありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|----------------------------|
| 1. 地域で孤立している人へのかかわり |
| 2. 支援に必要な制度やサービスが不足している |
| 3. 家族や近隣とのかかわりが難しいケースがある |
| 4. 個人や機関の力だけでは解決が難しいケースがある |
| 5. 相談先がわからない |
| 6. 個人情報の取り扱いが壁になる |
| 7. その他 () |

(1) 問8の課題の解決のために、必要だと思う取り組みや社会資源がありましたら、ご自由にお書きください。

--

問9 現在、どのような関係機関、専門職と連携していますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 市、市の相談機関	6. 民生・児童委員	11. 円卓会議・地域づくりの会
2. 自治会	7. 病院	12. 弁護士・司法書士
3. 社会福祉協議会	8. 警察	13. 特にない
4. 学校・幼稚園・保育園	9. 当事者団体	14. その他
5. 福祉施設	10. ボランティアグループ	()

問10 今後、どのような関係機関、専門職と連携していきたいですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 市、市の相談機関	6. 民生・児童委員	11. 円卓会議・地域づくりの会
2. 自治会	7. 病院	12. 弁護士・司法書士
3. 社会福祉協議会	8. 警察	13. 特にない
4. 学校・幼稚園・保育園	9. 当事者団体	14. その他
5. 福祉施設	10. ボランティアグループ	()

問 11 貴団体・グループの対象者（利用者）の中に、複数の課題（生活困窮・障害・ひきこもり・介護など）を抱えている人はいますか。（1つに○）

1. はい	2. いいえ	3. わからない
-------	--------	----------

問 12 貴団体・グループは、アウトリーチ活動（地域の困難を抱える人々に積極的に接触し支援する活動）を実施していますか。（1つに○）

1. 実施している → 具体的な実施内容を教えてください ()	2. 実施していないが関心はある 3. 実施していない
--	--------------------------------

問 12 で「1. 実施している」を選んだ方にうかがいます。

（1）貴団体・グループは、アウトリーチ活動を通じて、どのような支援を行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 生活支援（食料、衣服、住居の確保など）	6. 精神的・心理的サポート
2. 就労支援（職業紹介、スキル訓練など）	7. 相談機関へのつなぎ
3. 医療・福祉支援（メンタルヘルスケア、身体的支援など）	8. サロンなど居場所へのつなぎ
4. 教育支援（学習支援、親子支援など）	9. 見守り訪問
5. 地域交流・社会参加の機会提供	10. その他 ()

問 13 ひきこもりに係る支援について、行政や社会福祉協議会、支援機関が今後取り組む必要があると考えることは何だと考えますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 身近な地域における相談体制の充実	8. 見守り等を行うサポーターの養成
2. ひきこもりの家族会と連携した取り組みの充実	9. 当事者・家族向け講習会・相談会・勉強会
3. 地域における連携ネットワークづくり	10. 相談・支援機関向け研修会・事例検討会
4. 居場所の運営	11. 支援ガイドマップの作成、配布
5. 家族向けひきこもりに関するセミナー、家族教室など	12. 普及啓発の充実
6. アウトリーチ及び伴走支援ができる体制	13. その他 ()
7. 中間的就労等を含めた就労支援	

問 14 地域で福祉を担う人材を育成するためには、何が必要だと思いますか。(2つまでに○)

1. 地域コミュニティの活性化
2. 地域での支え合い意識
3. 地域ぐるみによる専門知識を学習する機会
4. 生活支援コーディネーターや地域福祉コーディネーターのコーディネート力等の向上
5. ボランティアコーディネーターの育成
6. その他 ()
7. 必要と思うことは特にない

▼清瀬市社会福祉協議会について

問 15 以下の①～②の施設について、利用されたことはありますか。

(それぞれあてはまるもの1つに○)

	1. よく 利用 している	2. あ る 時 々 利 用 し た こ と が	3. 知 っ て い る が、 利 用 し た こ と は な い	4. 知 ら な か っ た
① きよせボランティア・市民活動センター	1	2	3	4
② 清瀬市社会福祉協議会	1	2	3	4

問 16 普段の活動において、清瀬市社会福祉協議会とどのような連携ができると考えますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------|---------------|
| 1. 情報共有 | 4. 事業やイベントの協働 |
| 2. 地域交流 | 5. 特になし |
| 3. 広報・PR活動 | 6. その他 () |

問 17 清瀬市社会福祉協議会に期待することがありましたら、ご自由にお書きください。

▼さいごに

問 18 清瀬市の地域福祉に関するご意見、ご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。

以上で終了です。ありがとうございました。

回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、
11月25日（火）までにお近くの郵便ポストへご投函ください。（消印有効）

～ご協力ありがとうございます～



3. こども調査

きよせし 清瀬市のふくしについてのアンケート

～ みなさんのご意見をお聞かせください ～

きよせし きよせししゃかいふくしきょうぎかい きよせしちいきふくしけいかく きよせしみんなちいきふくしきょうかい
清瀬市と清瀬市社会福祉協議会は、「清瀬市地域福祉計画・清瀬市民地域福祉活動計画」とい
う計画をつくり、安心して暮らせる地域づくりを行うために取り組んでいます。

こんかい けいかく みなお おこな いけん かんが せ
今回、この計画の見直しを行うため、みなさんのご意見や考えを聞かせていただきたいと
おもいます。

みなさんが答えた内容は、個人が特定されないようにするため、学校の先生や友達、親にも、
あなたが答えたとはわかりません。みなさんが思ったとおりに、質問にお答えください。この
アンケートの結果は、今後の地域福祉を発展させるために活用します。みなさんのご協力を
おねがいします。

れいわ ねん がつ
令和7年10月

きよせしちよう
清瀬市長
きよせししゃかいふくしきょうぎかいちよう
清瀬市社会福祉協議会会長

しぶや けいし
澁谷 桂司
やました あさら
山下 晃

ほごしゃ かた ねが 【保護者の方へのお願い】

本調査ではお子様の率直な意見をお聞きたいので、お子様自身が回答するよう
ご協力をお願いします。

かいとう ほうほう
【回答方法】インターネットまたは調査票の郵送のどちらかの
方法で答えてください。

かいとう しめきり
【回答の締切】11月25日（火曜）まで（消印有効）

かいとう
回答の
目安時間
約5分

インターネットによる回答方法	調査票の郵送による回答方法
① URL または 二次元コードから専用ウェブサイト にアクセスしてください。 【URL】https://forms.gle/YFepa1YVofWUqNW7 【二次元コード】  ② 最初の質問には、0000 と入力してください。 ③ 調査票と同じ内容が画面に表示されます。	① この調査は、封筒のあて名の方ご本人につ て、回答をお願いするものです。 ② 答えはあてはまる番号を○で囲んでくださ い。「その他」を選んだ場合は、その具体的な内容 を（ ）の中に書いてください。 ③ 答えたくない質問には、無回答のまま、次の 質問にお進みください。 ④ ご回答いただいたアンケート票は、同封の 返信用封筒（切手不要）に入れ、お近くの郵便 ポストへ入れてください。



Anniversary
清瀬市

■ 問い合わせ先（土・日・祝日を除く 9:00～17:00）

きよせし ふくしこ ぶ ふくしそくむか
清瀬市 福祉子ども部 福祉総務課
きよせししゃかいふくしきょうぎかい
清瀬市社会福祉協議会

でんわ 042-497-2056(直通)

でんわ 042-495-5333(代表)

問1 あなたの性別をお答えください。

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 男子 | 2. 女子 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

問2 あなたの学年をお教えてください。(1つに○)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 小学4年生 | 2. 小学5年生 | 3. 小学6年生 |
| 4. 中学1年生 | 5. 中学2年生 | 6. 中学3年生 |

問3 放課後はどんなところで過ごしますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. 学校(部活・クラブ活動を含む) | 2. 児童センター・児童館 |
| 3. 公園 | 4. 家の中 |
| 5. 友達の家 | 6. 塾や習い事 |
| 7. こども食堂 | 8. まなべー |
| 9. 図書館 | 10. その他() |

問4 放課後、宿題をみてくれる大人はいますか。(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問4で「1. いる」を選んだ方にうかがいます。

(1) 主に誰がみてくれますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|---------|-----------|--------|
| 1. 父親 | 2. 母親 | 3. 祖父母 |
| 4. 兄弟姉妹 | 5. その他() | |

問5 ふだん、夕食は誰と食べていますか。(1つに○)

- | | | |
|------------|--------------|-----------------------|
| 1. ひとりで食べる | 2. 子どもだけで食べる | 3. 父母や祖父母など
大人と食べる |
|------------|--------------|-----------------------|

問6 最近1週間で、学校の先生以外で何人の大人と話をしましたか。(1つに○)

※「大人」には家族も含まれます。

- | | | | | |
|-------|---------|---------|---------|----------|
| 1. 0人 | 2. 1~2人 | 3. 3~5人 | 4. 6~9人 | 5. 10人以上 |
|-------|---------|---------|---------|----------|

問7 生活の中で困っていることは、どんなことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 困っていない | 2. 家でのこと |
| 3. 学校でのこと | 4. 放課後のこと |
| 5. その他() | |

問8 生活の中で特に困っていることを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 特にない | 2. 家族と話すことがつらいと感じることがある |
| 3. 家族との関係が良くない | 4. ごはんを食べられないことがある |
| 5. 家事や家族の世話を頼まれる | 6. 勉強のペースについていけない |
| 7. 家に勉強できるスペースがない | 8. 学校で座っていることが大変 |
| 9. 友達付き合いで悩んでいる | 10. 進学のことで悩んでいる |
| 11. 部活動・クラブ活動のことで悩んでいる | 12. 大人が家にいないことが多い |
| 13. 生活に必要なお金が足りない | 14. 自分で自由に使えるお金がない |
| 15. その他 () | |

→ 問8で「5. 家事や家族の世話を頼まれる」を選んだ方にうかがいます。

(1) あなたが家で大人の代わりに行っているお世話は、どのようなものですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 家事(食事の準備、そうじ、洗たくなど) | 2. 兄弟姉妹の世話や送り迎えなど |
| 3. 家族の介護(入浴やトイレのお世話など) | 4. 通院などへのつきそい |
| 5. 相談相手になる、話し相手になる | 6. 手話などのコミュニケーションの支援 |
| 7. 通訳 | 8. その他 () |

(2) お世話をすることにどのような大変さを感じていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1. 特に大変さを感じていない | 2. 体力がもたない、疲れる |
| 3. イライラしたり悲しくなる | 4. 夜ぐっすり眠れない |
| 5. 宿題や勉強をする時間がない | 6. 友達と遊ぶ機会や時間が減った |
| 7. 満足に部活動やクラブ活動ができない | 8. 自分のために必要な外出をすることができない |



きよせしこうしき
清瀬市公式キャラクター
「ニンニンくん®」

ニンニンくんは清瀬市の登録商標です



きよせししゃがいふくしきようぎかい
清瀬市社会福祉協議会
イメージキャラクター
「きよちゃん」

問9 ふだん、^{こま}困りごとや^{なや}悩みごとを^{だれ}誰に^{そうだん}相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|------------------|-------------|----------------|
| 1. 家族 | 2. 学校の先生 | 3. 友達 |
| 4. 塾や習い事の先生 | 5. 近所の人 | 6. 社会福祉協議会の人 |
| 7. スクールソーシャルワーカー | 8. A I | 9. SNSで知り合った人 |
| 10. こども食堂の人 | 11. その他 () | 12. 相談できる人はいない |

問10 困った時の相談先として、次のものを知っていますか。
(知っているものすべてに○)

1. 清瀬市子ども家庭支援センター
2. 清瀬市教育相談室
3. いじめ悩み相談ホットライン
4. 小平児童相談所・虐待対応ダイヤル「189」
5. 相談ほっとLINE@東京
6. 親子のための相談LINE
7. 4152（よいこに）電話相談（東京都）
8. すべて知らない

問11 住みやすい清瀬になるために、あったらよいと思うものをすべて選んでください。
(あてはまるものすべてに○)

1. 放課後、宿題や勉強をみてる^{ほう か ご しゅくごだい べんぎょう}ところ
2. 子どもが思い^{こ おも}思い^{おも おも}に過^すごせるところ
3. 困^{こま}ったことがあったときに、学校以外^{がっこういがい}で相談^{そうだん}ができる^たところ
4. 家族^{かぞく}がいないときに、大人^{おとな}やほかの人^{ひと}と一緒^{いっしょ}に過^すごせるところ
5. 放課後、ほかの子^こどもと一緒^{いっしょ}に安^{やす}くご飯^{はん}が食^たべられるところ
6. 顔見知り^{か おみしり}がいるところ
7. 卒業後^{そつぎょうご}も相談^{そうだん}できる^たところ
8. その他 (_____)
9. 特^{とく}にない

問12 最後に、清瀬市でみんなが「安心」して楽しく暮らすために、あなたが出来るようなことは何だと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

1. みんなにあいさつや声^{こゑ}かけをする
2. 困^{こま}っている人がいたら、声^{こゑ}をかけたり助^{たす}けてあげる
3. 地^ち域^{いき}のあつまりや行^{ぎょうじ}事^じによく参^{さん}加^かする
4. 地^ち域^{いき}の人とおしゃべりしたり遊^{あそ}んだりする
5. 地^ち域^{いき}の人みんなと仲良^{なかよ}くする
6. その他（ ）

きょうりよく
ご協力、ありがとうございました。

ご回答いただいたアンケート票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、11月25日（火）までに
お近くの郵便ポストへ入れてください。

清瀬市地域福祉計画・清瀬市民地域福祉活動計画策定に向けた調査報告書

令和8年3月

清 瀬 市

発 行

清瀬市 福祉子ども部 福祉総務課

〒204-8511 清瀬市中里5丁目842番地

TEL 042-492-5111（代表）
